FXCM LISTED NYSE

mt4

FXCM MetaTrader 4 取扱説明書

FXCM ジャパン証券株式会社
第一種・第二種金融商品取引業
登録番号:関東財務局長 (金商) 第1718号
商品先物取引業　経済産業省および農林水産省許可
加入協会:
日本証券業協会 / 一般社団法人 金融先物取引業協会 /
日本商品先物取引協会

2012.2

FXCM Inc., a publicly traded company listed on the New York Stock Exchange (NYSE: FXCM), is a holding company and its sole asse t is a controlling equity interest in FXCM Holdings, LLC. FXCM Japan Securities Co., Ltd. is an indirect operating subsidiary of FXCM Holdings, LLC. All references on this site to "FXCM" ref er to FXCM Inc. and its consolidated subsidiaries, including FXCM Holdings, LLC and FXCM Japan Securities Co., Ltd.

目次

1 FXCM Meta Trader4 の基礎知識 5

1-1 FXCM MetaTrader 4 のインストール 8

1-2 取引口座（リアル口座）とデモ口座の使い方 17

1-2-1 取引口座にログイン 17

1-2-2 デモ口座にログイン 18

1-3 FXCM MetaTrader 4 のインタフェース 20

1-4 チャート画面ウィンドウ 22

1-5 気配値表示ウィンドウ 26

1-6 ナビゲーターウィンドウ 29

1-7 ターミナルウィンドウ 32

1-8 ツールバー 34

1-9 FXCM MetaTrader 4 のアンインストール方法 36

2 FXCM MetaTrader 4 で実際に取引を行う 39

2-1 成行注文 42

2-1-1 注文したポジションの指値変更、取消 45

2-2 指値注文 46

2-3 逆指値注文 50

2-4 ストップロス（決済逆指値） 54

2-5 3種類の基本チャート 57

2-6 タイムフレームを変更する 59

2-7 チャートをカスタマイズする 61

2-8 アラームを設定する 64

2-9 定型チャートを利用する 66

2-9-1 定型チャートの挿入 67

2-10 その他のチャートウィンドウ設定 71

2-10-1 ズームイン・ズームアウト 71

2-10-2 チャートを印刷・保存する 72

3 ファイルメニュー 74

3-1 チャート管理 74
3-1-1 新規チャートの作成 74
3-1-2 オフラインチャートで過去のデータを閲覧 76
3-1-3 チャートの再表示 77
3-1-4 チャートの組表示 78
3-1-5 その他のチャートメニュー 79
3-2 デモ口座の申請・ログイン 81
3-3 印刷設定 82
3-3-1 プリンターの設定 83
3-3-2 印刷のプレビュー 84
3-3-3 印刷 85
4 表示メニュー 86
4-1 ツールバーのカスタマイズ 86
4-2 Strategy Testerを利用する 89
4-3 データウィンドウ 97
5 挿入メニュー 100
5-1 罫線分析ツール 100
5-1-1 「Trend」メニュー 101
5-1-2 「Oscillators」メニュー 105
5-1-3 「Volumes」メニュー 112
5-1-4 「Bill Willams」メニュー 114
5-1-5 「カスタム」メニュー 118
5-2 ラインメニュー 129
5-3 チャネルメニュー 132
5-4 ギャンメニュー 135
5-5 フィボナッチメニュー 138
5-6 図形メニュー 141
5-7 矢印類メニュー 145
5-8 アンドリューズ・ピッチフォーク 149
5-9 サイクル・ライン 152

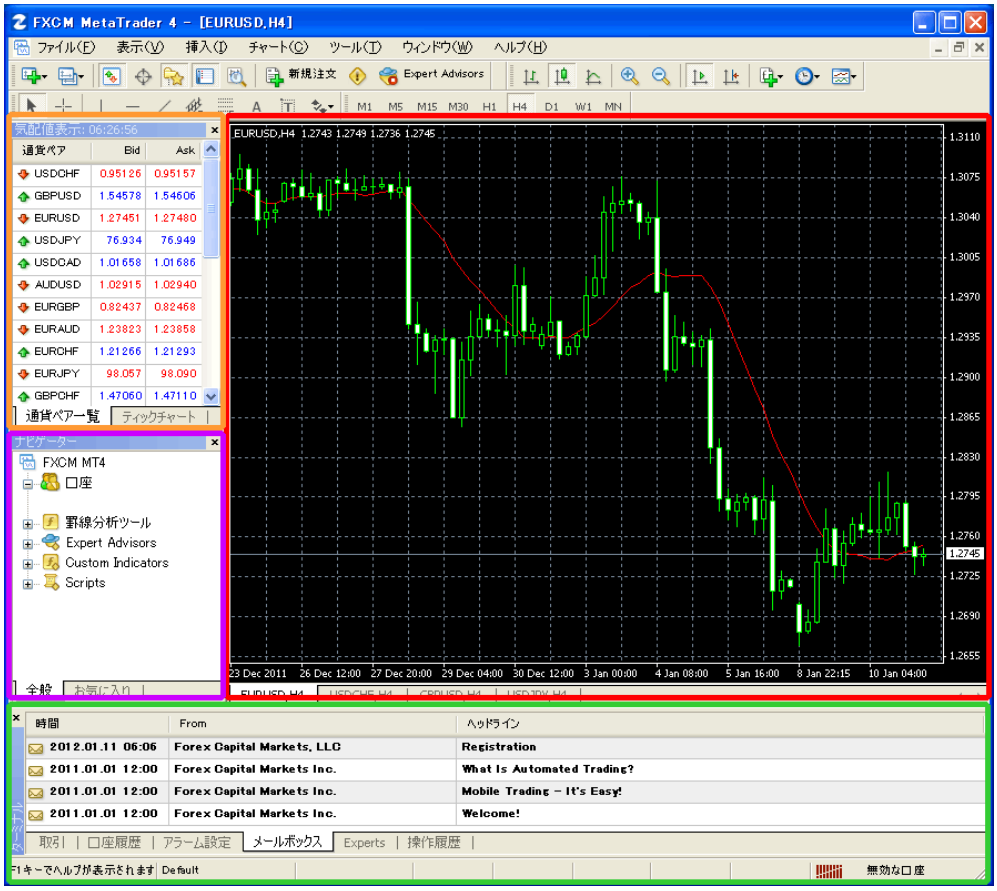
5-１０ テキスト 154
5-１１ テキストラベル 156
６ ツールメニュー 158
6-1 ヒストリーセンター 158
6-2 Global Variables 164
6-3 Meta Quotes Language Editor 167
6-4 オプション 170
6-4-1 FXCM MetaTrader4 から、Microsoft excelへのリアルタイムエクスポート 175
７ Expert Advisor テスターウィンドウと稼動／停止 176

1　FXCM Meta Trader4 の基礎知識

「MetaTrader 4」は、ロシアの MetaQuotes Software 社が開発した外国為替証拠金取引（FX）を行うためのクライアントソフトです。このソフトはインターネットが利用できる環境であれば 24 時間いつでもマーケット情報を入手し、実際に取引を行うことが可能です。

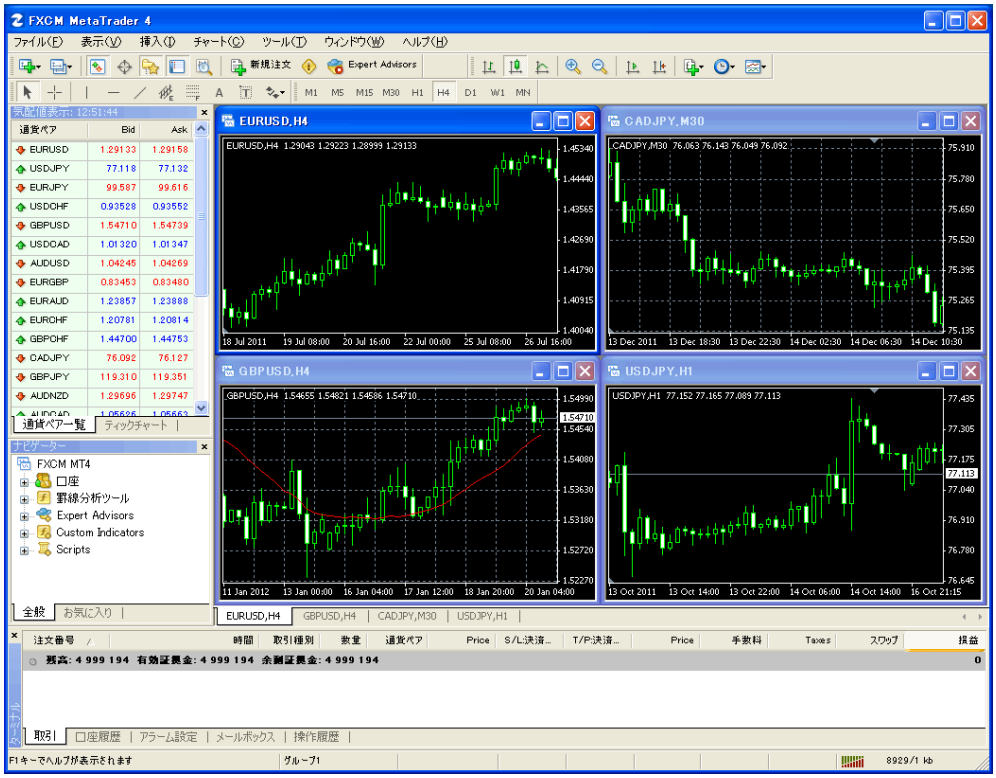
MetaTrader 4 の大きな魅力は、初めて取引を行う人でも簡単に高機能なチャート分析が利用可能であることです。MetaTrader 4 には、バーチャート、ロウソク足、ラインチャートといった基本的な 3 種類のチャートに加え、移動平均、RSI、ボリンジャーバンドなど 50 種類以上もあるテクニカル指標を手軽に利用することが可能です。さらに、独自のテクニカル指標をプログラムする機能「MetaEditor」を搭載しています。

・MetaTrader 4 のメイン画面



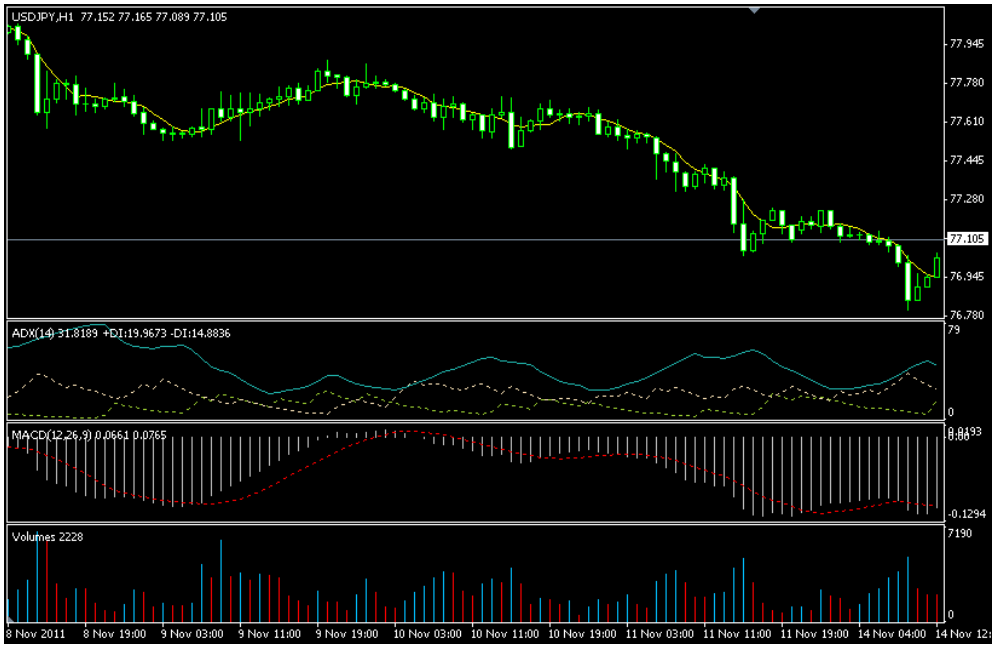
MetaTrader 4 のメイン画面は、右上のチャートウィンドウ、左上の気配値表示ウィンドウ、左下のナビゲーターウィンドウ、下部のターミナルウィンドウで構成されています。

・複数のチャートを同時表示



チャートウィンドウは分割して表示することが可能です。複数の取引を行う際に便利です。

・豊富なテクニカル指標

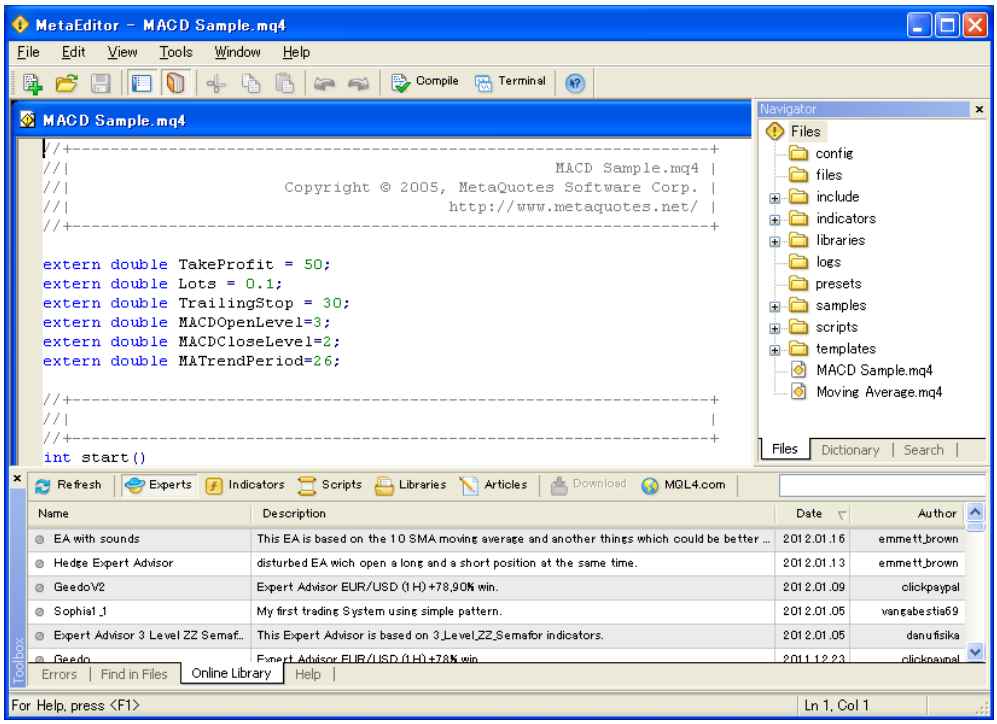


移動平均、RSI、ボリンジャーバンドなど 50 種類以上ものテクニカル指標を利用可能です。また、テクニカル指標はご自身で作成頂くことも可能です。

・全通貨ペアの表示

気配値表示ウィンドウでは、全通貨の動きをリアルタイムで確認したり、表示する通貨を指定することも可能です。

・MetaEditor で独自の指標をプログラム


MetaEditor - MACD Sample.mq4
File Edit View Tools Window Help
Compile Terminal
MACD Sample.mq4
//| MACD Sample.mq4 |
//| Copyright © 2005, MetaQuotes Software Corp. |
//| http://www.metaquotes.net/ |
extern double TakeProfit = 50;
extern double Lots = 0.1;
extern double TrailingStop = 30;
extern double MACDOpenLevel=3;
extern double MACDCloseLevel=2;
extern double MATrendPeriod=26;
int start()
Navigator
Files
config
files
include
indicators
libraries
logs
presets
samples
scripts
templates
MACD Sample.mq4
Moving Average.mq4
Files Dictionary Search
Refresh Experts Indicators Scripts Libraries Articles Download MQL4.com
Name Description Date Author
EA with sounds This EA is based on the 10 SMA moving average and another things which could be better ... 2012.01.16 emmett_brown
Hedge Expert Advisor disturbed EA wich open a long and a short position at the same time. 2012.01.13 emmett_brown
GeedoV2 Expert Advisor EUR/USD (1H) +78,90% win. 2012.01.09 clickpaypal
Sophia1_1 My first trading System using simple pattern. 2012.01.05 vangabestia69
Expert Advisor 3 Level ZZ Semaf... This Expert Advisor is based on 3_Level_ZZ_Semafor indicators. 2012.01.05 danufisika
Errors Find in Files Online Library Help
For Help, press <F1>
Ln 1, Col 1

MetaTrader 4 には「MQL4」というプログラミング言語を使った独自のテクニカル指標を作成・表示させる機能が搭載されています。

1－1　FXCM MetaTrader 4 のインストール

MetaTrader 4 をダウンロードしてインストールします。

下記 URL の「新しい MT4 のダウンロードはこちらから」というリンクより、

MT4 のダウンロードができます

FXCM Meta Trader 4 ダウンロードページ

==========

http://www.fxcm.co.jp/support/new_mt4.html

==========

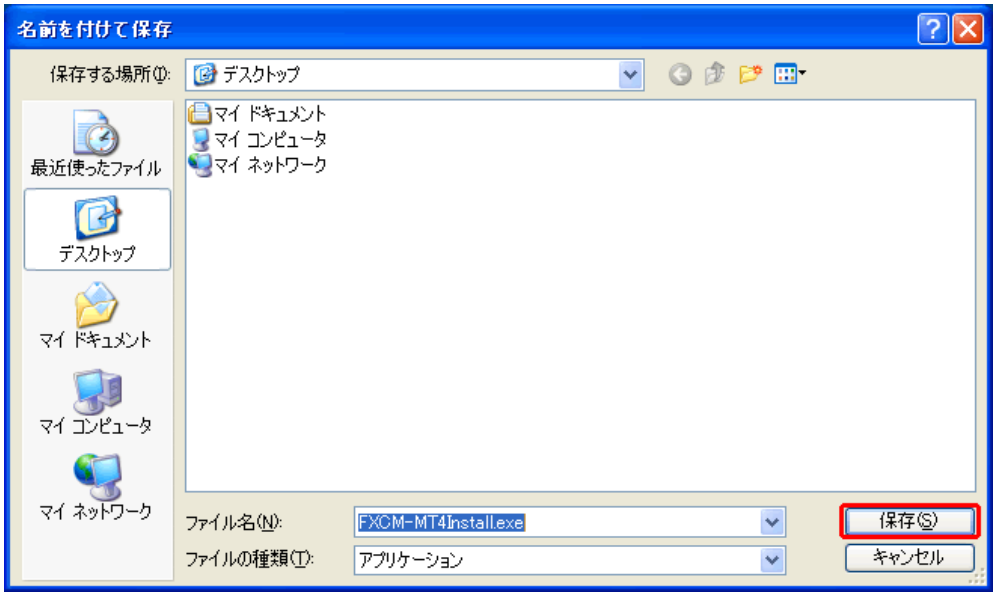
1）FXCM Meta Trader 4 ダウンロードページへ

公式サイト（http://www.fxcm.co.jp/）右列のリンクからもダウンロードページにいけます。

2）ファイルのダウンロード

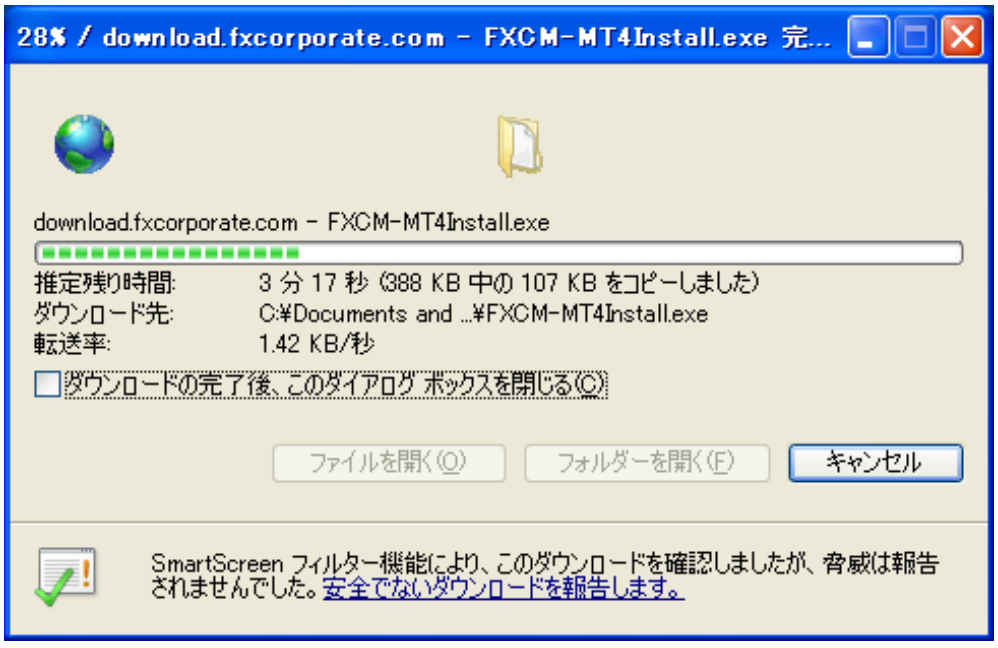
「ファイルのダウンロード」画面から「保存」を選択します。

3）保存場所を指定



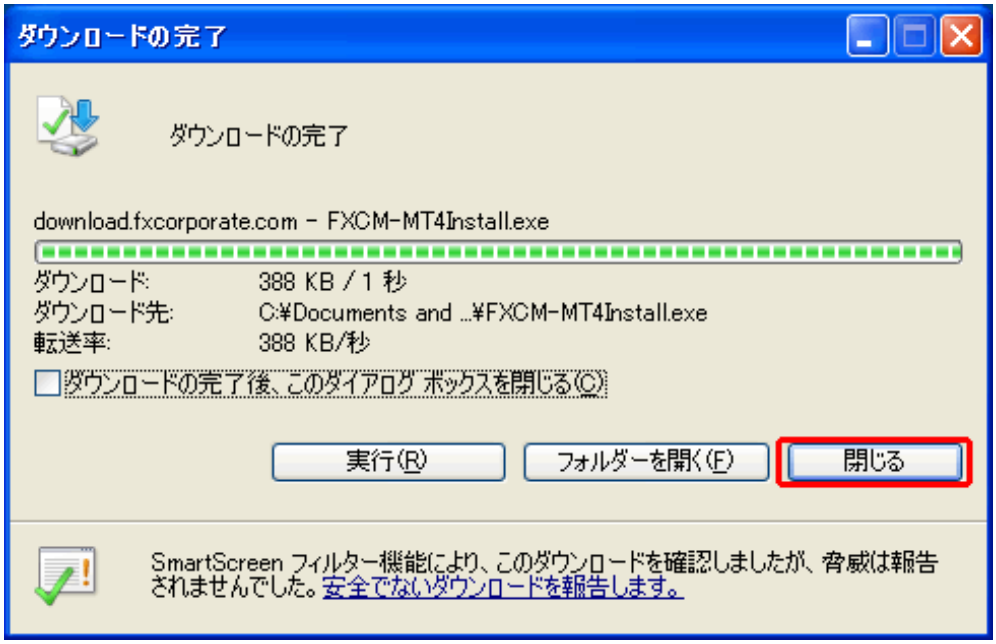
「名前を付けて保存」画面で、プログラムファイルの保存場所を指定して「保存」をクリックします。

6）ダウンロード開始



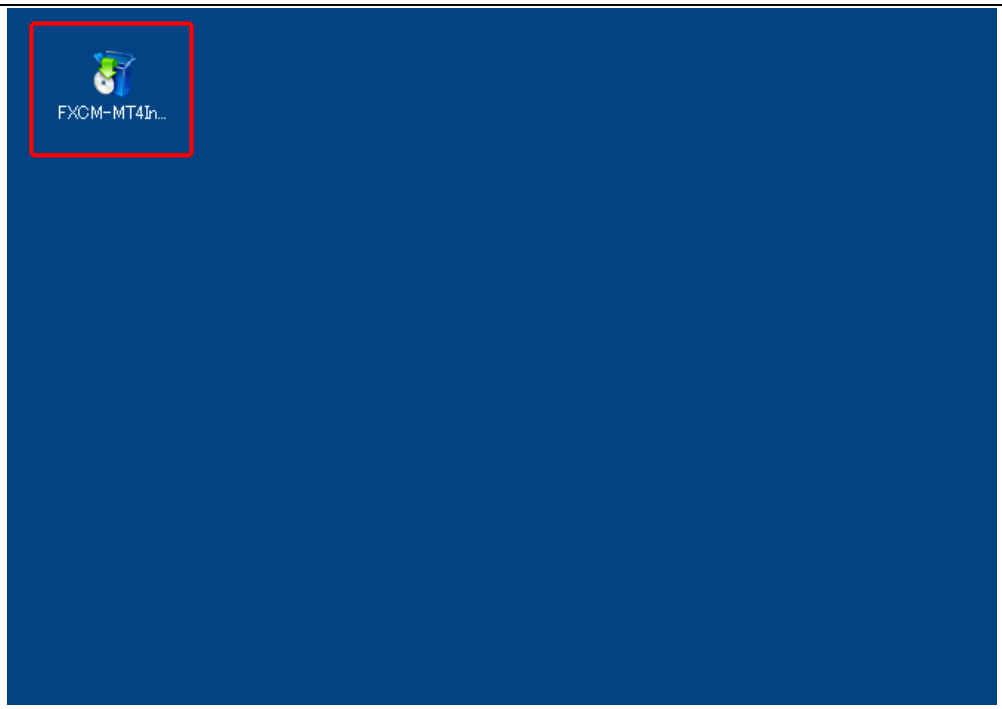
ダウンロードが完了するまで、しばらくお待ちください。

7）ダウンロード完了



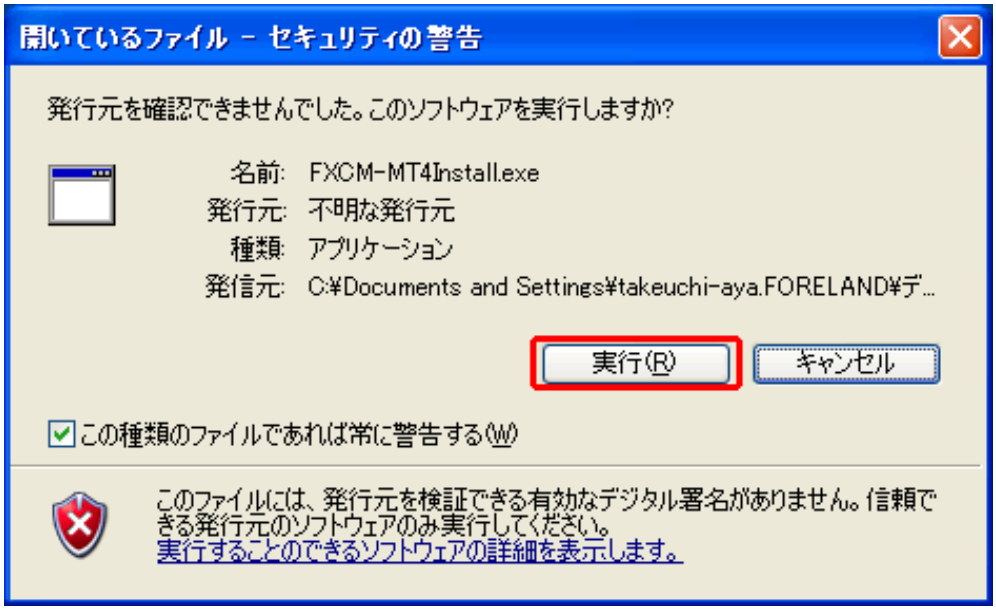
ダウンロード完了画面が表示されます。「閉じる」をクリックして完了画面を閉じます。

8）インストール開始



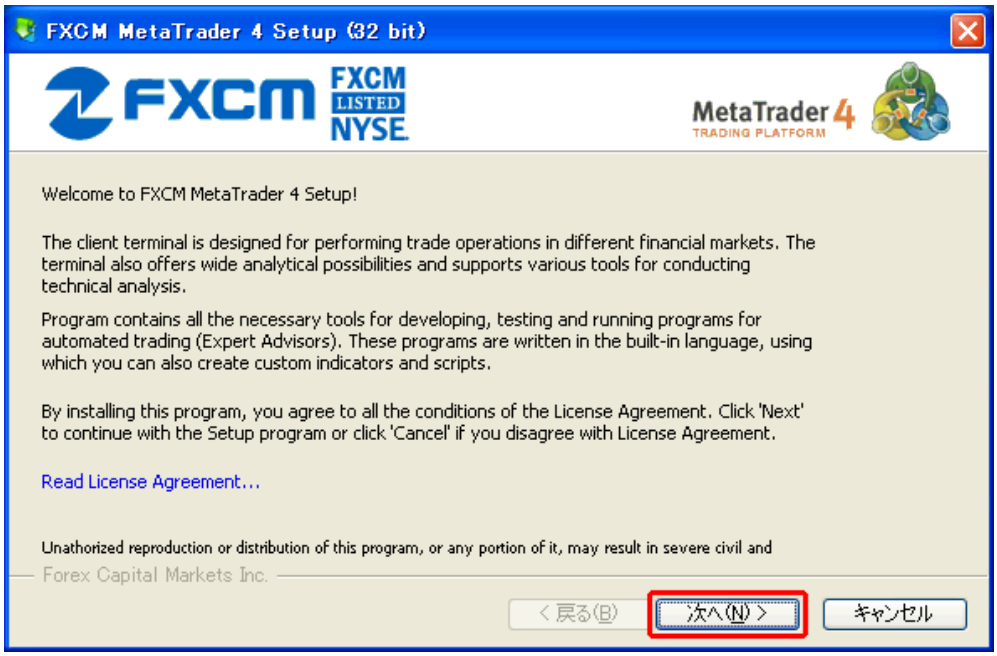
保存した「FXCM-MT4Install.exe」をダブルクリックすると、インストールが開始されます。

９）インストールの実行確認



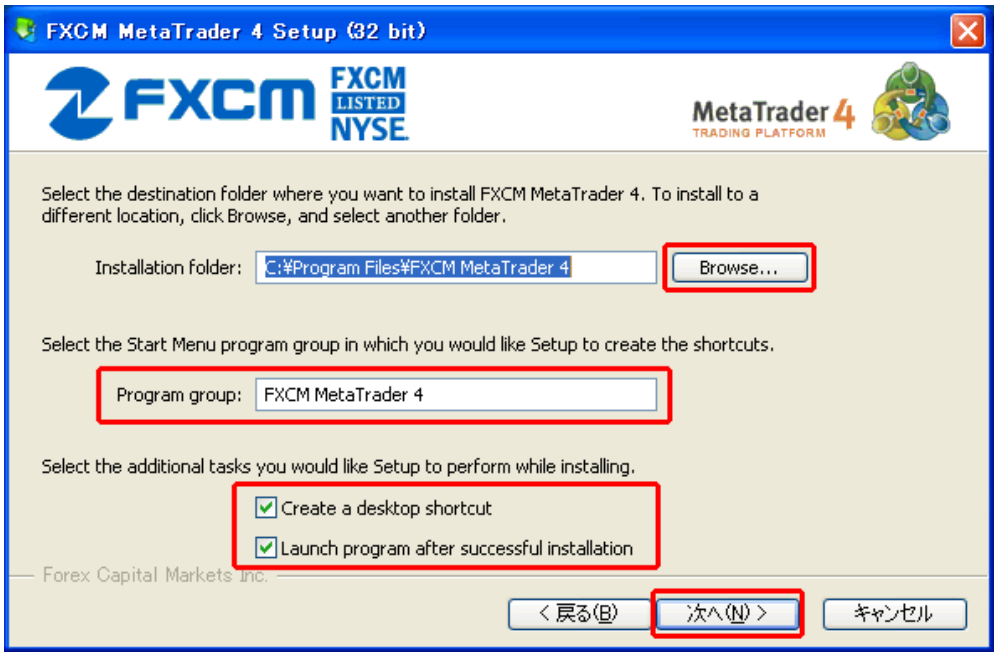
実行確認画面で「実行」を選択します。

１０）セットアップの開始



「次へ」を選択すると、セットアップ画面に進みます。

１１）セットアップ

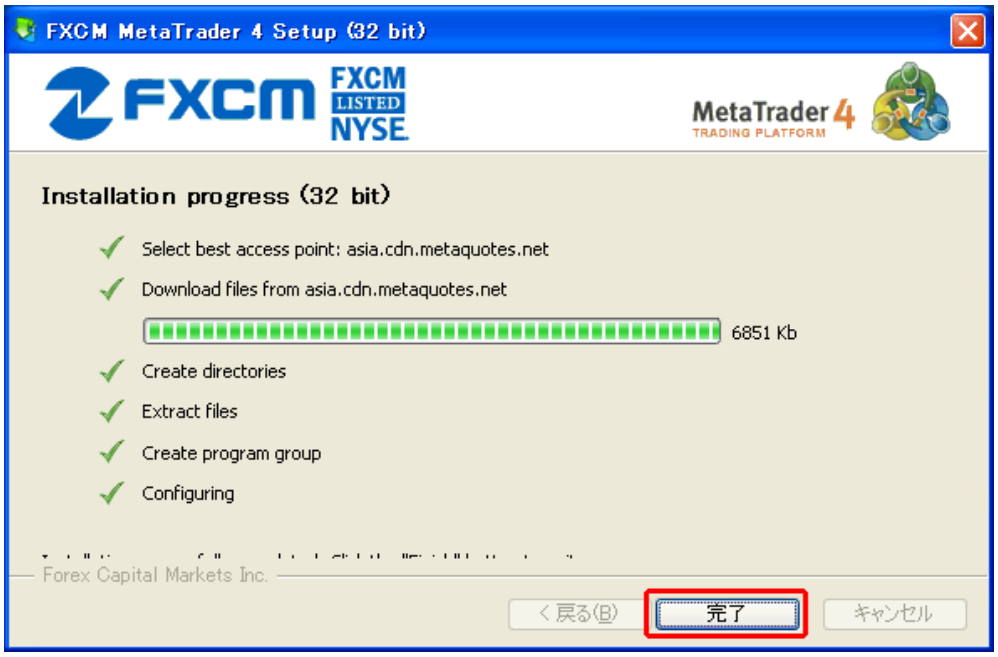


インストール先フォルダ、スタートメニュー、デスクトップへのショートカット作成やインストール完了後の MT4 起動の可否をそれぞれ設定し、「次へ」を選択します。

１２）インストール中

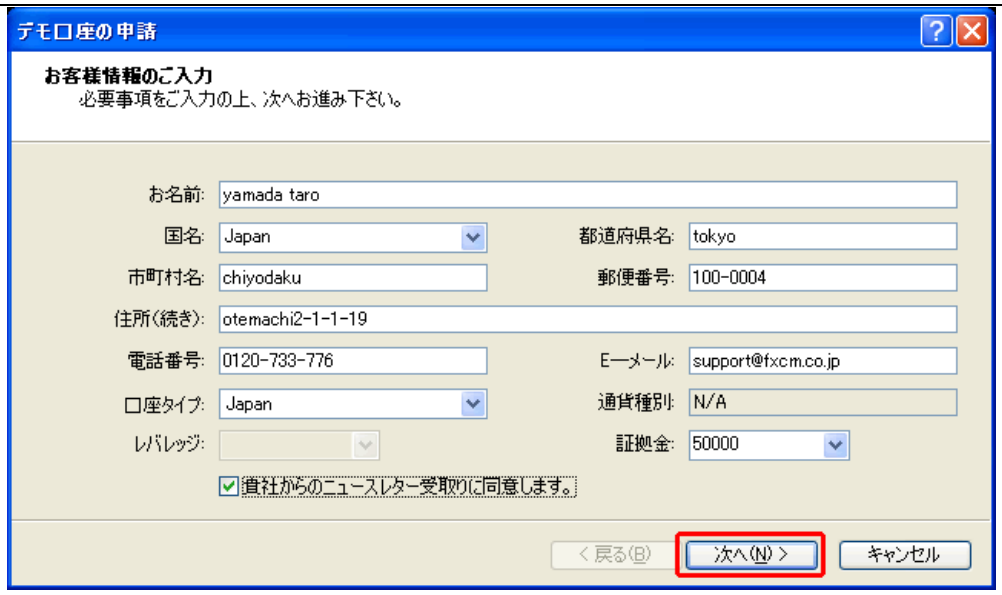
インストールが完了するまでしばらくお待ちください。

１３）インストール完了



インストールが完了しました。「完了」を選択します。既に口座開設がお済みの方は、「デモ口座の申請」は「キャンセル」し、実際に MT4 を立ち上げてログインします(後述)。

１４）デモ口座の申請



デモ口座の申請画面です。各テキストボックスに必要事項を入力します。入力か完了したら「次へ」をクリックします。既に口座を開設している場合は「キャンセル」をクリックしウィンドウを閉じても問題ありません

・お名前：お客様の名前をフルネームで入力します。英語、日本語どちらでも問題ありません

・国名：お住まい国名をプルダウンメニューから選択します

・都道府県：お住まい都道府県名を入力します

・市町村名：お住まい市町村名を入力します

・郵便番号：お住まい住所の郵便番号を入力します

・住所：市町村名の後に続く住所をすべて入力します

・電話番号：連絡をするための電話番号を入力します

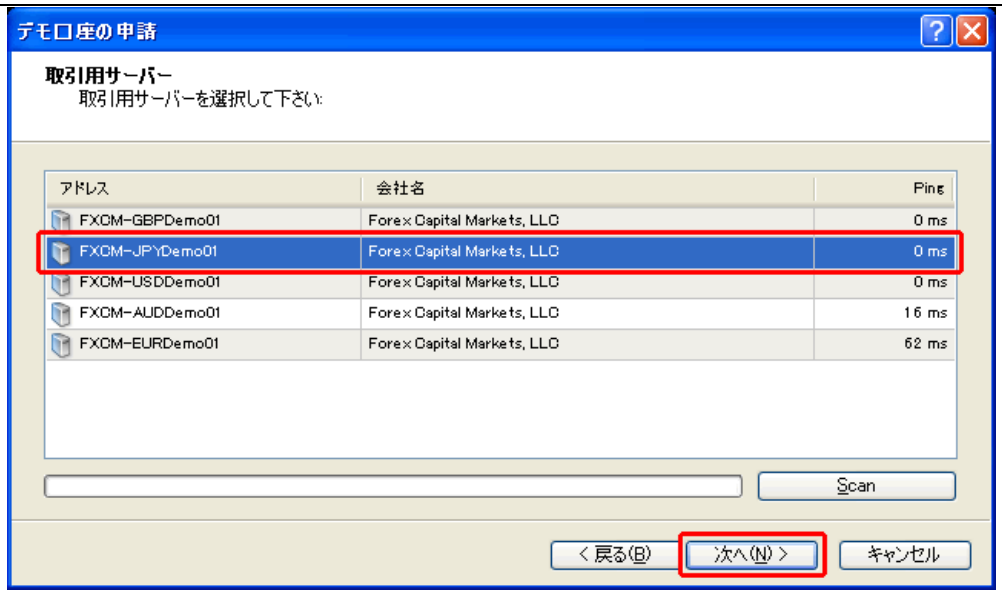
・E メール：連絡をするためのメールアドレスを入力します

・口座タイプ：日本円にするときは Japan を選択します

・証拠金：デモ口座に入金する金額を指定します

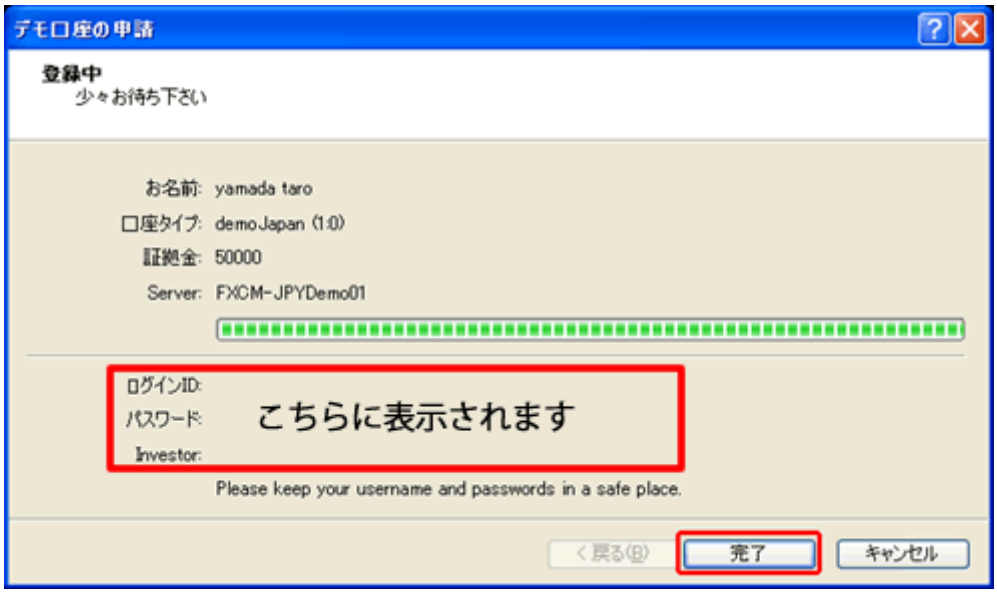
・貴社からのニュース受取りに同意します。：FXCM ジャパン証券からのニュースレター配信に同意します。同意頂ける場合はチェックボックスにチェックを入れます。チェックを入れることで「次へ」アイコンがクリック可能になります。

１５）サーバーの選択



基本的には、「FXCM-JPYDemo01」を選択し、「次へ」をクリックします。

１６）デモ口座開設完了



デモ口座で利用するユーザー名とパスワードが表示されます。忘れないようメモなどに取っておいてください。申請が完了したら「完了」を選択し、画面を閉じます。

1-2　取引口座（リアル口座）とデモ口座の使い方

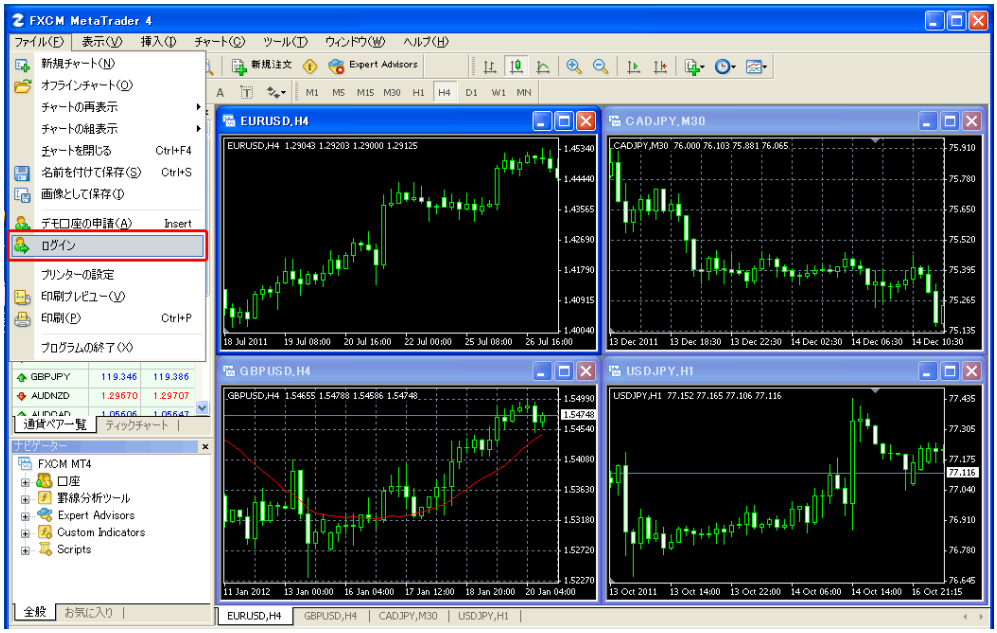
インストールした Meta Trader4 を起動します。

1-2-1　取引口座にログイン

1）MetaTrader 4 を起動

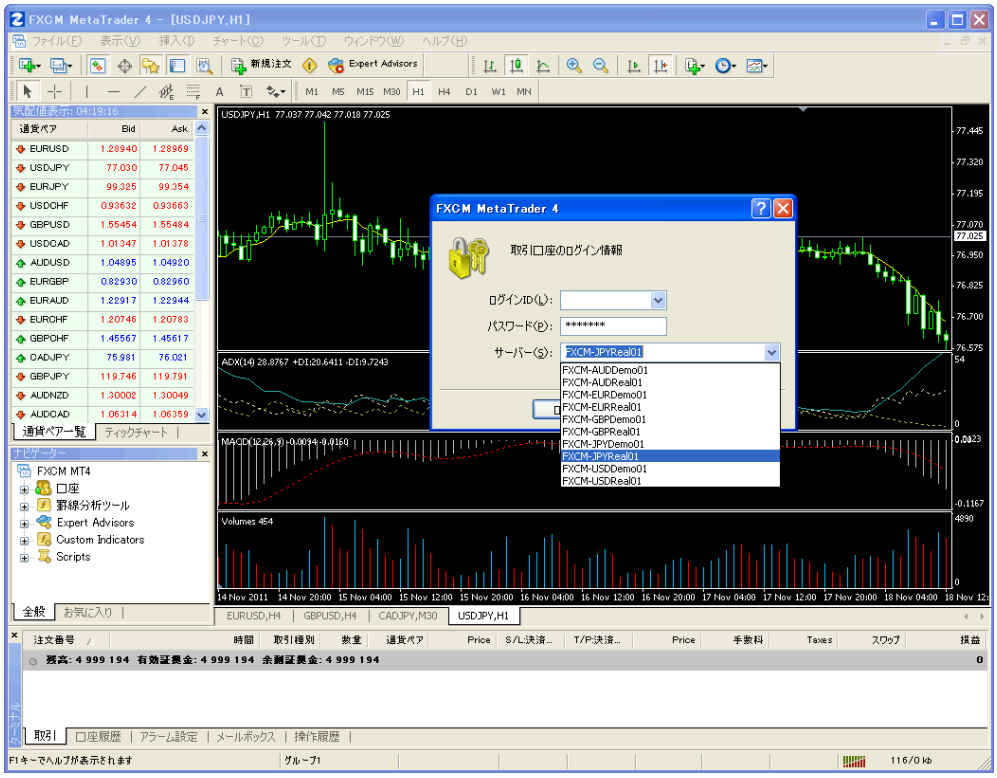
インストールした Meta Trader4 を起動します。

2）ファイルタブから「ログイン」を選択



Meta Trader4 が起動されたら、メニューバーの「ファイル」から「ログイン」を選択します。

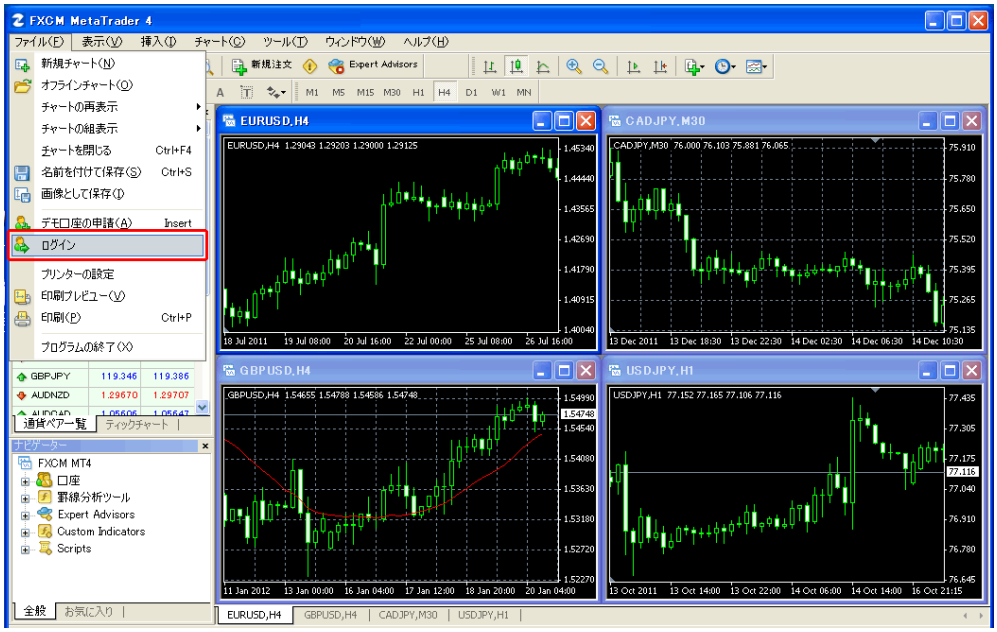
3）ログイン画面



開設口座の「ログイン ID」「パスワード」を入力し、サーバーは「FXCM-JPYReal01」を選択し、「ログイン」ボタンから、ログインします。

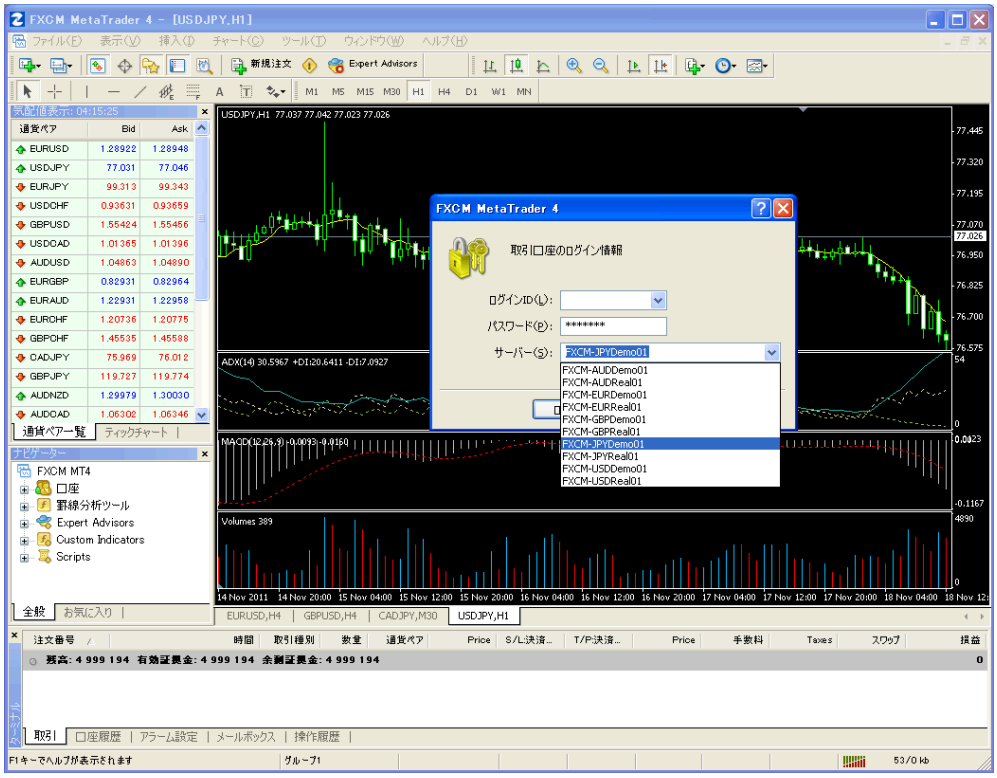
1-2-2　デモ口座にログイン

1）MetaTrader 4 を起動



Meta Trader4 を起動し、ログイン画面を開きます。

2）ログイン画面



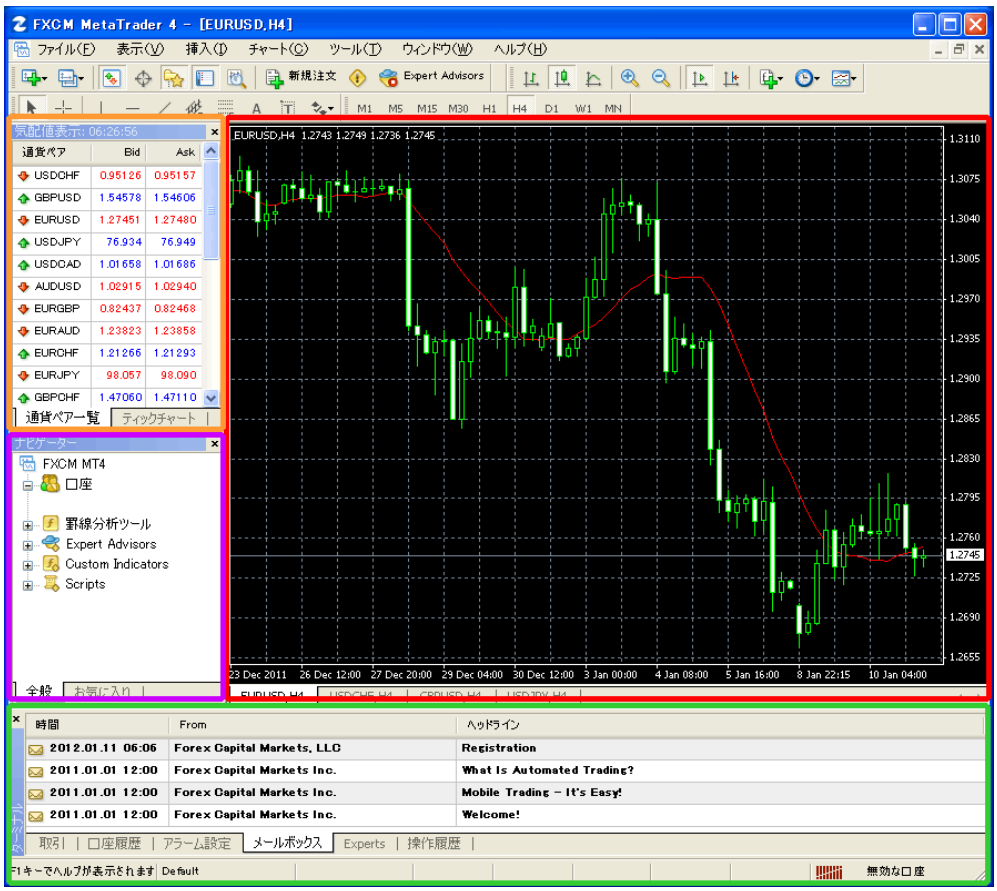
デモ口座の「ログイン ID」「パスワード」を入力し、サーバーは「FXCM-JPYDemo01」を選択し、「ログイン」ボタンから、ログインします。

1-3　FXCM MetaTrader 4 のインタフェース

MetaTrader 4 のインストール、および口座のログインが完了すると、初期の状態では下の画面のようなインタフェースが表示されます。

MetaTrader 4 では、右上にある「チャートウィンドウ」、左上にある「気配値表示ウィンドウ」、左下にある「ナビゲーターウィンドウ」、下部にある「ターミナルウィンドウ」の 4 種類のウィンドウを操作して取引を行います。各種ウィンドウの使い方の詳細は、後ページで紹介します。ここでは各種ウィンドウの役割について簡単に解説します。

各種ウィンドウは、表示・非表示の設定が自由に行えます。変更はメニューバーの「表示」タブを開き、表示したいウィンドウにはチェックを入れ、非表示にしたいウィンドウからはチェックを外します。「表示」タブではその他に、初期の状態では非表示になっている「データウィンドウ」や「Strategy Tester ウィンドウ」も扱うことが可能です。



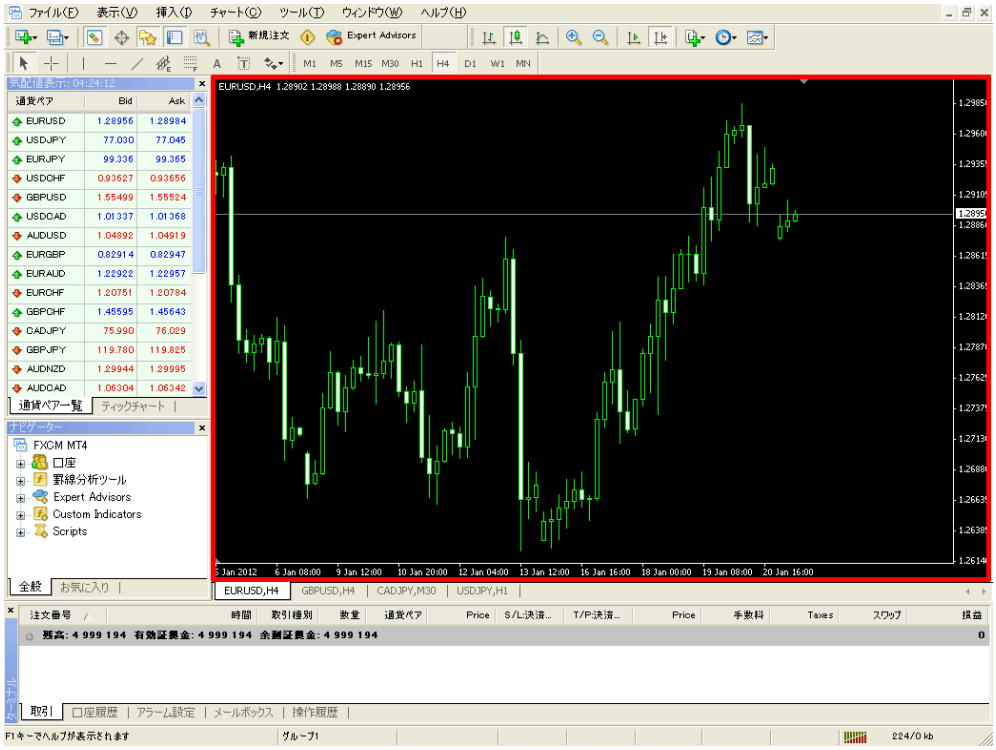
■気配値表示ウィンドウ

■ナビゲーターウィンドウ

■チャートウィンドウ

■ターミナルウィンドウ

1）チャートウィンドウ



画面の右上、ほぼ中央にある大きなウィンドウがチャートウィンドウです。現在の為替レートの動きや過去のレートの動きがチャートで表示されます。

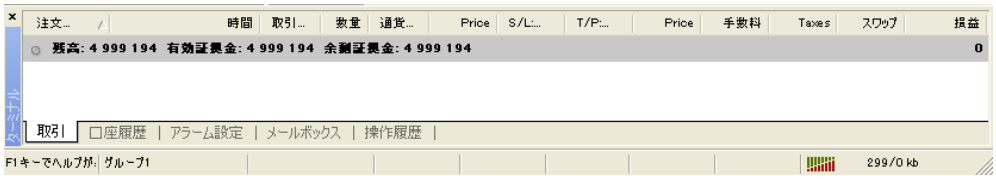
2）気配値表示ウィンドウ

左上にある、数字が記載されたウィンドウが気配値表示ウィンドウです。現在の各通貨ペアの売値と買値のレートが一覧で確認できます。

3）ナビゲーターウィンドウ

左下にあるウィンドウがナビゲーターウィンドウです。口座アカウントや、罫線分析ツール、システム売買プログラムなどに、容易にアクセス可能です。

4）ターミナルウィンドウ



下部にある横に長く伸びたウィンドウがターミナルウィンドウです。現在取引しているポジションの管理、口座履歴、操作履歴などの確認が行えます。

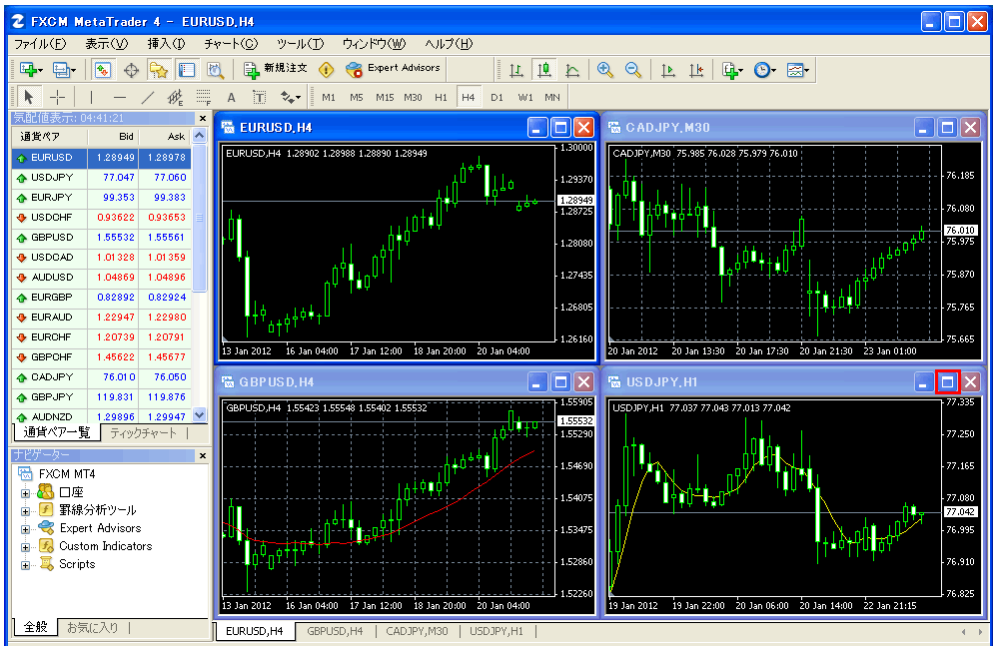
1-4　チャート画面ウィンドウ

チャートとは、過去のレートの動きを図に示したものです。取引中は、このチャートを利用することで現在の為替相場の勢い、流れを視覚的に把握することが可能になります。一般にチャートは売買のタイミングを決定するために利用され、過去の為替動向の分析から、未来の為替の動きを予測します。

また、MetaTrader 4 では、複数の為替チャートを同時に開くことが可能です。それぞれのチャートはタブで管理し、チャートウィンドウを分割して、複数のチャートを一斉表示することも可能です。タブの切り替えを頻繁に行う場合は、ウィンドウを分割表示する方法もあります。

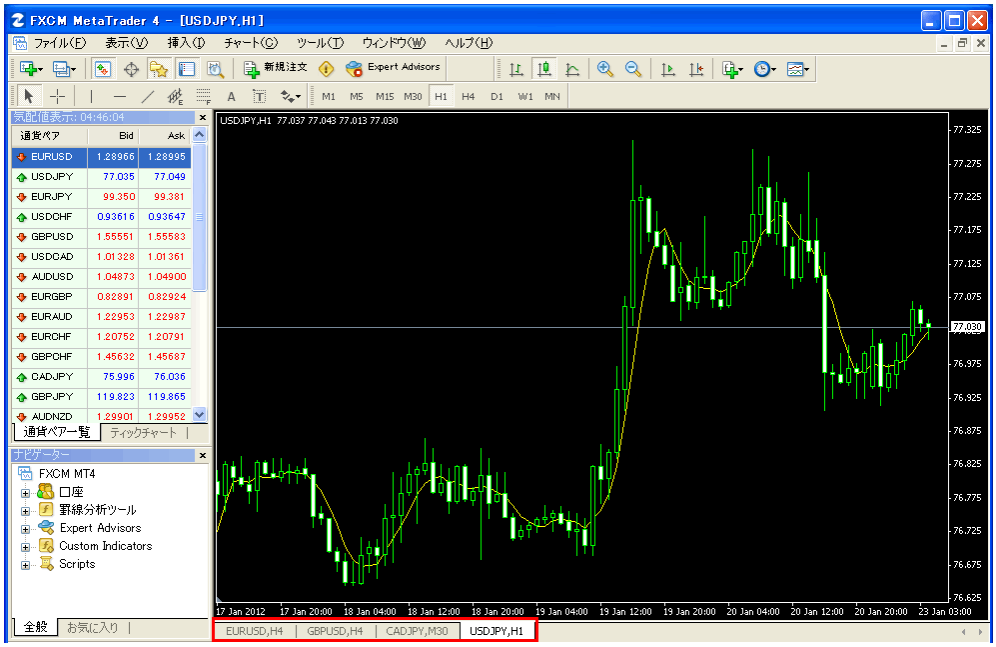
MetaTrader 4 のチャートは、ただ閲覧するだけでなく、テキストやラベル、トレンドラインなどを挿入することも可能で、用意されているテクニカル指標を導入して詳細な分析表示を行うことも可能です。

1）初期の状態のチャートウィンドウ



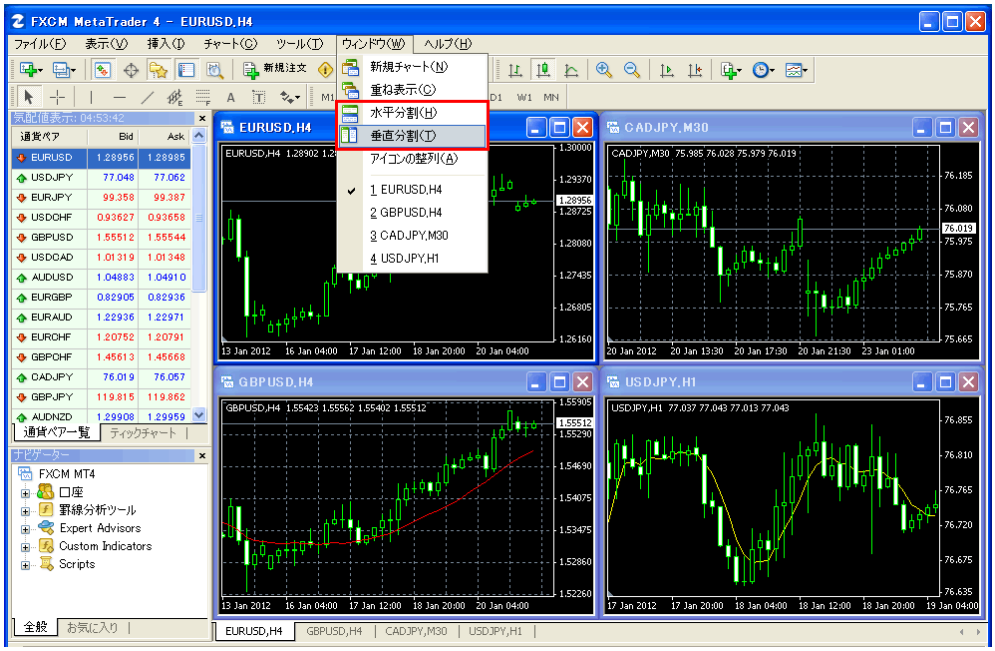
MetaTrader 4 を初めて起動した際のウィンドウは 4 分割されています。特定のウィンドウを最大化する場合は最大化アイコンをクリックします。

2）チャートを最大化



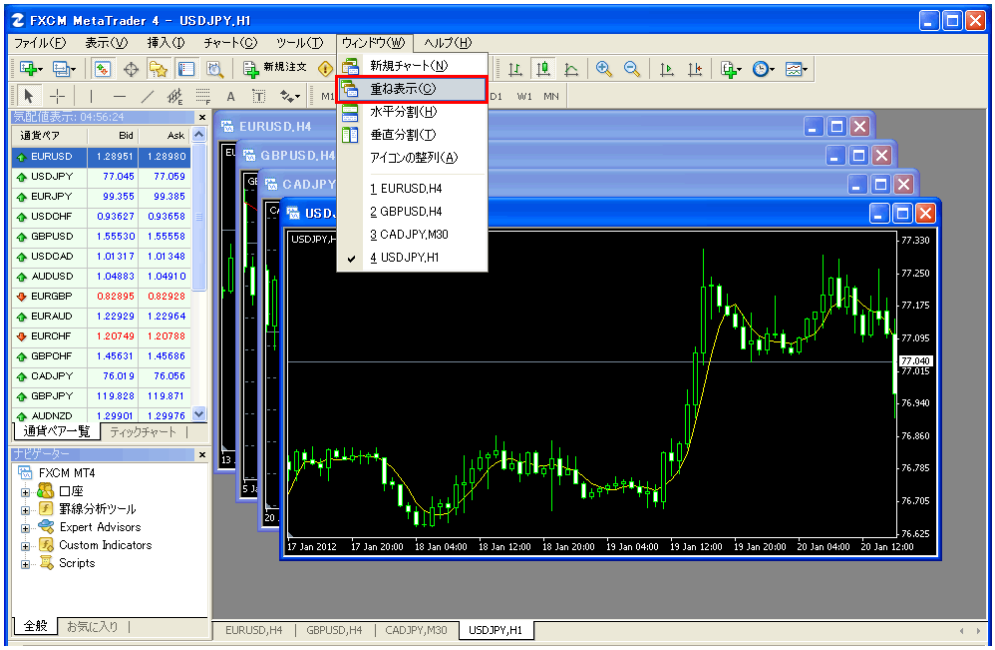
チャートが最大化されました。他のウィンドウは、チャート下部に並んでいるタブから目的のチャートのタブをクリックすると切り替わります。

・ウィンドウを分割



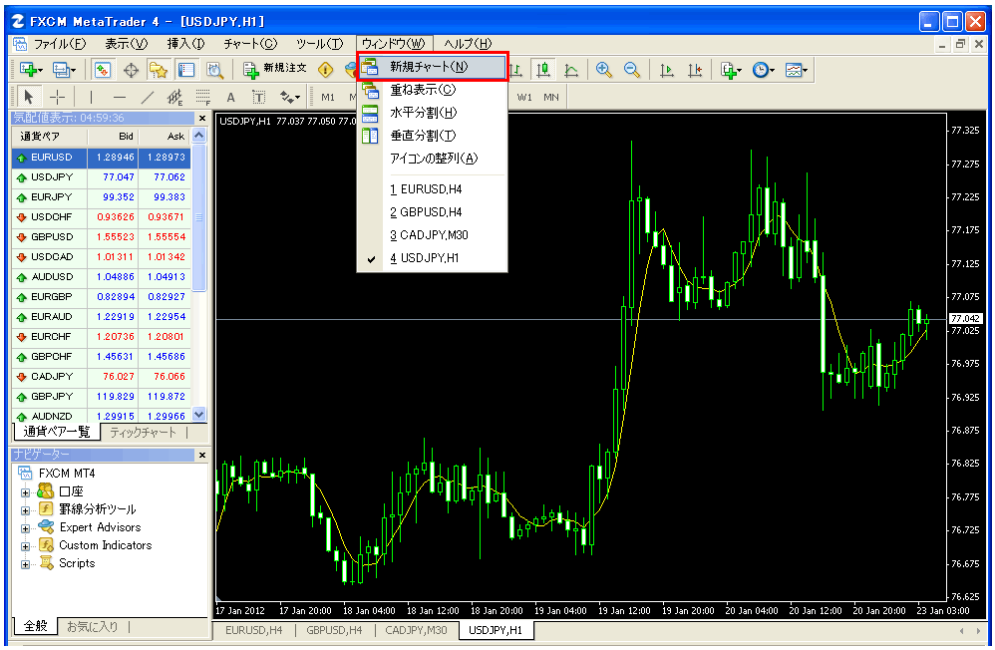
ウィンドウを分割して表示する場合は、メニューバーの「ウィンドウ」タブから「水平分割」、「垂直分割」のどちらかを選択します。

・ウィンドウを重ね表示



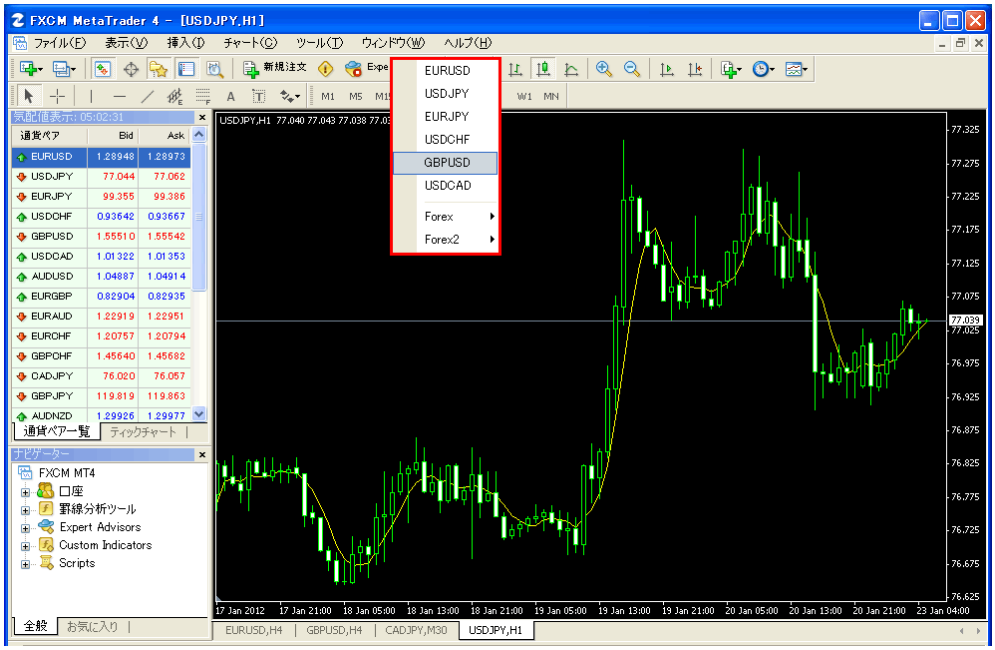
ウィンドウを重ねて表示する場合は、メニューバーの「ウィンドウ」タブから「重ね表示」を選択します。

・新規チャートの作成



新しいチャートウィンドウの作成も可能です。メニューバーの「ウィンドウ」タブから「新規チャート」を選択します。

・通貨ペアを選択



通貨ペアが表示されたら、目的の通貨ペアのチャートを選択します。

1-5　気配値表示ウィンドウ

気配値表示ウィンドウは、各通貨ペアの売値と買値の現在のレートを表示するウィンドウです。

「通貨ペアー覧」では、取引の基準となる通貨ペアのレートを表示します。MetaTrader 4 で表示される気配値は、リアルタイムで変化するのが特徴です。

気配値で表示される数値の色は、青と赤の 2 種類があります。基軸通貨を円（例：USDJPY）とした場合の現在のレートが、円安傾向になっている場合は赤色、円高傾向になっている場合は青色で表示されます。各通貨ペアをダブルクリックすると、ポジションの発注ウィンドウが表示されます。通貨ペアを並び替える場合は、通貨ペアを選択し、そのまま移動させたい場所にドラッグします。また、「Ask」とは買値、「Bid」とは売値のことを指します。

「ティックチャート」タブでは、提示レートが変わる度に更新されるティックチャートが確認できます。

1）通貨ペアー覧

気配値表示ウィンドウの下部にある「通貨ペアー覧」をクリックします。通貨ペアの現在のレートが一覧表示されます。

2）注文の発注ウィンドウ

「通貨ペアー覧」から取引したい通貨ペアをダブルクリックすると、注文の発注ウィンドウが表示されます。ポジションを保持する場合は、このウィンドウから注文します。

3）通貨ペアを移動

通貨ペアの位置を移動させたい場合は、通貨ペアを選択して任意の場所へドラッグします。

４）移動完了

この手順で、表示されている通貨ペアの順番を入れ替えることが可能です。

5）ティックチャート

「ティックチャート」タブを開くと、提示レートが変わるごとに表示するティックチャートが表示されます。表示する通貨ペアは「通貨ペアー覧」から指定します。

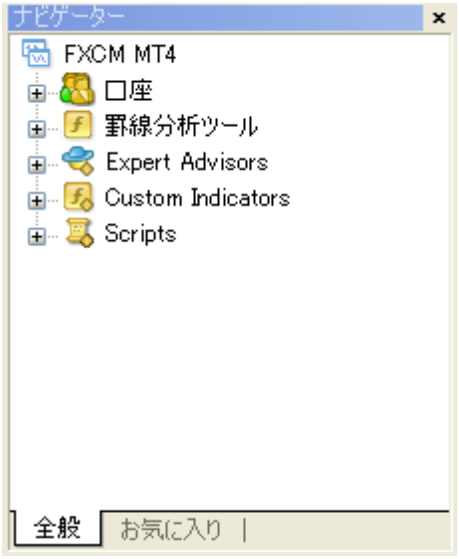
1-6　ナビゲーターウィンドウ

左下にあるナビゲーターウィンドウは、MetaTrader 4 で利用頻度の高いメニューを利用する際に便利な機能です。

ナビゲーターウィンドウ左下にある「全般」タブでは、「口座」、「罫線分析ツール（テクニカルチャート）」、「Expert Advisors（システム取引）」、「Custom Indicators（自作罫線分析ツール）」、「Scripts（システム売買プログラム）」の５つのコンテンツに簡単にアクセス可能です。各種コンテンツを実行する場合は、右クリックして目的のメニューを選択します。また、既存のアカウント口座と作成したデモ口座との切り替えや削除はここから行います。

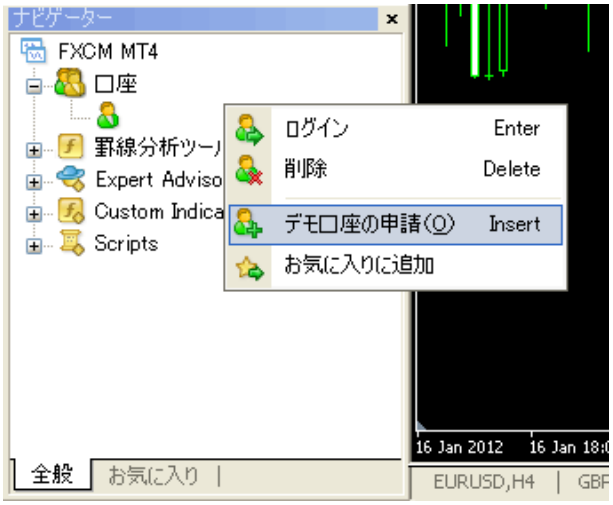
「お気に入り」タブでは、「全般」タブの中でよく利用するメニューを登録することで、より迅速に取引を行うことが可能です。お気に入りメニューへの登録は、登録したいメニューを右クリックして「お気に入りに追加」を選択します。

1）ナビゲーターウィンドウ



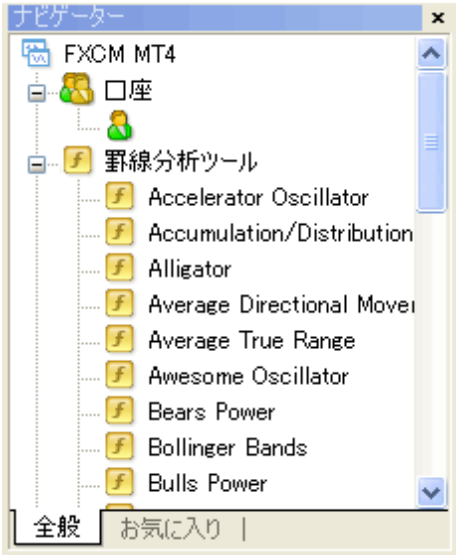
口座の管理を行う場合は、「口座」の左にある「＋」アイコンをクリックします。

2）右クリックメニューからメニューを選択



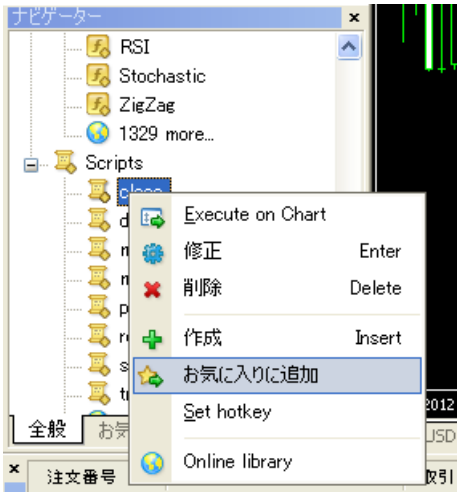
「＋」アイコンをクリックすると、メニューの詳細が表示されます。各種メニューを実行する場合は、右クリックして目的のメニューを選択します。

3）他のコンテンツを開く



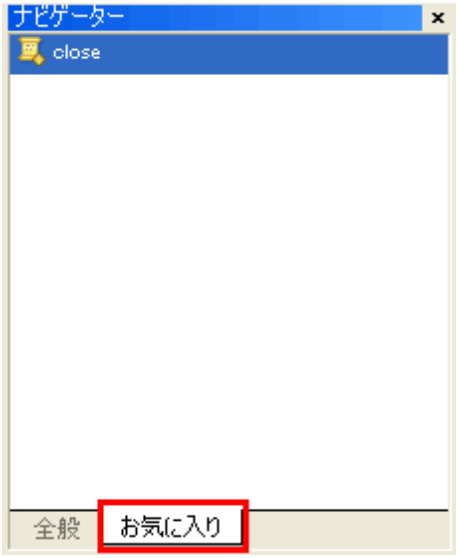
他のコンテンツも同様に、コンテンツ名の左にある「＋」アイコンをクリックするとメニューの詳細が表示されます。

4）お気に入りに登録



利用頻度の高いテクニカルチャートやスクリプトがある場合は、プログラム名を右クリックして「お気に入りに追加」を選択します。

5）お気に入りタブからアクセス



「全般」タブの横にある「お気に入り」タブを選択します。先ほど指定したプログラムが登録されています。また、お気に入りタブからの削除も、登録の際と同様に右クリックから選択可能です。

1-7　ターミナルウィンドウ

ターミナルウィンドウは、実際の取引に重要な作業に素早くアクセスするために作られたウィンドウです。具体的には、「取引」、「口座履歴」、「アラーム設定」、「メールボックス」、「操作履歴」の 5 つのコンテンツが用意されています。ターミナル画面下部に設置されているタブを切り替えることによって各種コンテンツを利用できます。ターミナルウィンドウは、「Ctrl」+「T」のキー、もしくはタイトルバーをダブルクリックすると最小化します。また、元に戻す際も同じ作業を行います。

特に利用頻度が高いのは、「取引」タブです。取引タブでは、実際に取引中のポジションの状況を把握することができます。リアルタイムでポジションの損益を計算してくれるので、チャートと合わせて常に確認出来ます。取引したポジションの決済を行うには、表示されているポジションを右クリックして「決済注文」を選択します。

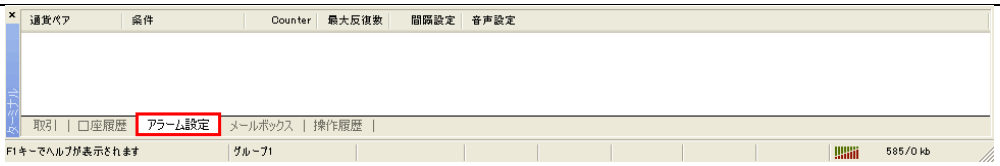
・取引タブ

未決済のポジションや予約注文をしているポジションの管理が行えます。また、すべての未決済ポジションの損益結果も表示されます。

・口座履歴タブ

過去に決済されたポジション履歴の一覧表示が可能です。初期状態では過去 1 ヶ月のポジション履歴が表示されます。

・アラーム設定タブ

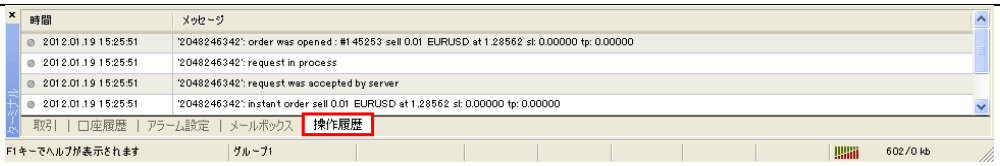


設定したアラームの管理が可能です。アラームの追加、修正、削除などが行えます。

・メールボックスタブ

MetTrader 4 に関するお知らせメールを受け取ることが可能です。

・操作履歴タブ



MetaTrader 4 上で行われた全操作の履歴が一覧表示されます。

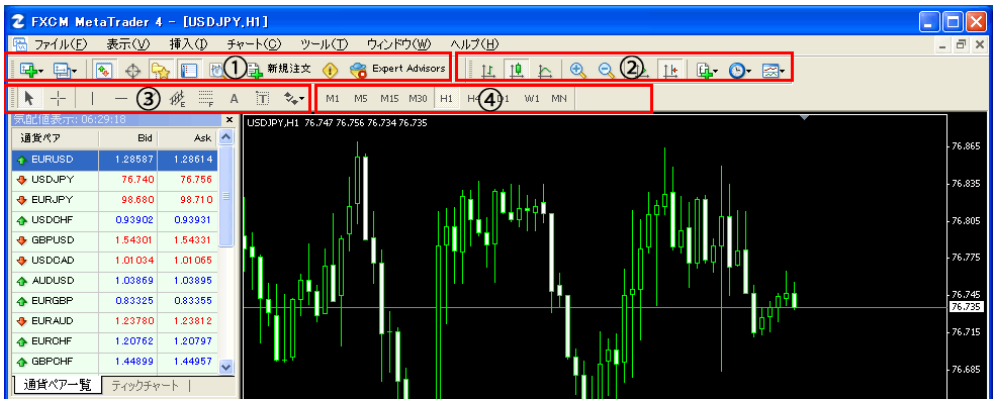
1-8　ツールバー

MetaTrader 4 のウィンドウ上部には、様々なアイコンが並んだツールバーが設置されています。アイコンをクリックすると、そのアイコンに対応したメニューを呼び出すことが可能です。

ツールバーは、初期状態では「標準」、「チャート」、「ライン等」、「周期設定」の 4 種類が表示されています。各種ツールバーは、メニューバーの「表示」→「ツールバー」から表示・非表示の設定が行えます。また、新たに自分でツールバーを作成して追加したり、現在表示されているツールバーをカスタマイズしたりすることも可能です。カスタマイズの詳細は他のページで解説します。

ここでは、初期状態で表示されているツールバーの簡単な解説をします。

・ツールバー



１：標準バー

各種ウィンドウの表示・非表示の切り替え、ポジション注文、新規チャートの作成のような利用頻度の高い操作のアイコンが収納されています。

２：チャートバー

チャートの種類の切り替え、拡大・縮小、タイムフレームの変更などチャート操作に関するアイコンが収納されています。

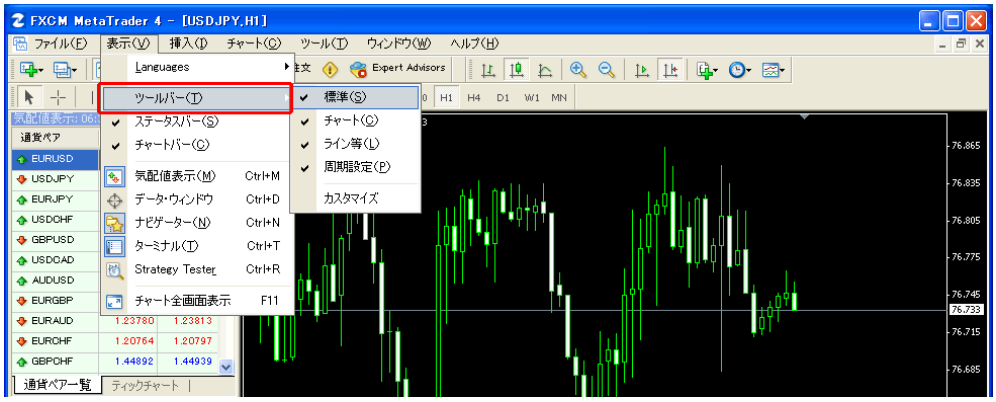
３：ライン等バー

チャートに挿入する様々なラインやラベル、テキストなどのオブジェクトを操作するアイコンが収納されています。

４：周期設定バー

タイムフレームを変更するアイコンが収納されています。

・表示・非表示の切り替え



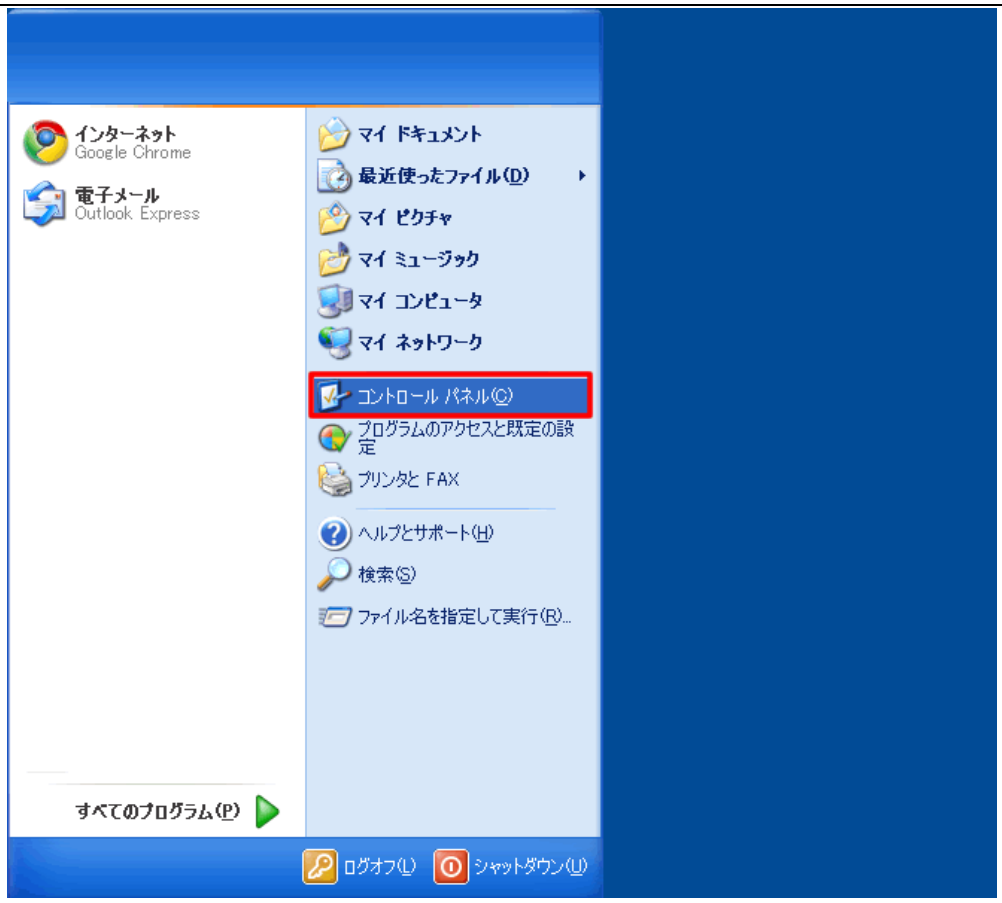
バーの表示・非表示の切り替えは、メニューバーの「表示」→「ツールバー」から変更可能です。

1-9　FXCM MetaTrader 4 のアンインストール方法

MetaTrader 4 をご利用の際に、操作後に正常に処理が行われない場合や、インストールフォルダを変更したい場合などに、一度アンインストールして再度インストールする方法があります。特に、特定のテクニカル指標などの挿入が正常に動作しない場合は、再インストールすると正常に動作する場合があります。

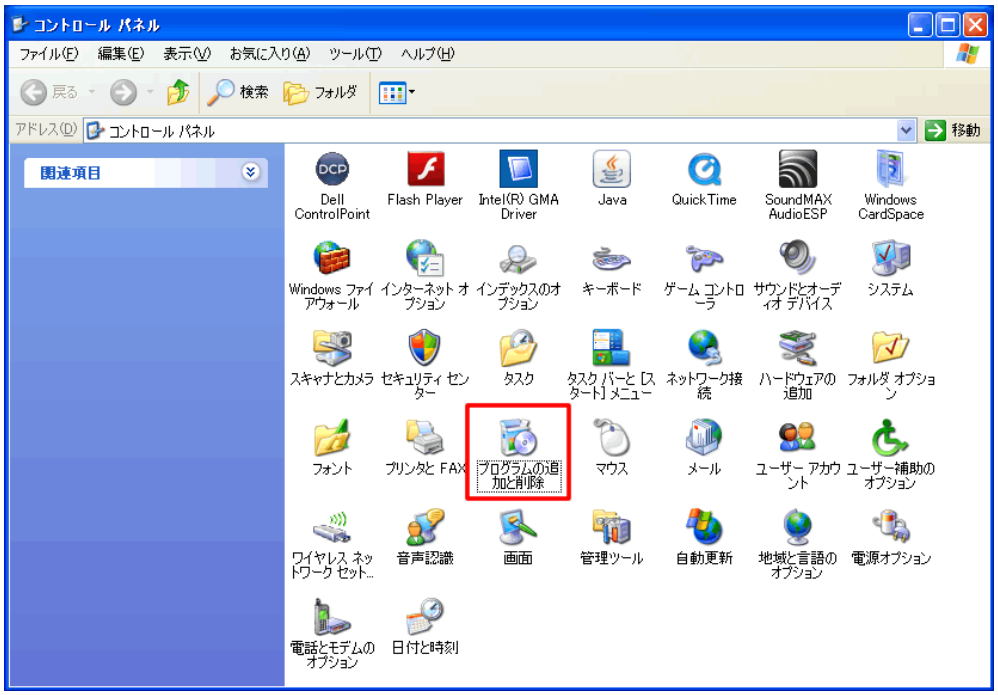
アンインストールは Windows のコントロールパネルを開き「プログラムの追加と削除」から行います。プログラムの追加と削除画面を開いたら、「FXCM MetaTrader 4」を選択した状態で「削除」アイコンをクリックします。「Unistall.exe」と実行プログラムが起動するので、画面に従って操作しアンインストールを行います。

1）スタートメニューを開く



デスクトップ左下にある「スタート」アイコンをクリックし、スタートメニュー内にある「コントロールパネル」をクリックします。

2）コントロールパネル画面

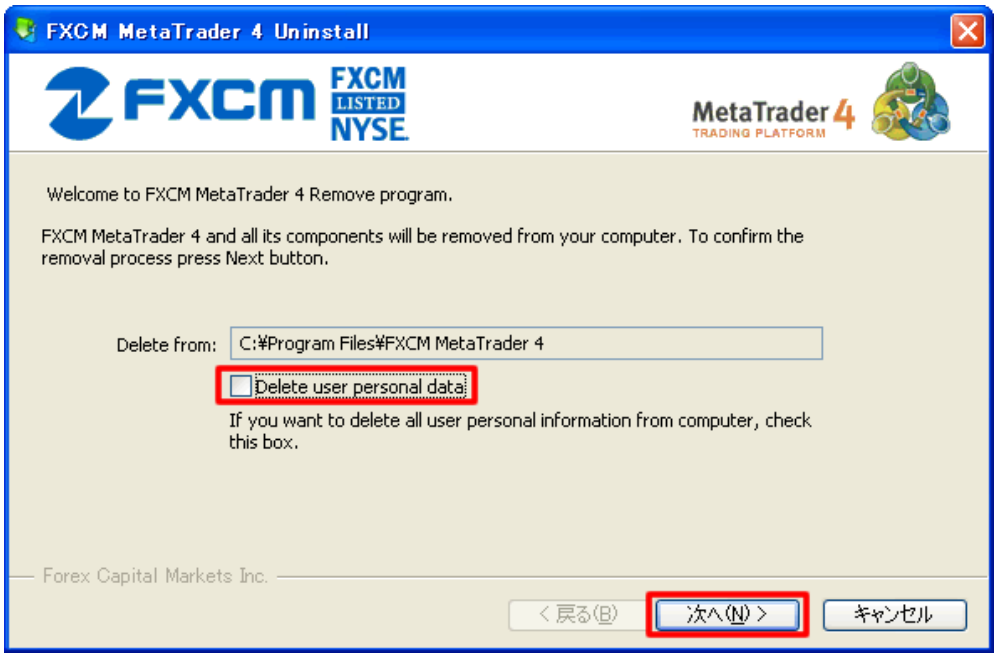


コントロールパネル画面にある「プログラムの追加と削除」を選択します。

3）FXCM MetaTrader 4 を選択

プログラムの追加と削除画面が表示されます。「FXCM MetaTrader 4」を選択し、「変更と削除」をクリックします。

4）アンインストールプログラムの実行



アンインストールプログラムが起動します。「Delete user personal data」にチェックを入れると MT4 に保存された情報も削除されます。「次へ」をクリックすると、アンインストールが開始します。最後に「完了」をクリックしアンインストールが終了します。

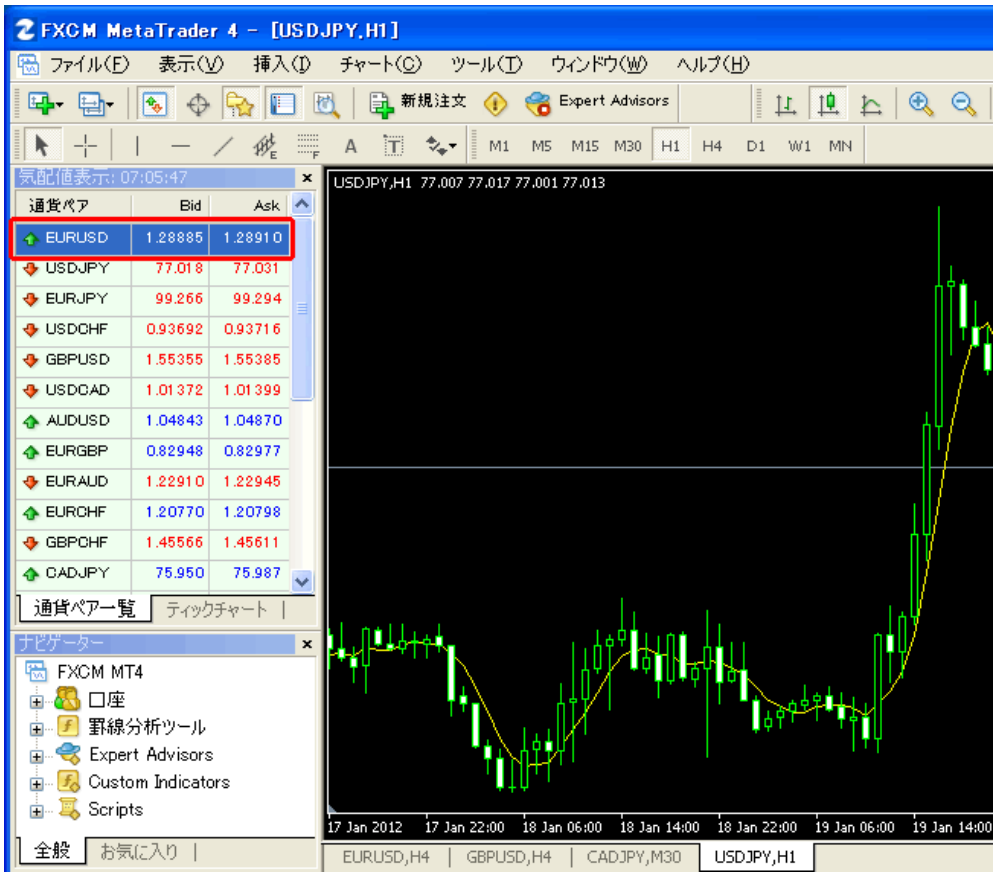
２　FXCM MetaTrader 4 で実際に取引を行う

この章では、MetaTrader 4 で実際に取引を行いながら、FX の流れを解説していきます。FX は「売り（Bid）」または「買い（Ask）」の注文を出すことから始まります。FX は外貨預金とは異なり、買うだけではなく、売りから取引を開始することが出来ます。また、円以外の通貨ペアの売買が行える点も FX の魅力です。

注文の手順は、まず気配値表示ウィンドウから取引したい通貨ペアをダブルクリックで選択します。注文の発注ウィンドウが起動するので、数量や注文種別を設定して、注文アイコンをクリックします。注文するとターミナルウィンドウの取引タブに注文したポジションが登録されます。あとは、チャートウィンドウや取引タブで、レートをチェックします。

取引タブに登録されているポジションをクリックすると、表示される注文の発注画面から決済取引が可能です。発注後の損益は「口座履歴」タブに反映されます。また、これら一連の基本的な取引作業は、チャートタブで行うことが可能です。

１）通貨の選択



気配値表示ウィンドウから取引したい通過ペアをダブルクリックで選択します。

2）ポジションを持つ

注文の発注ウィンドウで、数量や注文種別を設定してポジションを持ちます。

注文画面の説明

・通貨ペア：取引したい通貨ペアを選択します

・数量：売買するロット数（「数量 0.01 = 1 千通貨から取引可能です）

・決済逆指値：損失を限定させるための決済価格を指定

・決済指値：売買を成立させたい決済価格を指定

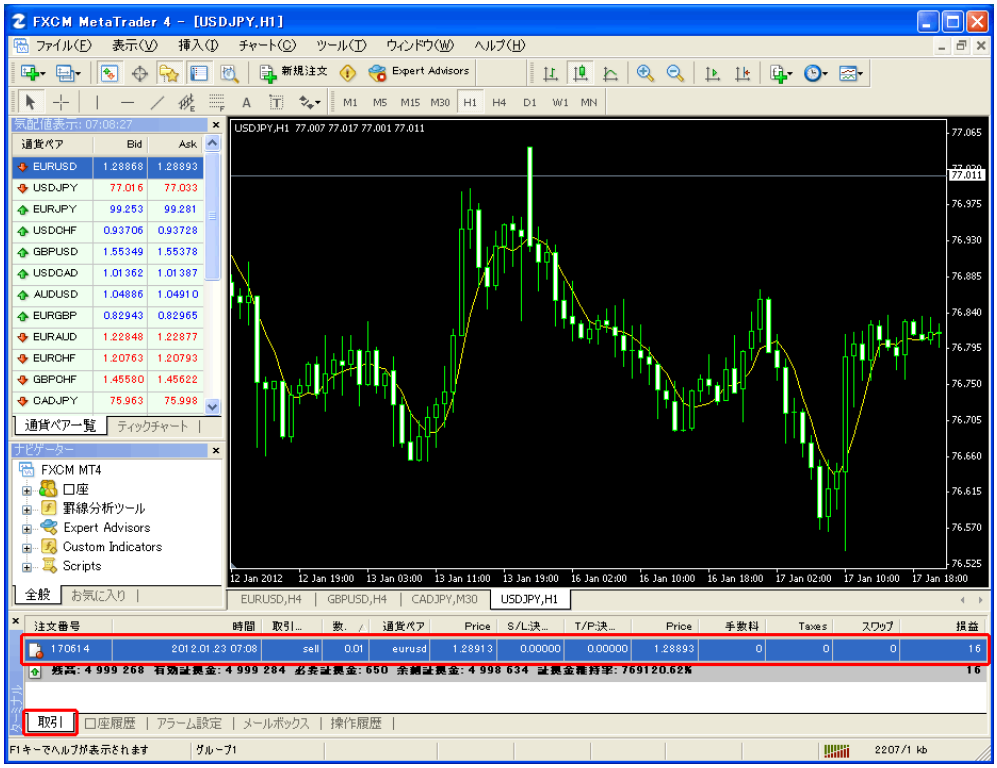
・コメント：ポジションにメモしておきたいことを記載できる

・注文種別：「成行注文」、「指値または逆指値注文」、「注文の変更または取消」から選択

・新規取引：成行売り：売り（Bid）の注文確定アイコン

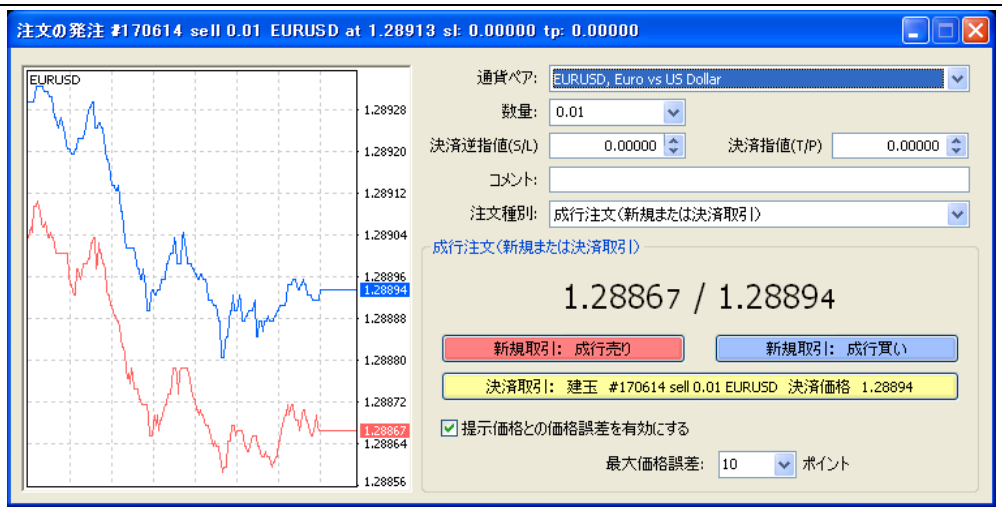
・新規取引：成行買い：買い（Ask）の注文確定アイコン

3）ポジションの管理



保持しているポジションは「取引」タブに登録されます。決済したい時はポジションをダブルクリックし、注文発注ウィンドウを表示します。

4）ポジションの決済



注文発注ウィンドウで「決済取引」アイコンをクリックすれば損益が確定します。決済取引アイコンと新規取引アイコンを間違わないようご注意ください。

2-1　成行注文

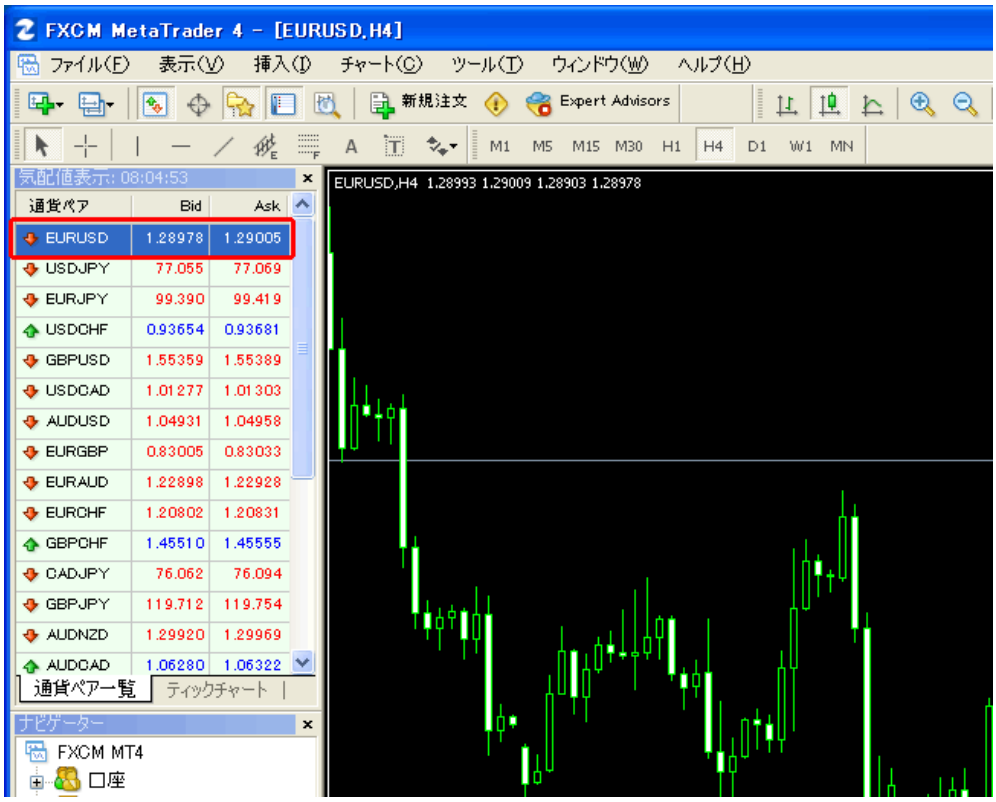
FX の注文方法はおもに「成行注文」、「指値注文」、「逆指値注文」の 3 種類があります。ここでは、最も一般的な取引である成行注文について解説します。

成行注文とは、現在提示されている売値・買値で注文することをいいます。たとえば、注文発注画面で「91.67/91.72」と表示されている場合は、左側の値が「成行売り」、右側の値が「成行買い」の値となります。この成行注文で保持したポジションのことをオープンポジションといいます。

また、注文時には損失確定時などに利用する「決済逆指値」や、利益確定時などに利用する「決済指値」の設定を行うことができます。決済逆指値や決済指値は注文後に変更することも可能です。

ポジションを保持する際の注意点としては、初期の状態での注文時の数量は「1.00」=10 万通貨になっています。「0.01」 = 1 千通貨から始めることができます。

1）通貨ペアを選択



気配値表示ウィンドウから取引したい通貨ペアをダブルクリックします。

2）数量指定

注文の発注ウィンドウが表示されます。まず「数量」で売買するロット数を指定します。この場合は、数量 0.10 = 1 万通貨です。

3）決済逆指値

利食い、もしくは損切りを指定する場合は、「決済指値（利食い）」、「決済逆指値（損切り）」を指定します。指定後、「成行売り」もしくは「成行買い」をクリックします。

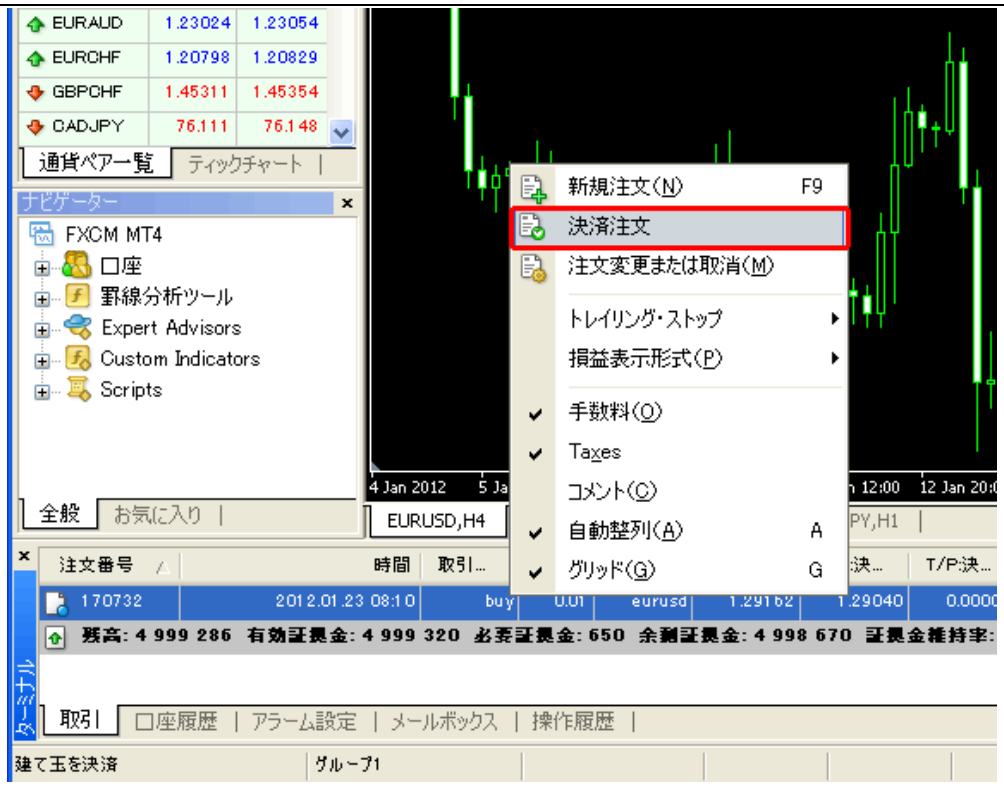
Point

注文がサーバーに送られて処理される間にレートが変わることがありますが、多少ずれても確実に売買したい場合は、レートの誤差をカバーするために「提示価格との価格誤差を有効にする」のチェックボックスにチェックを入れて、その下の最大価格誤差を設定します。

4）ポジションの注文完了

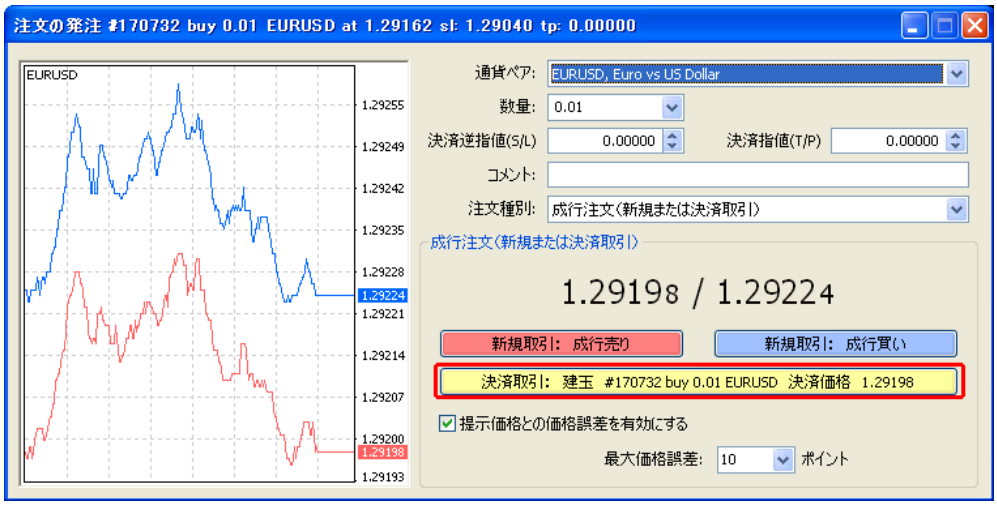
ポジションを持つとこのような画面が表示されます。「OK」アイコンをクリックすると発注ウィンドウが閉じられます。

5）ポジションの決済



保持しているポジションは「取引」タブで管理されます。決済したいポジションをダブルクリック（右クリックし「決済注文」を選択でも可）して発注ウィンドウを開きます。

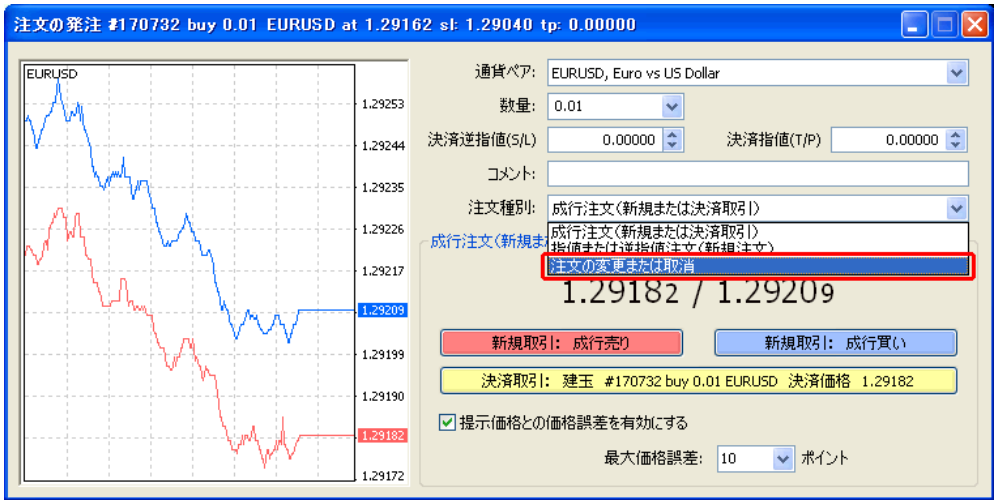
6）ポジションの成行決済



ポジションを成行で決済する場合、「決済取引」アイコンをクリックします。決済取引アイコンと新規取引アイコンを間違わないようご注意ください。

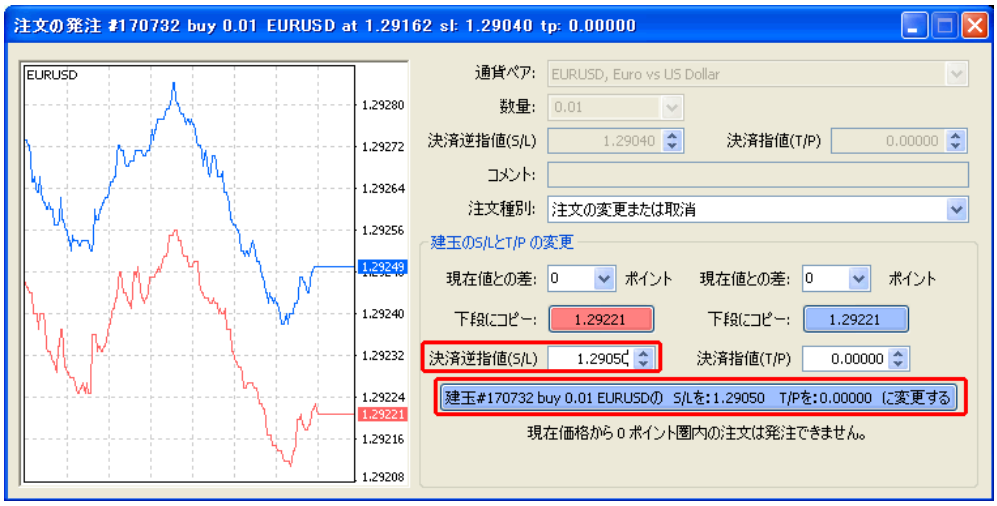
2-1-1　注文したポジションの指値変更、取消

1）注文の変更、取消



注文したポジションの指値を変更したい場合は、ターミナルウィンドウの対象となるポジションを右クリックし「注文変更または取消」を選択します。

2）指値の変更



建玉の決済逆指値と決済指値の変更画面が表示されます。決済逆指値、もしくは決済指値の値を変更して「注文の変更」を選択すると変更が完了します。

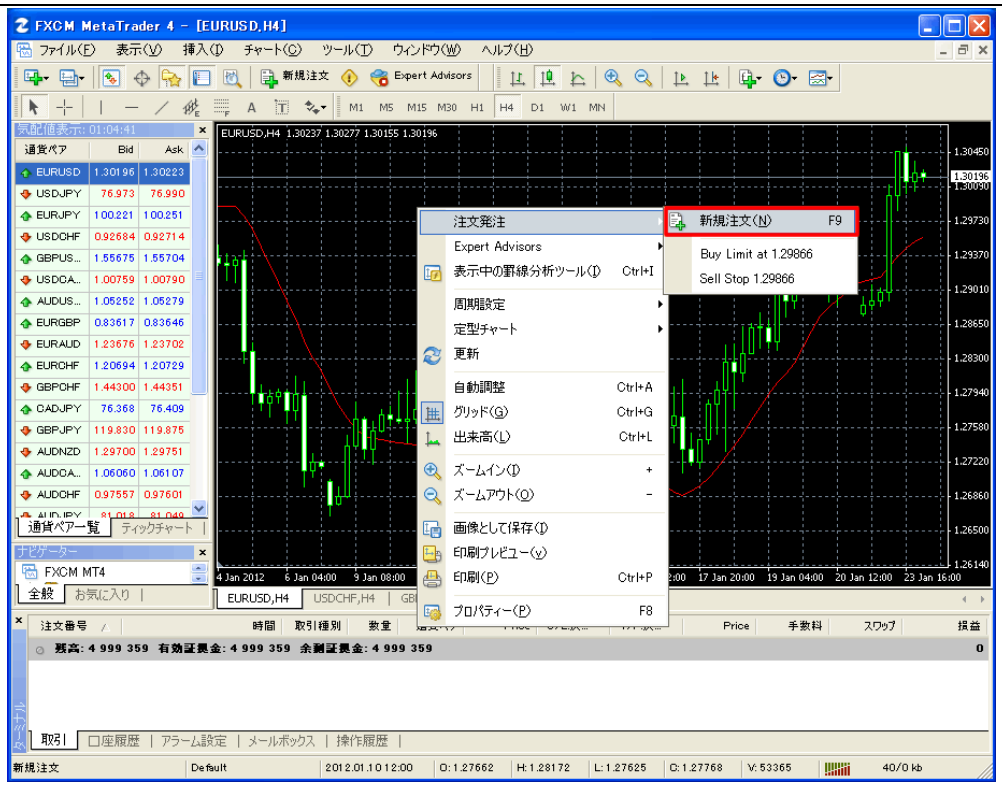
2-2　指値注文

指値注文や逆指値注文を利用すると、指定したレートに達した際に、自動的に発注を行います。ここでは、指値注文の解説をします。

指値注文とは、注文時点のレートより低い買いレート、または高い売りレートを指定する注文方法のことで、リミット（limit）注文とも呼ばれます。現在のレートより有利なレートで売買したい場合に利用されます。

例えば、1 ドル＝100 円 50 銭というレートの時、価格が 1 ドル＝100 円 00 銭のタイミングで買い注文を出す場合、指値注文で「100 円 00 銭」の買い注文を出します。これで 100 円 00 銭になった時に自動的に発注されます。

1）新規注文



チャートウィンドウ上で右クリックし「注文発注」→「新規注文」を選択します。

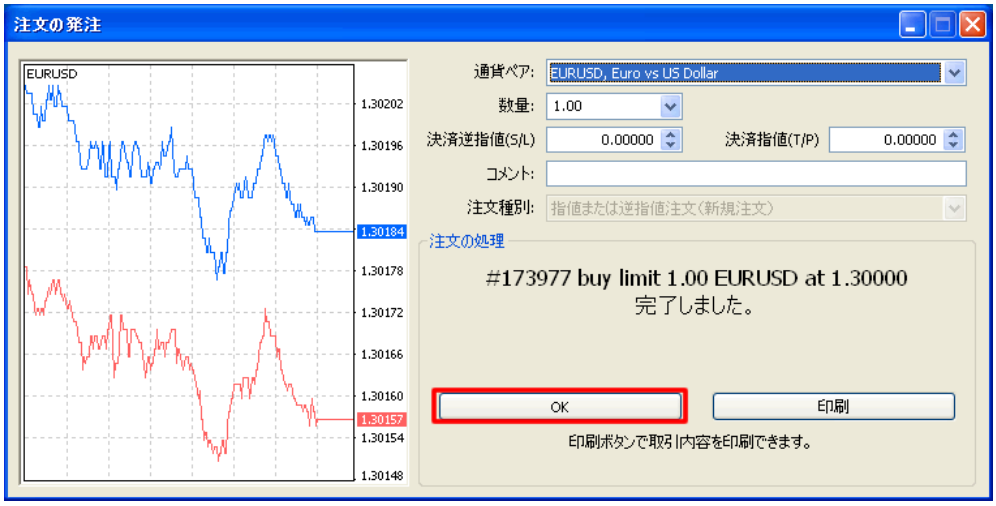
2）指値注文を選択

注文の発注画面が表示されます。「注文種別」で「指値または逆指値注文（新規注文）」を選択します。

3）注文種別と価格を指定

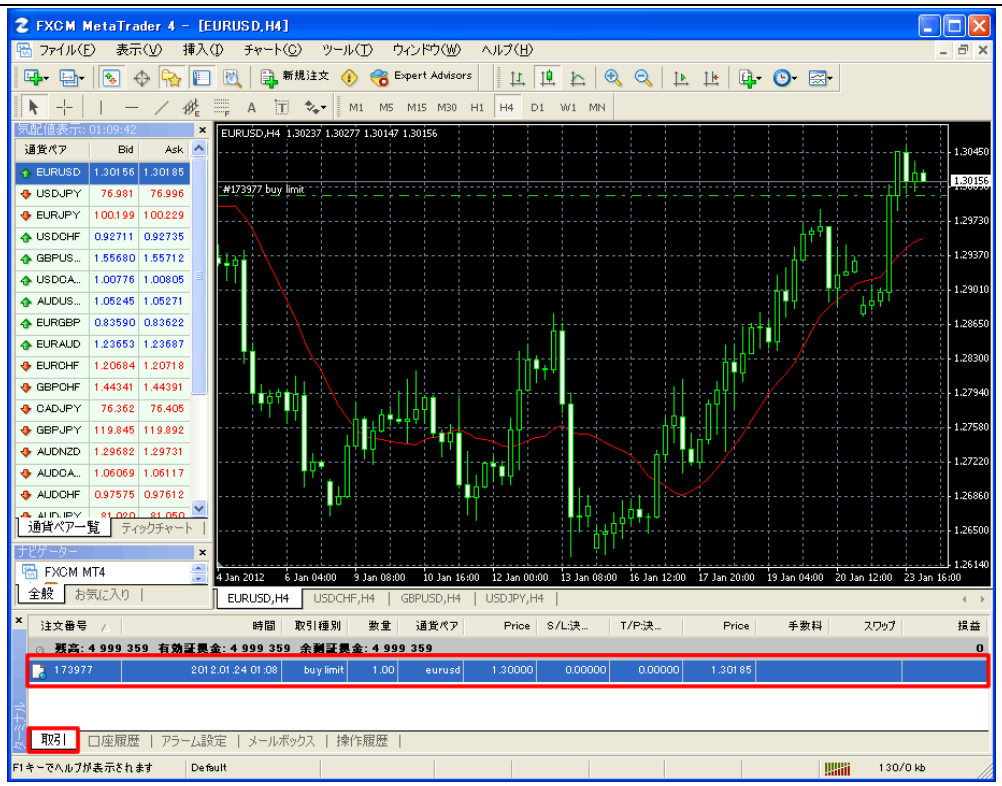
ここでは、1.30191 のときに「1.30000」なったら買い注文を出すように設定するので、「注文種別」で「Buy Limit」を、「価格」で「1.30000」を指定します。設定が終えたら「送信」をクリックします。

4）注文確定



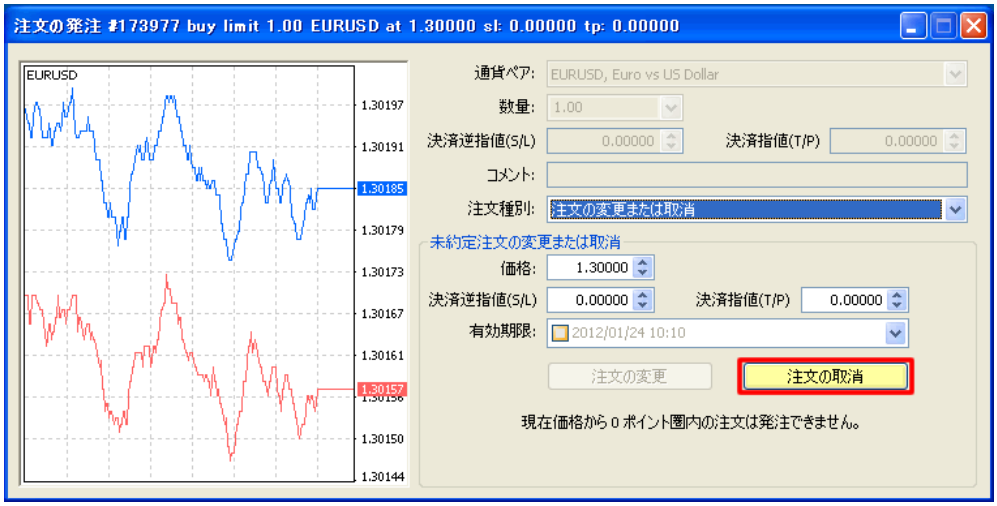
注文が完了しました。「OK」をクリックすると発注ウィンドウが閉じられます。

5）取引タブで確認



ターミナルウィンドウの「取引」タブを開きます。先程指値注文したポジションが登録されています。このポジションはあくまで予約なのでオープンポジションと異なり、注文の取消しや変更が可能です。注文の取消しをする場合は、該当ポジションをダブルクリックします。

6）注文の取消し



指定したポジションの発注ウィンドウが表示されます。ここで「注文の取消」をクリックすれば、注文は取消されます。

2-3　逆指値注文

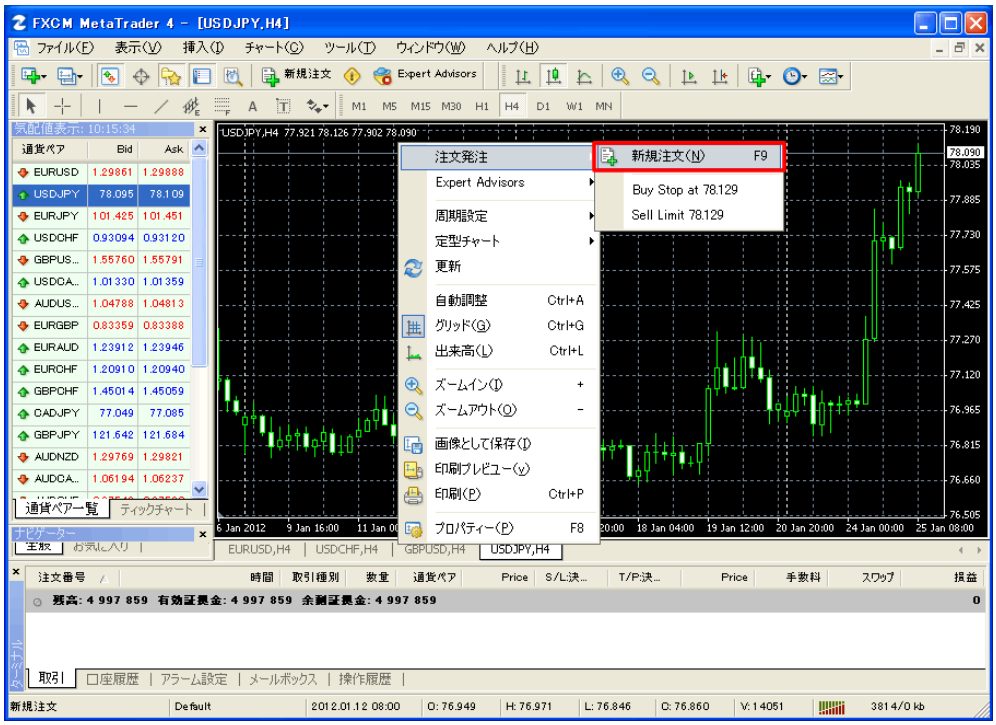
逆指値注文とは、注文時点のレートより高い買いレート、または低い売りレートを指定する注文方法のことで、ストップ（stop）注文とも呼ばれます。

たとえば、1 ドル=78 円 00 銭というレートで、価格が 1 ドル=80 円 00 銭より上を抜けたらさらに上昇するだろうと考えた時、80 円 00 銭で買いの逆指値注文を出すことになります。おもに傾向を予測して取引を行う方法です。

また、相場逆行時に損失が一定以上に広がらないよう損切りラインを設定する場合などにも利用されます。買いポジションを保持していても、予想に反してレートが下がっていく場合があります。そんな時に逆指値注文を利用して、指定したレートより下がった場合に自動的に売り注文を出せば、損失を限定することが出来ます。ただし、必ず発注レートで約定するわけではなく、相場急変時などは発注レートと約定レートが異なる場合があります。

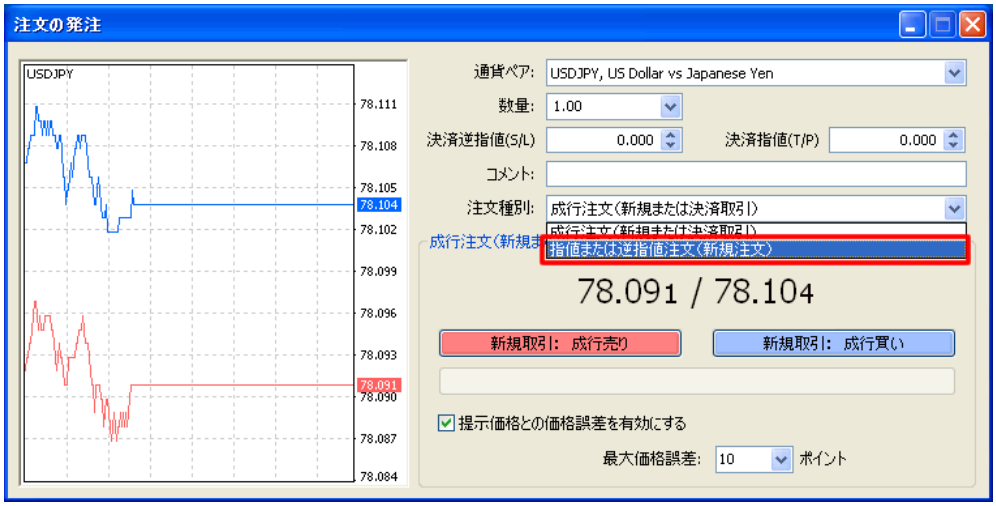
また、指値注文と同じく、逆指値注文も注文の取消しや変更が可能です。

1）新規注文



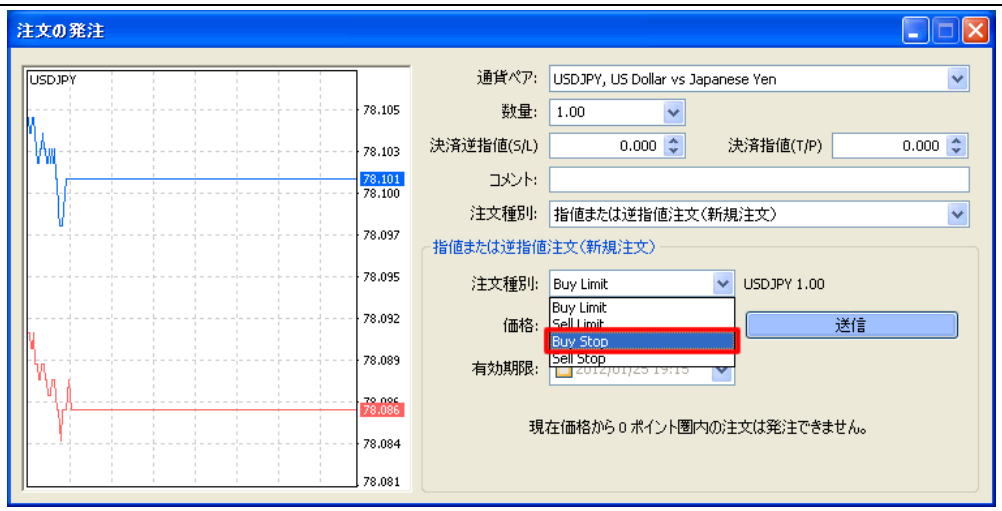
チャートウィンドウ上で右クリックし「注文発注」→「新規注文」を選択します。

2）指値注文を選択



注文の発注ウィンドウが表示されます。「注文種別」で「指値または逆指値注文（新規注文）」を選択します

3）注文種別と価格を指定

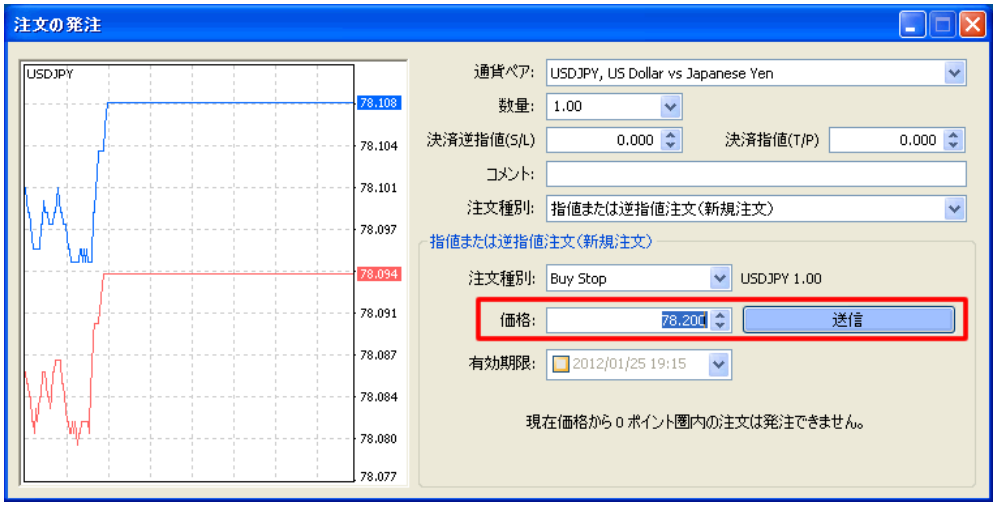


ここでは 78 円 20 銭になったら買い注文を出すように設定するので、「注文種別」で「Buy Stop」を選択します。

Point

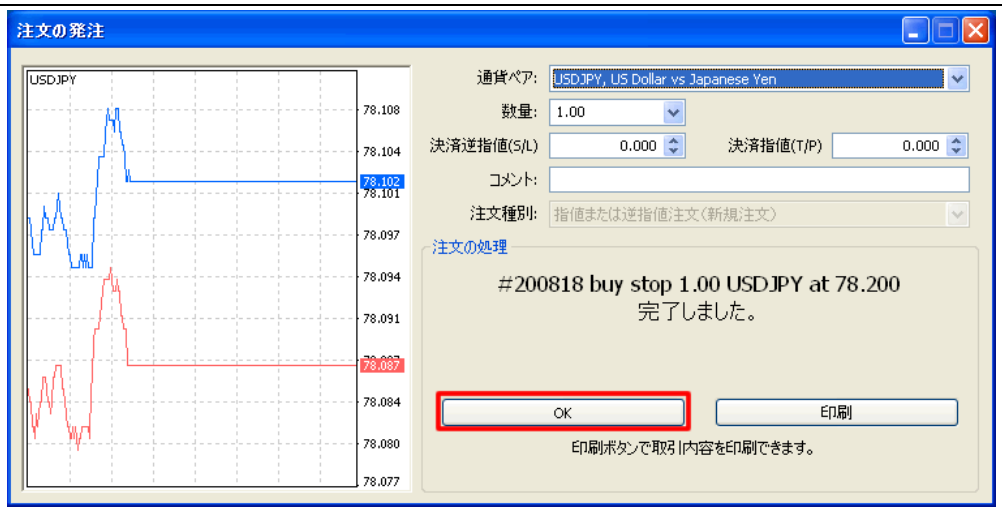
・Buy Limit（指値買い）
注文時のレートよりも低い買いレートを指定する発注方法
・Sell Limit（指値売り）
注文時のレートよりも高い売りレートを指定する発注方法
・Buy Stop（逆指値買い）
注文時のレートよりも高い買いレートを指定する発注方法
・Sell Stop(逆指値売り）
注文時のレートよりも低い売りレートを指定する発注方法

4）価格を指定



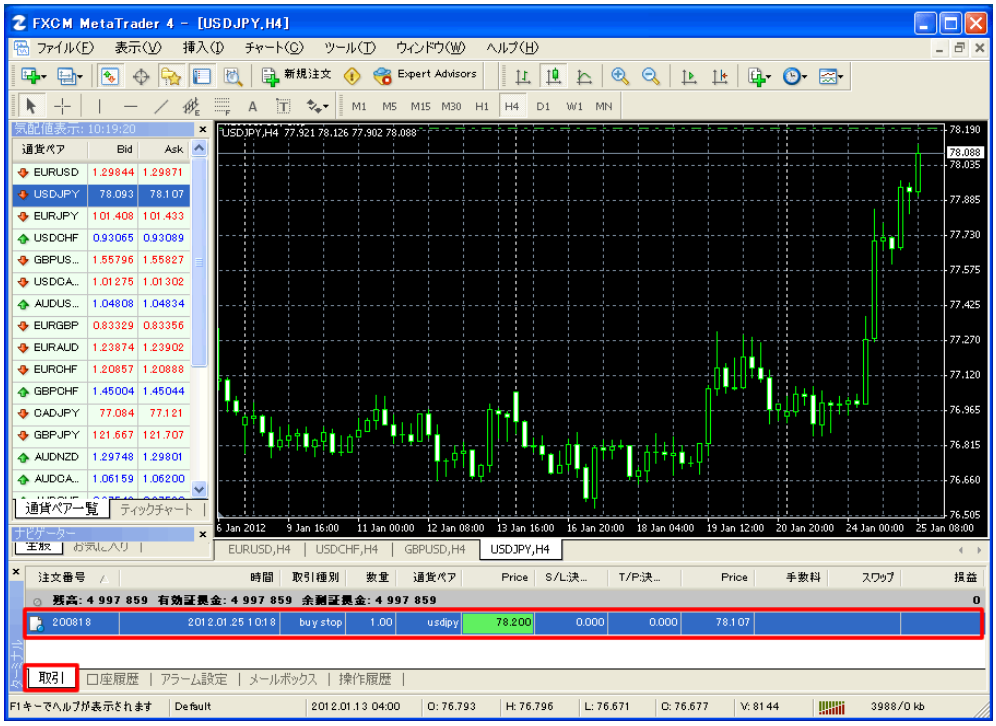
「価格」で「78.200」を指定します。設定が終えたら「送信」をクリックします。

5）注文確定



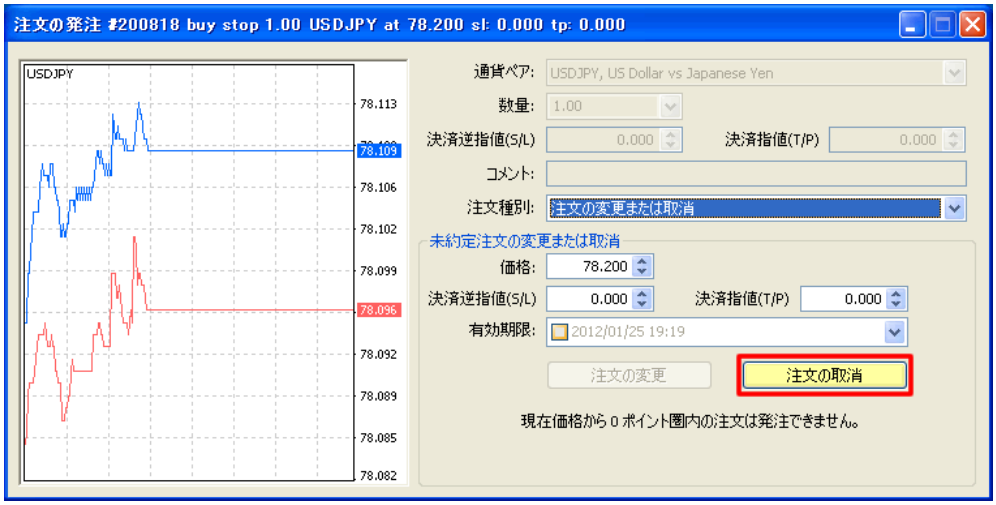
注文が完了しました。「OK」をクリックすると発注ウィンドウが閉じられます。

6）取引タブで確認



ターミナルウィンドウの「取引」タブを開くと、先程指値注文したポジションが登録されています。ここで注文の取消しをする場合は、該当ポジションをダブルクリックします。

7）注文の取消し



指定したポジションの発注ウィンドウが表示されます。ここで「注文の取消」をクリックすれば、注文は取消されます。

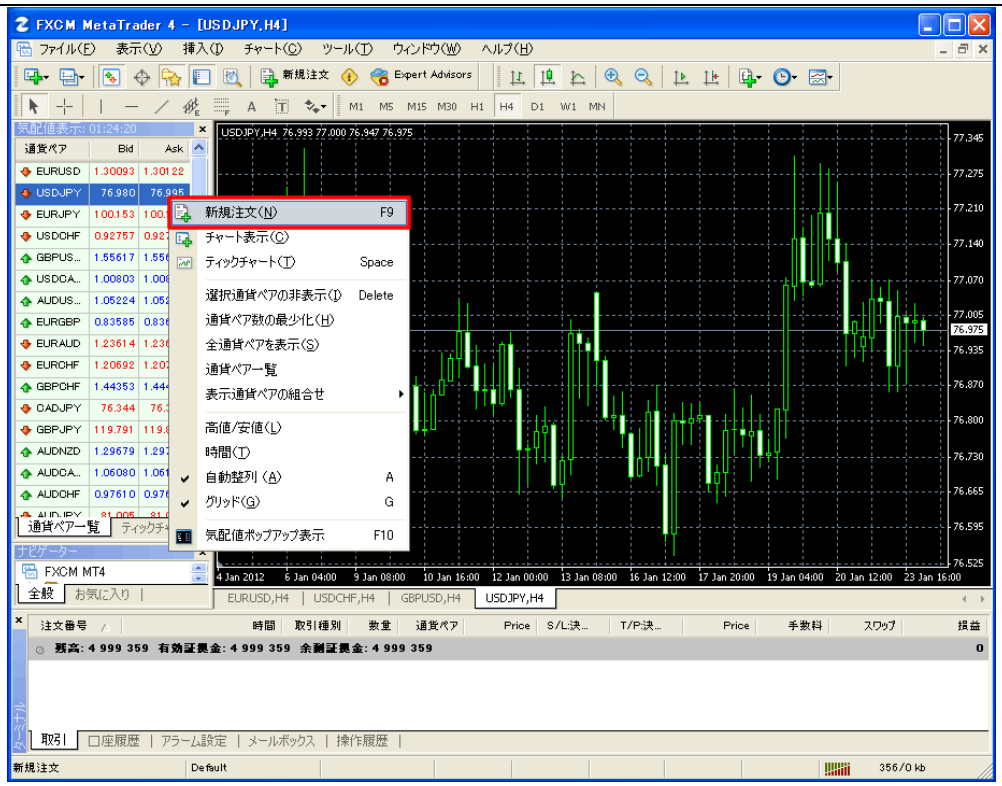
2-4　ストップロス（決済逆指値）

トレードを行う際に重要な取引として「ストップロス」があります。ストップロスとは、損失を拡大させないために損切りすることをいいます。

FX でのストップロスは、たとえば、1 ドル＝100 円 00 銭で買ったものの、予想に反してレートが下がる場合があります。そこで事前にストップロスを設定しておけば、指定したレートより下がった場合に自動的に売り注文を出して、大きな損失を抑えることができます。パソコンから長時間席を外す際などに便利です。

ストップロス注文は、注文の発注画面の「数量」の下にある「決済逆指値（S/L)」でレートを指定します。決済逆指値の発注レートに達した際に自動的に決済します。また、ストップロスの設定はポジションを保持した後でも変更することができます。

1）新規注文

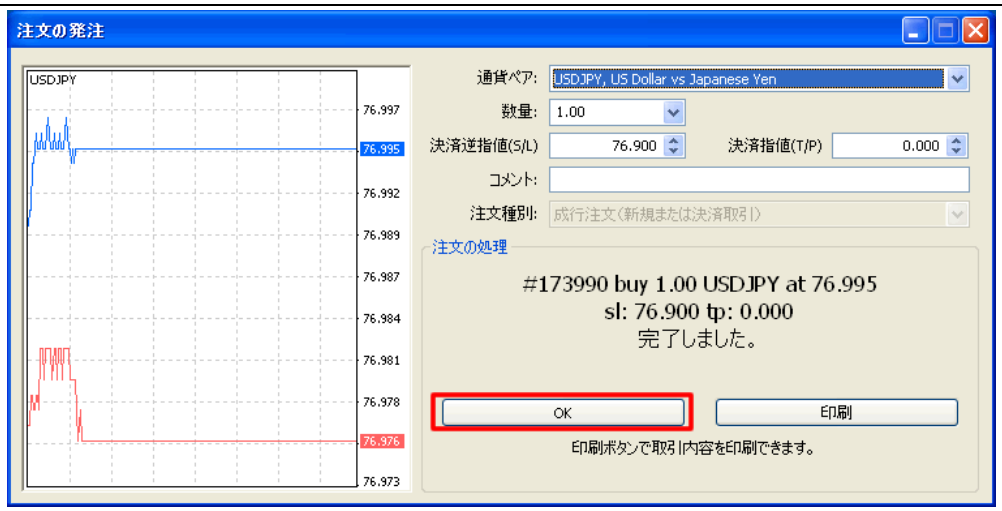


チャートウィンドウ上で右クリックし「注文発注」→「新規注文」を選択します。

2）ストップロス設定

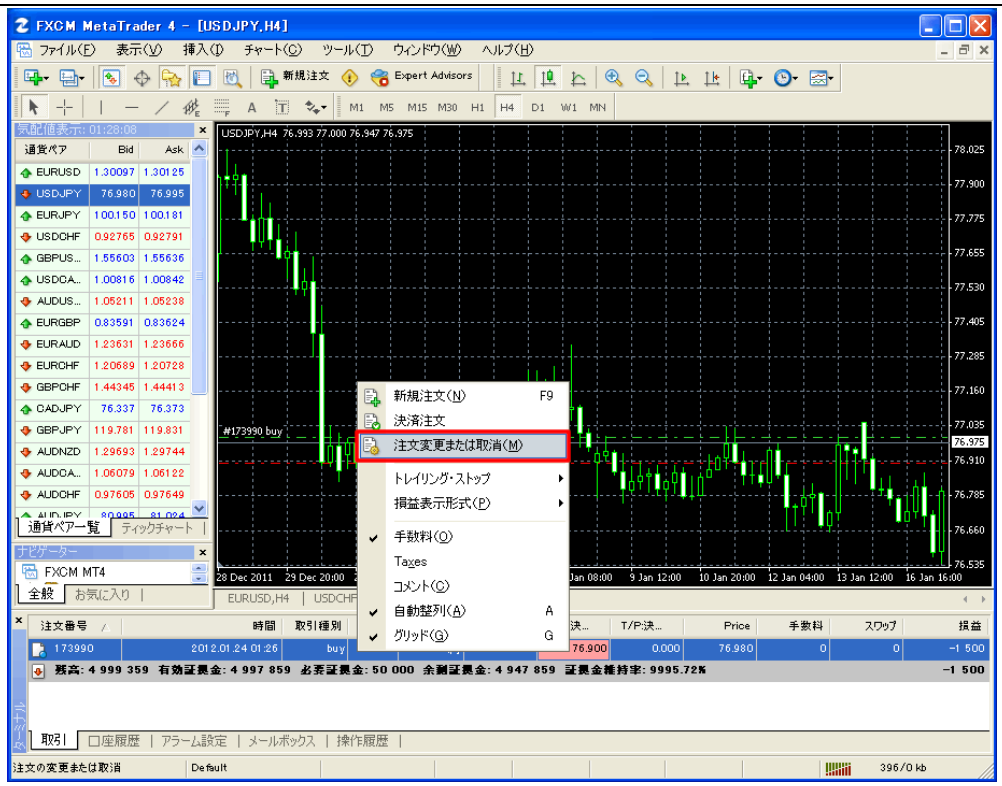
注文の発注ウィンドウが表示されます。「決済逆指値（S/L)」で、発注レートを選択します。指定したら注文(成行売り、成行買い)を出します。

3）注文確定



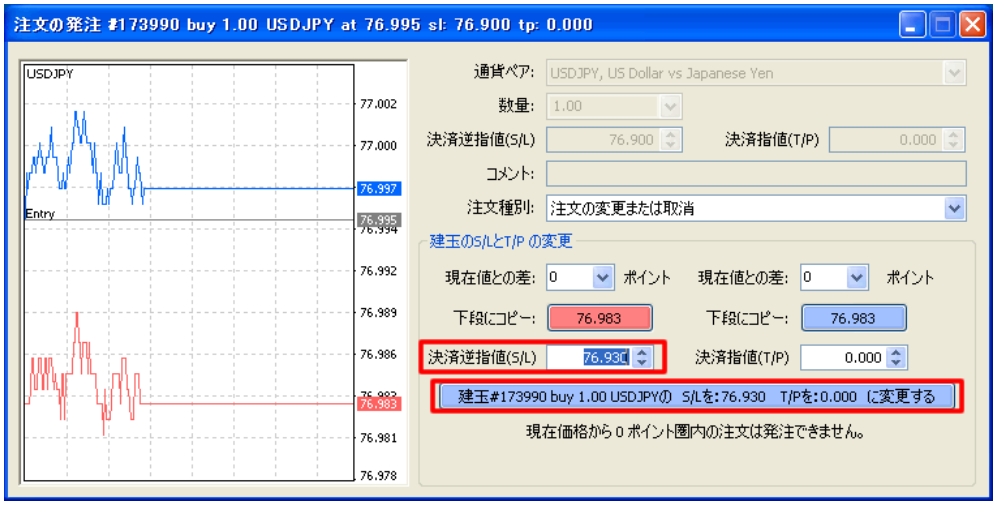
注文が完了しました。「OK」をクリックすると発注ウィンドウが閉じられます。これにより指定レートに達した際、自動的に決済注文が発注されます。

4）ストップロス設定の変更



保持しているポジションの未発注のストップロス設定は変更することができます。「取引」タブを開き、ポジションを右クリックして「注文変更または取消」を選択します。

5）レートを変更



発注ウィンドウが表示されます。「決済逆指値（S/L)」で、レートを変更して「建玉」を選択すると変更が完了します。

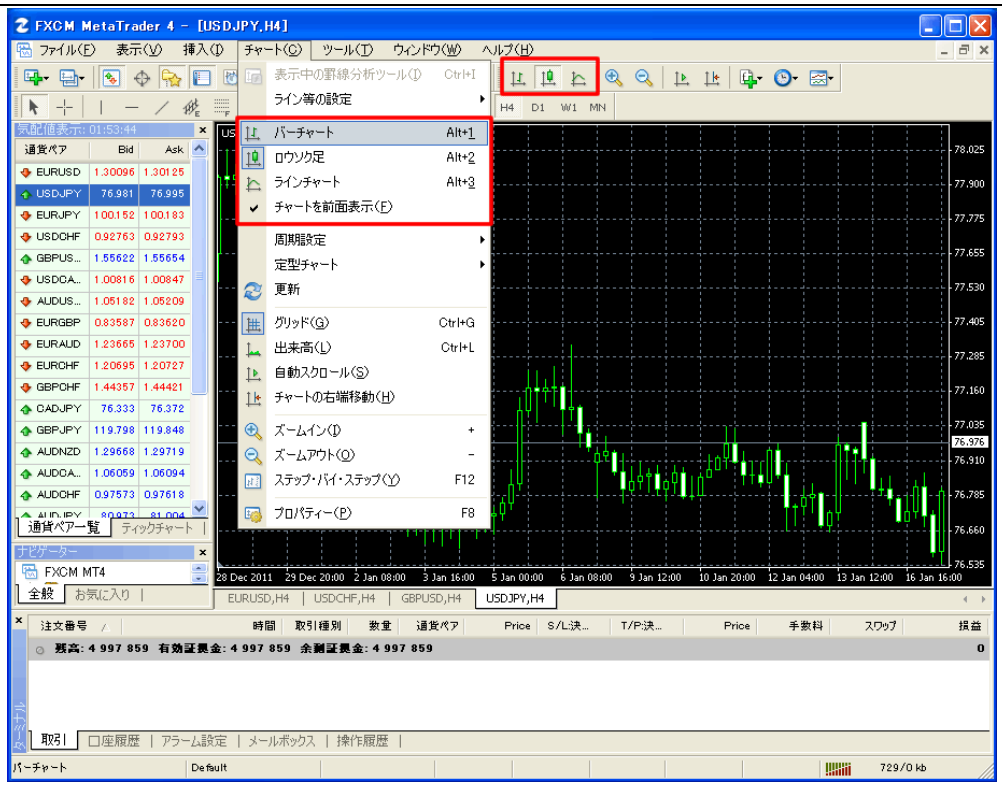
2-5　3種類の基本チャート

MetaTrader 4 の大きな特長の１つが、グラフィカルに市場の動きをチェックできるチャート画面です。直接ポジションの取引を行わない場合でも、ユーザーの多くは、チャートを見ながら市場の動きをチェックしたり、今後のレートの動きを予測したりして、売買のタイミングを掴む助けとしております。

MetaTrader 4 は、「バーチャート」、「ロウソク足」、「ラインチャート」の 3 種類のチャートが用意されており、これらのチャートを状況に応じて切り替えることができます。切り替える方法は、ツールバー上にあるアイコンをクリックするか、メニューバーの「チャート」タブのプルダウンメニューから変更可能です。

一般に広く利用されているチャートは、ロウソク足でしょう。ロウソク足はトレンドラインや移動平均線など他の分析ツールと組み合わせることで、相場のトレンドを読んだり予測を立てたりする助けになります。

・チャートの種類の切り替え

- 

チャートの種類の切り替えは、ツールバーもしくはメニューバーの「チャート」タブから行います。

・バーチャート

レートの高値と安値を結んだ棒足（縦線）に、始値を左側（横線）に、終値を右側（横線）に表示したものです。

・ロウソク足

バーチャートを分かりやすくしたのがロウソク足です。レートの高値と安値を結んだ棒足に、始値より終値が高ければ黒く塗りつぶされた長方形(※)、始値より終値が低ければ白く塗りつぶされた長方形(※)で表示します。(※)いずれも初期設定の場合)

Point

バーチャートとロウソク足は共に、一定期間の「始値」(その期間の最初につけた値段)、「高値」(その期間につけた最高値)、「安値」(その期間につけた最安値)、「終値」(その期間の最後につけた値段)、の「四本値」で構成されています。ロウソク足を選択した際に、バーチャートのように表示された場合、チャートを拡大するとロウソク足を見ることができます。

・ラインチャート

終値の推移を折れ線グラフで表示します。

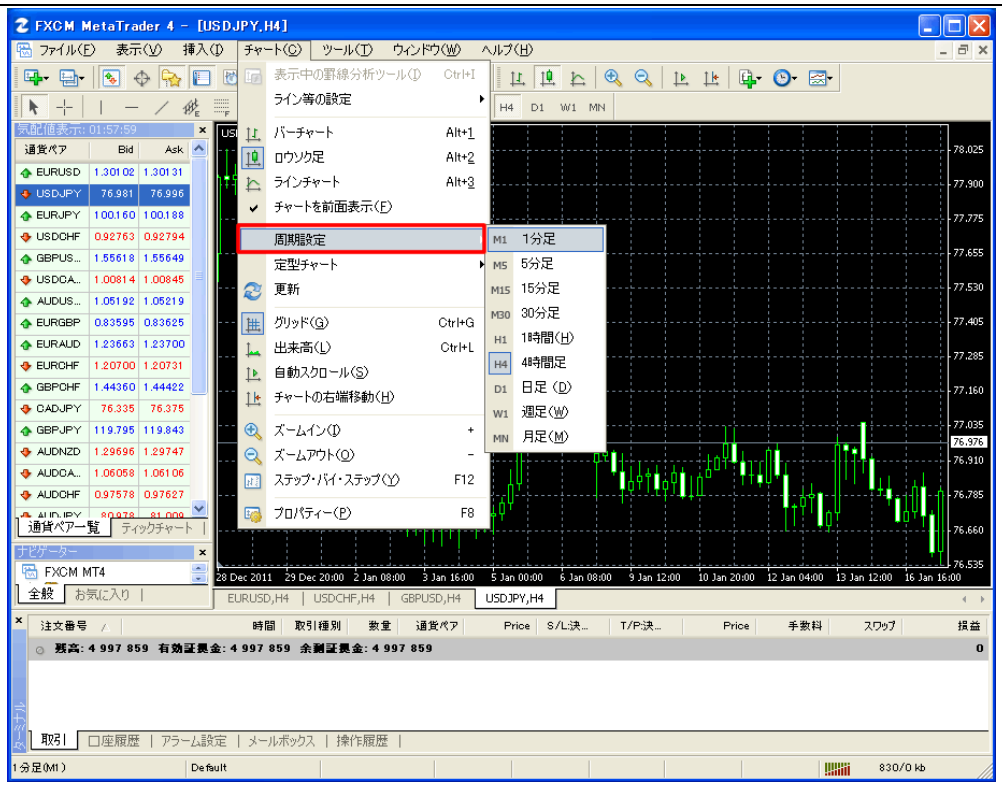
2-6　タイムフレームを変更する

チャートから市場分析を行う場合は、タイムフレーム（時間枠）の使い分けは欠かせません。MetaTrader 4 には、「1 分足」、「5 分足」、「15 分足」、「30 分足」、「1 時間足」、「4 時間足」、「日足」、「週足」、「月足」の合計 9 段階のタイムフレームが用意されており、簡単に変更可能です。

MetaTrader 4 のタイムフレームは、初期の状態では「1 分足」に設定されています。「1 分足」は、リアルタイムの動向を確認するには便利ですが、過去の市場動向を調べる場合はタイムフレームの変更を行います。

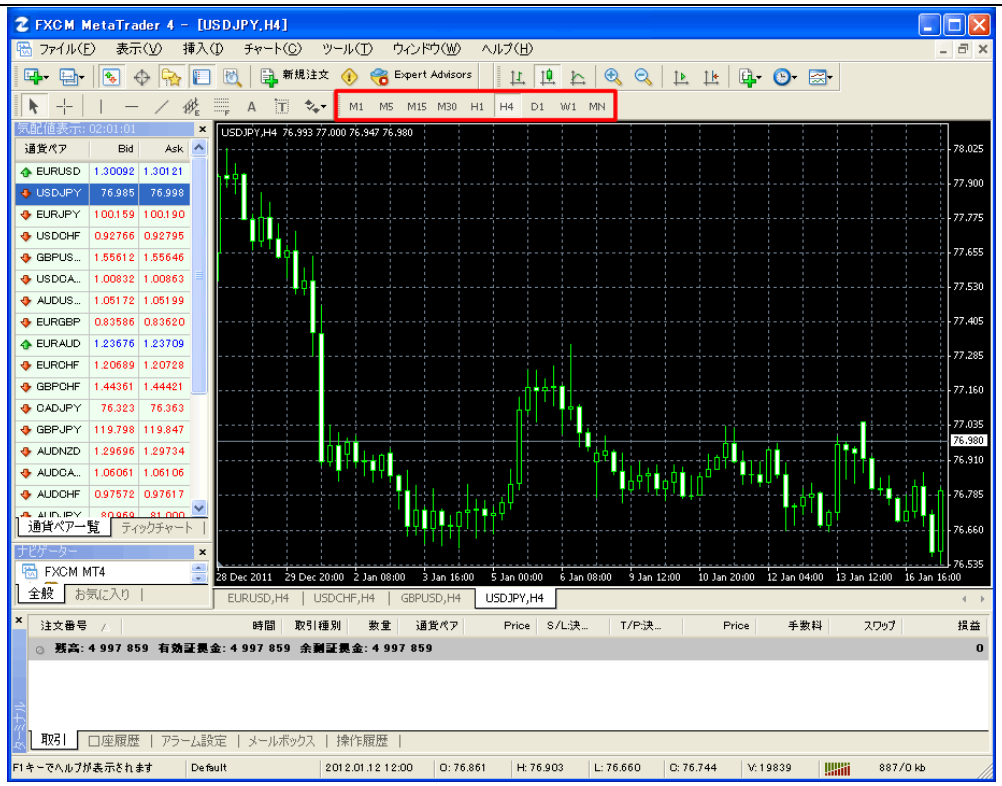
タイムフレームの変更は、メニューバーの「チャート」タブから「周期設定」で変更可能です。または、チャートウィンドウ上から右クリックメニューの「周期設定」から、さらにツールバーのタイムフレームアイコンからも変更可能です。

・メニューバーから変更



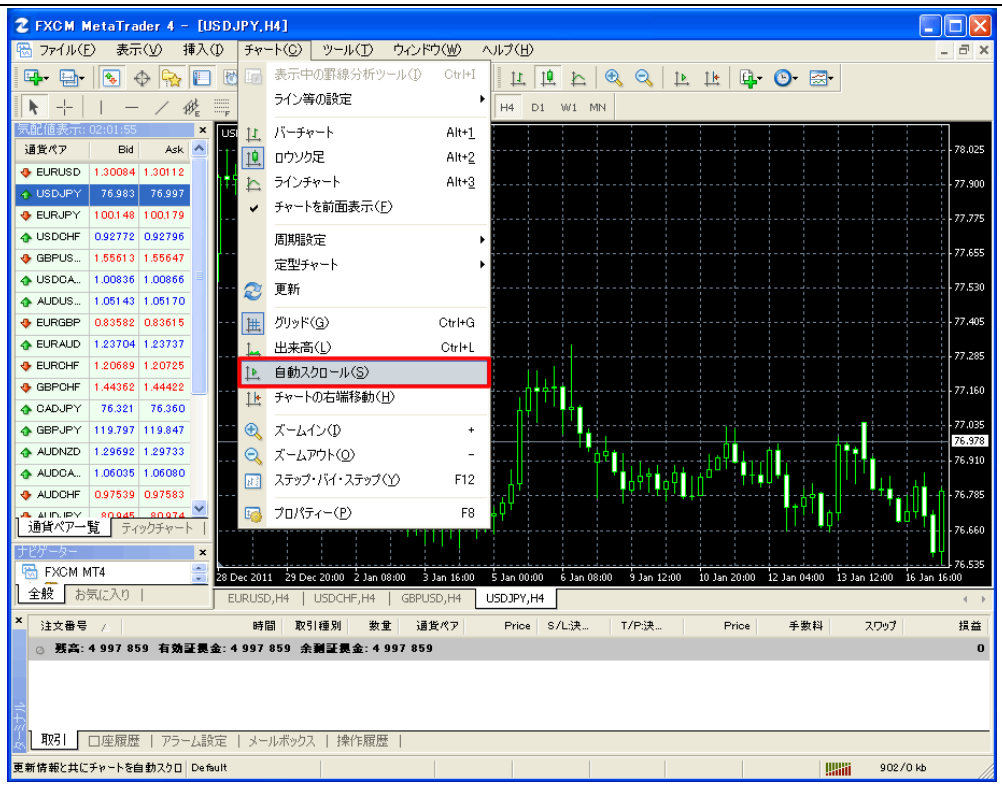
メニューバーの「チャート」タブから「周期設定」を選択し、タイムフレームを指定します。

・ツールバーから変更



ツールバーからの変更も可能です。

・**Point**



MetaTrader 4 では、チャートが更新されると、バーが右端に移動する「自動スクロール」機能が設定されています。過去のデータを閲覧している最中にチャートが更新されると、自動的に更新された画面に戻ってしまいます。この自動スクロール機能を停止したい場合は、メニューバーから「チャート」タブを開き、「自動スクロール」機能をオフにします。同様の設定は、ツールバーからも可能です。

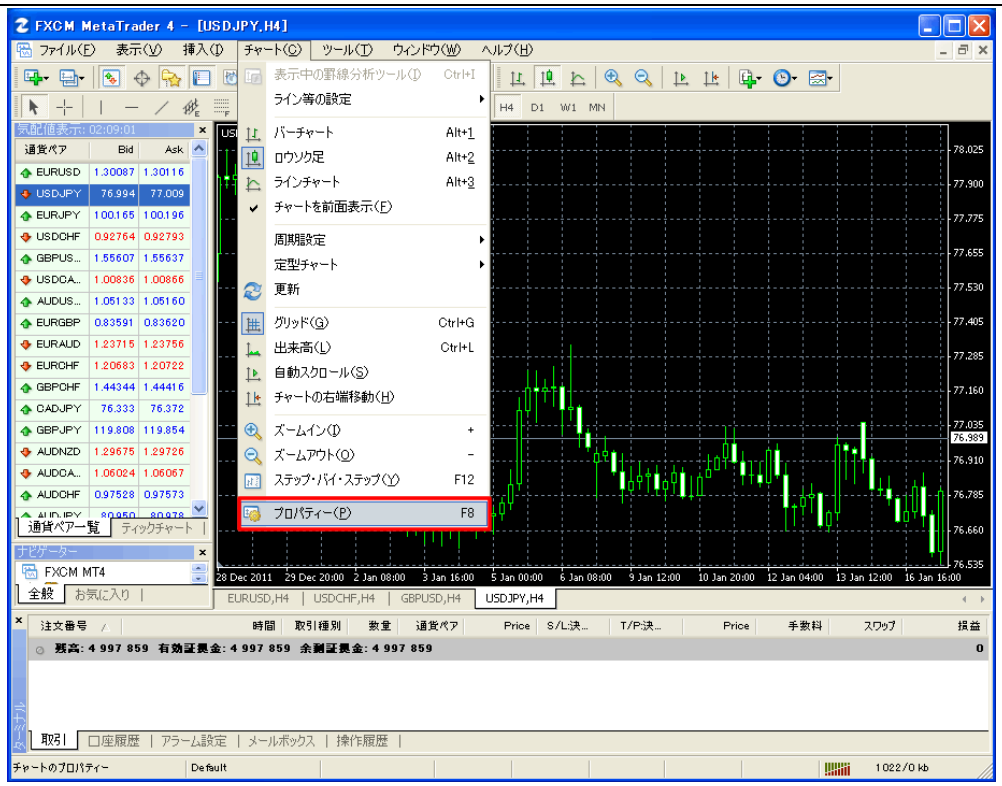
2-7　チャートをカスタマイズする

MetaTrader 4 のチャートウィンドウは、初期の状態では背景色に黒、前景色に白が設定されています。また、上昇バーや下降バーはライム色に設定されています。

MetaTrader 4 では、チャートウィンドウ内の各パーツの配色を変更することができます。変更方法は、メニューバーの「チャート」タブから一番下の「プロパティー」を選択するとプロパティー設定画面が表示されます。

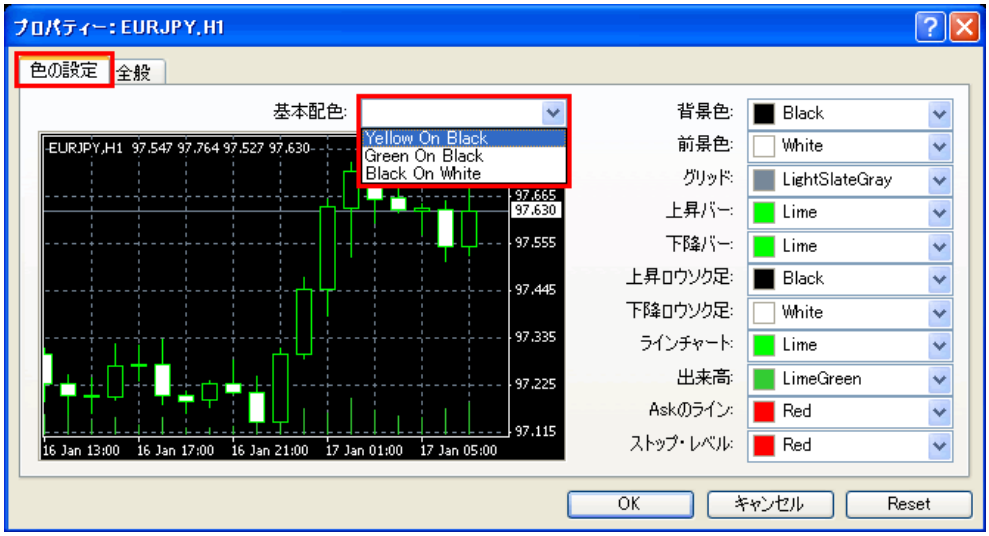
配色の設定は「色の設定」タブで行えます。「基本配色」で用意されているデザインの種類は「Yellow On Black」、「Green On Black」(初期設定)、「Black On White」の 3 種類です。自分好みのスタイルに変更したい場合は、「色の設定」画面の右側に表示されているパーツ名を選択し、個別に色の変更をします。変更できるパーツは、ロウソク足、グリッド、ラインチャートなど 11 種類あります。

1）プロパティーを開く



メニューバーの「チャート」タブから「プロパティー」を選択します。

2）色の設定タブ

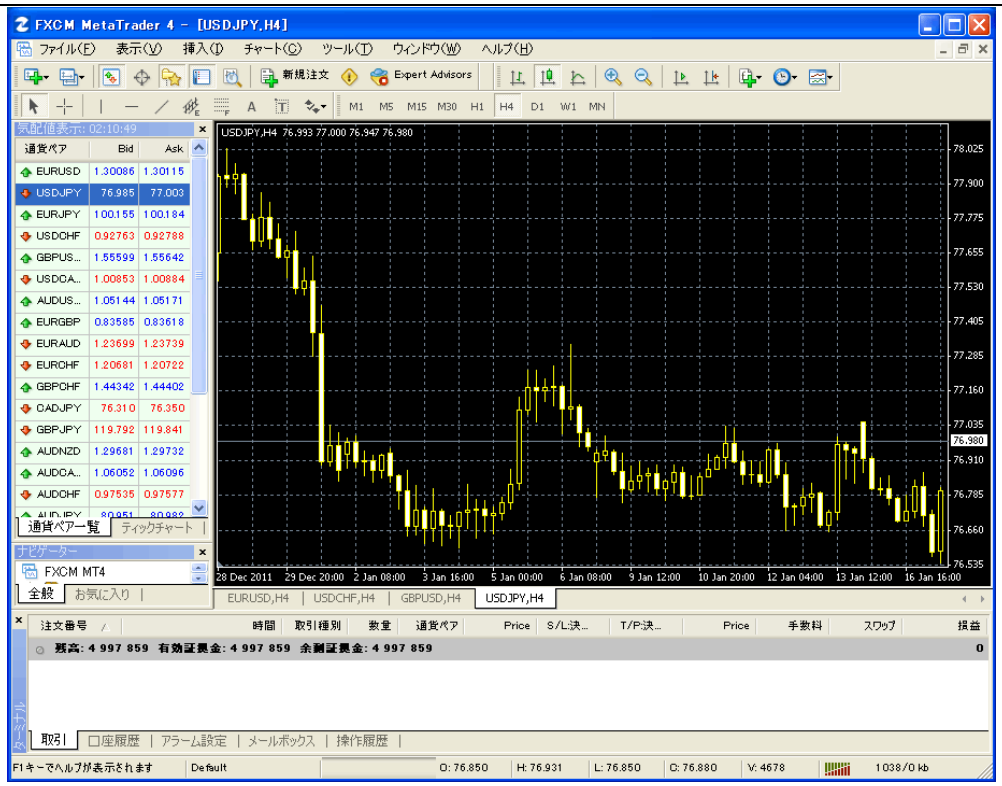


「色の設定」タブを開き「基本配色」から全体のデザインを変更することができます。

3）個々のパーツの変更

個々のパーツの色を変更したい場合は、ウィンドウの右側にある各パーツのプルダウンメニューから好きな色を選択し、最後に「OK」をクリックします。

4）配色変更完了



チャートの配色が変更されました。

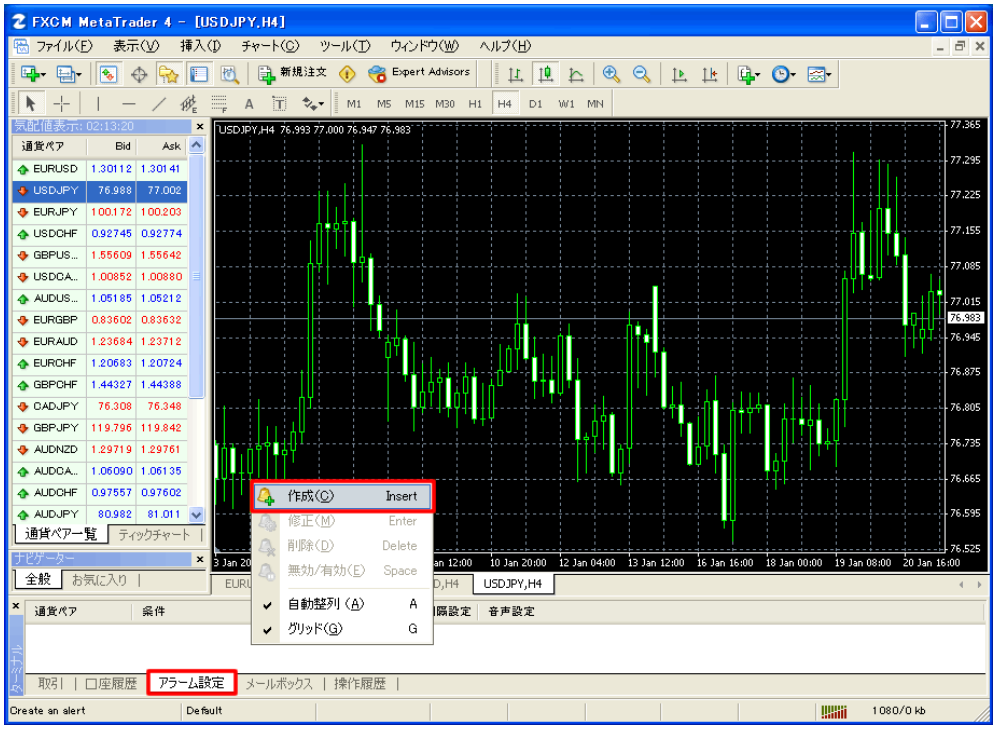
2-8　アラームを設定する

ターミナルウィンドウにある「アラーム」は、取引を行う際に便利な機能の１つです。アラーム機能を利用すると、指定しておいたレート条件に達した際、自動的にアラームでユーザーに知らせます。仮にパソコンの前から離れても、相場の動きを把握することが出来ます。

たとえば、現在のレートが「1 ドル＝88 円 00 銭」で、「1 ドル＝90 円 00 銭」を超えたらポジションを持ちたいとします。このとき、アラーム設定で「Bid＞90.000（90 円 00 銭）」と設定すれば、レートが 90 円 00 銭に達した時にアラームが鳴ります。

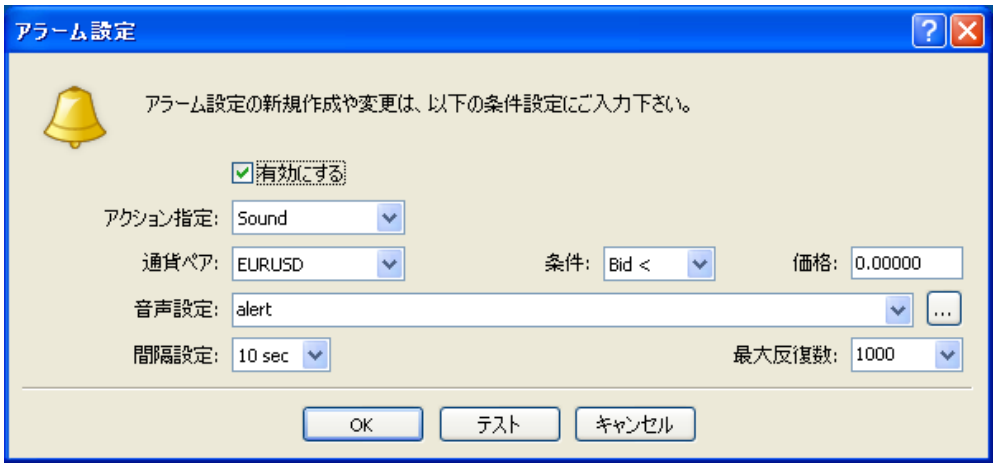
アラーム設定は、あくまで指定条件でアラームを鳴らすのみの機能となっており、取引が行われることはありません。

１）アラームの作成



ターミナルウィンドウで「アラーム設定」タブを開きます。ウィンドウ内で右クリックし、「作成」を選択します。

2）アラームの設定



アラーム設定画面が表示されます。各種設定を行い「OK」を選択します。

アラームを鳴らすことができる条件

・「Bid＞」：売値が指定した価格より高くなった時

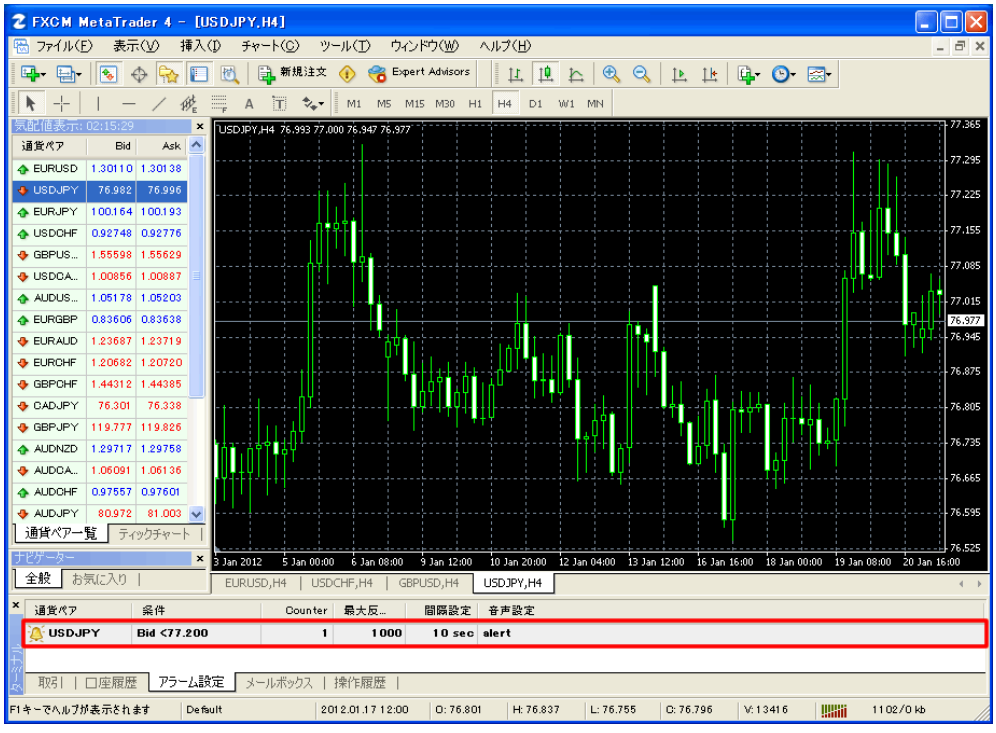
・「Bid＜」：売値が指定した価格より低くなった時

・「Ask＞」：買値が指定した価格より高くなった時

・「Ask＜」：買値が指定した価格より低くなった時

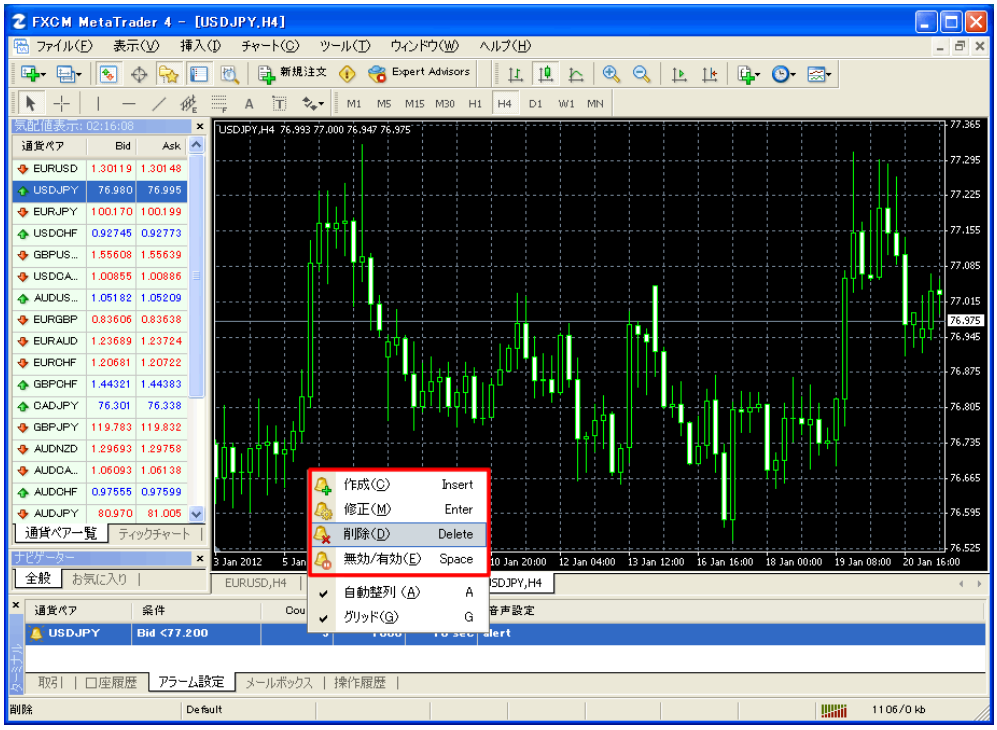
・「Time=」：指定した時刻になった時

3）アラーム設定完了



アラーム設定が完了しました。アラーム設定タブから、設定したアラームの確認ができます。

4）アラームの設定変更



アラームの設定を変更したい場合は、変更するアラームを右クリックし、「修正」から変更を行うことが出来ます。また、アラームの「削除」、「無効/有効」設定も右クリックから行えます。

2-9　定型チャートを利用する

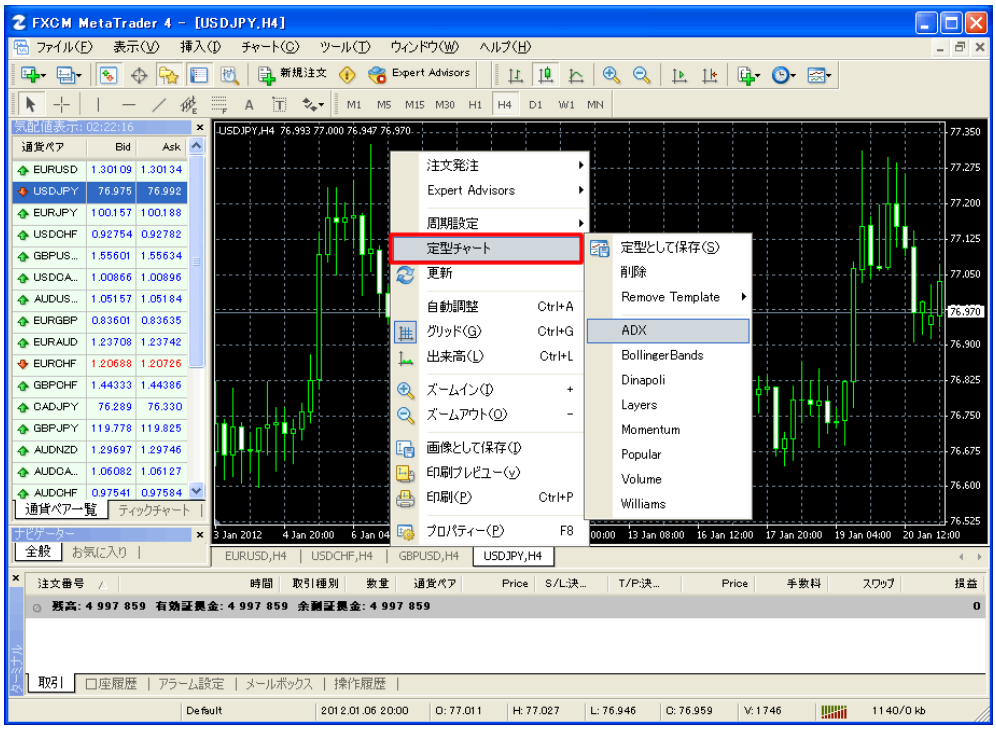
MetaTrader 4 では、チャートに様々な指標を挿入してユーザー独自のチャート画面を設定することが可能です。作成したチャートは「定型チャート」という形で保存して、新規にチャートを作成する際、定型チャートを簡単に呼び出すことができます。

さらに、MetaTrader 4 では、あらかじめ 8 種類の分析ツールに対応した定型チャートが用意されており、自分で作成せずとも基本的なチャートの利用が可能です。定型チャートは、チャートウィンドウ上で右クリックし「定型チャート」から選択することが出来ます。

チャートを初期状態に戻したい場合は、削除したい罫線分析ツール上で右クリックし「削除」を選ぶ方法と、プロパティー画面の「全般」タブから表示・非表示の設定をする方法があります。

2-9-1　定型チャートの挿入

1）右クリックメニューから利用



定型チャートを挿入したい場合は、チャートウィンドウ上で右クリックして「定型チャート」から任意のチャートを選択します。ツールバーの定型チャートアイコンからも設定できます。

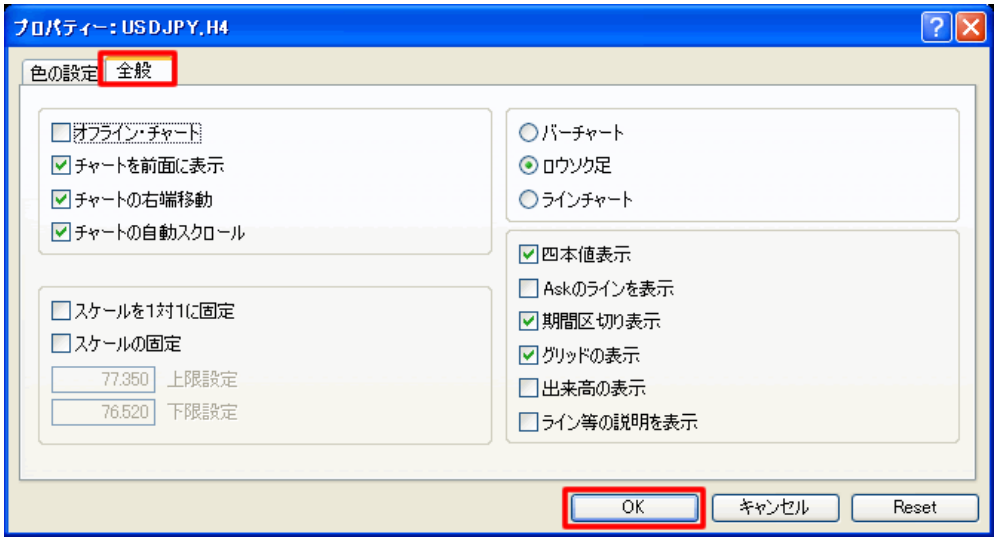
2）定型チャート挿入

選択した定型チャートが、チャートウィンドウに反映されました。

3）プロパティーを選択

定型チャートをカスタマイズしたい場合は、チャートウィンドウ上で右クリックし、「プロパティー」を選択します。

4）「全般」タブ

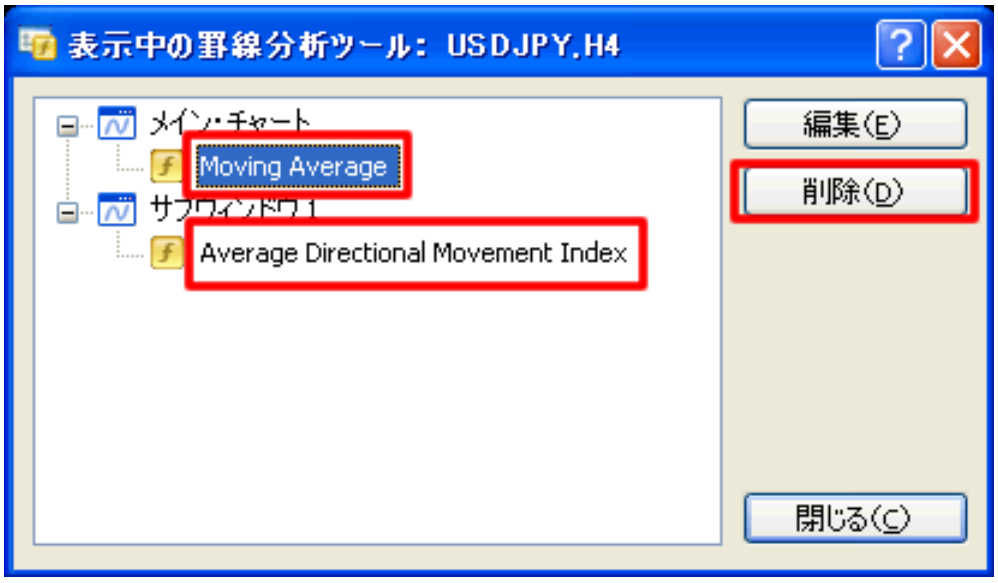


「全般」タブを開き、表示したい項目にはチェックを入れ、非表示にしたい項目からはチェックを外します。

5）罫線分析ツールのカスタマイズ

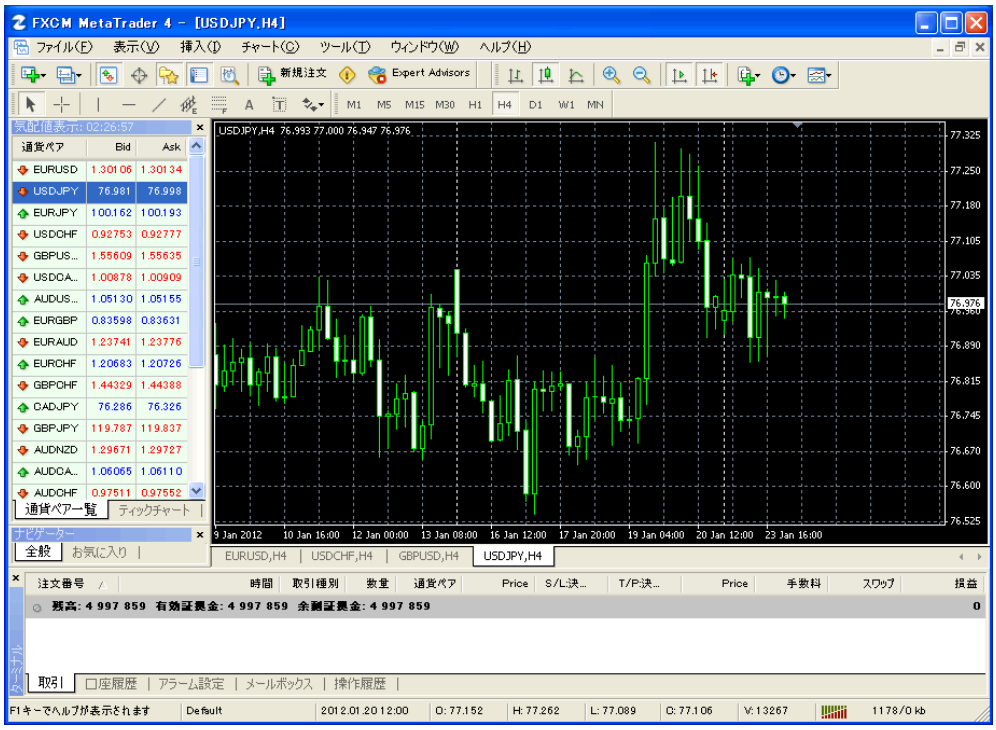
罫線分析ツールをカスタマイズしたい場合は、チャートウィンドウ上で右クリックし「表示中の罫線分析ツール」を選択します。

6）表示中の罫線分析ツール



表示中の罫線分析ツールウィンドウが表示されます。削除したい罫線分析ツールを選択し「削除」をクリックします。

7）カスタマイズ完了



設定が反映されました。

2-10　その他のチャートウィンドウ設定

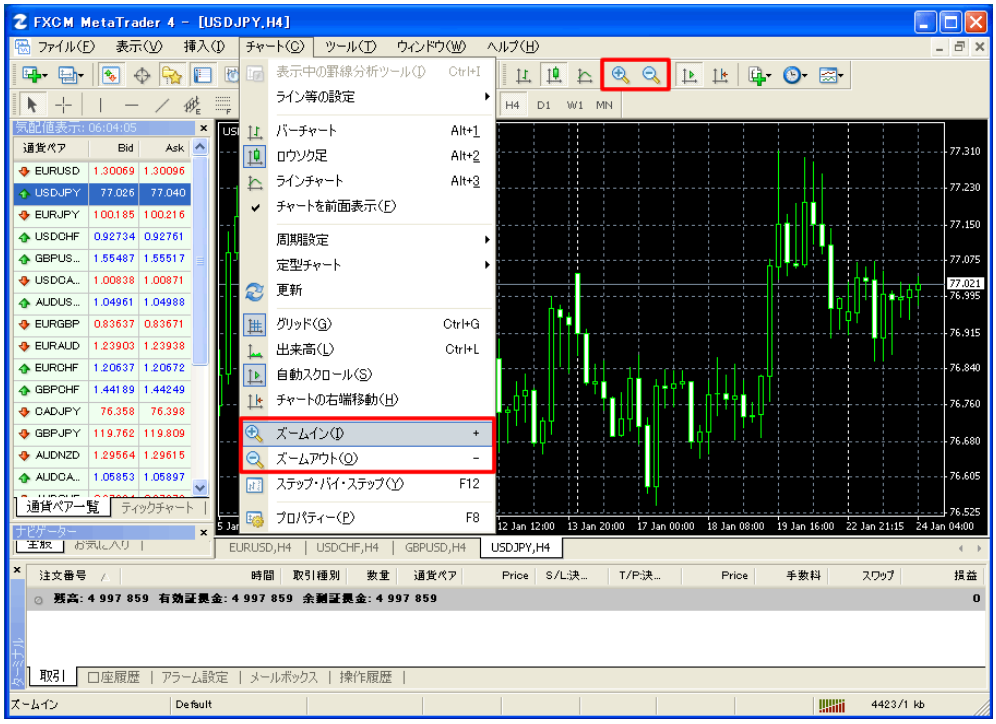
これまで紹介してきた機能以外にも、チャートウィンドウには様々な機能があり、代表的なものをそれぞれ解説します。

「ズームイン」、「ズームアウト」は、バーとバーの間隔を拡大したり縮小したりする機能です。長期間の動きを見たい場合はズームアウト、短期間の動きを見たい場合はズームインすると見やすくなります。

オフラインで市場の分析を行いたい時などに便利な機能として、チャートを画像として保存、プリントアウトすることも可能です。画像を保存する場合は、キャプチャ範囲を細かく指定することが可能です。

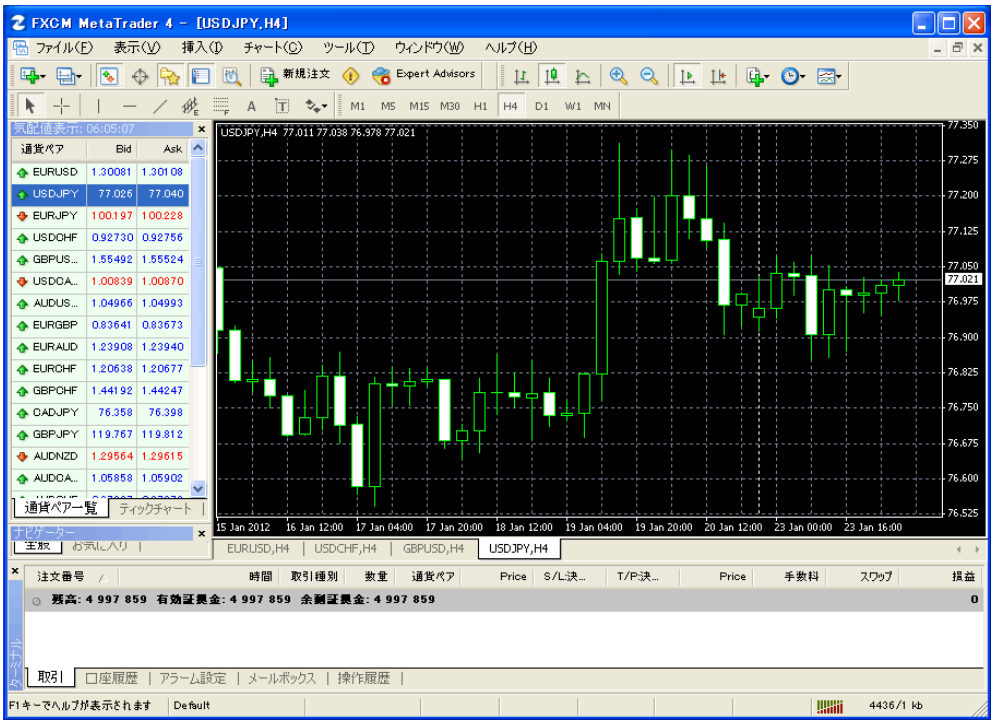
2-10-1　ズームイン・ズームアウト

1）右クリックメニューから利用



チャートウィンドウを右クリックし「ズームイン」もしくは「ズームアウト」を選択します。画面右上にあるツールバーのアイコンからも設定可能です。

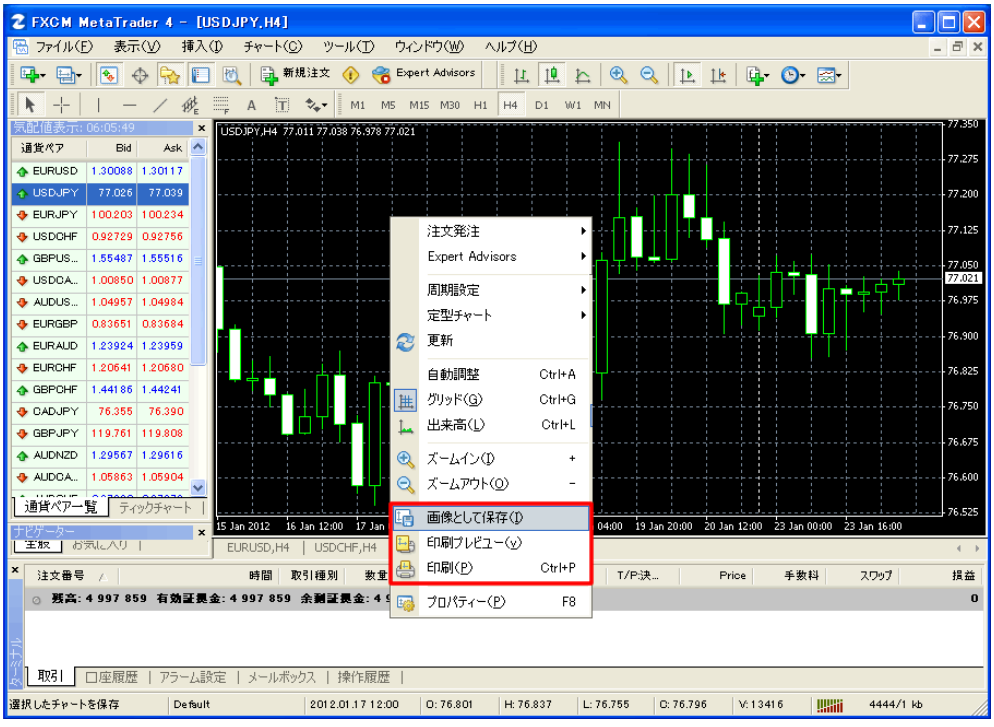
2）ズームイン完了



ズームインしました。チャートが拡大表示されています。

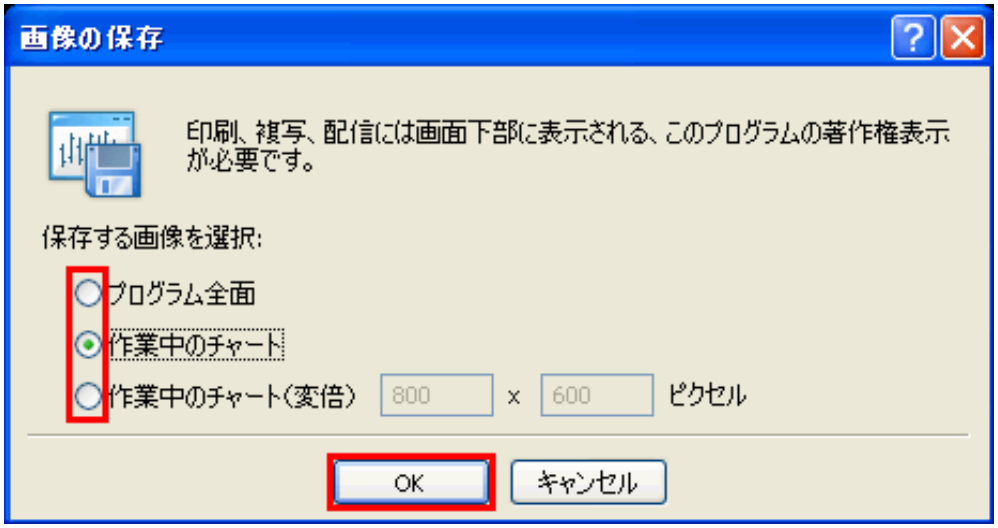
2-10-2　チャートを印刷・保存する

1）右クリックから選択



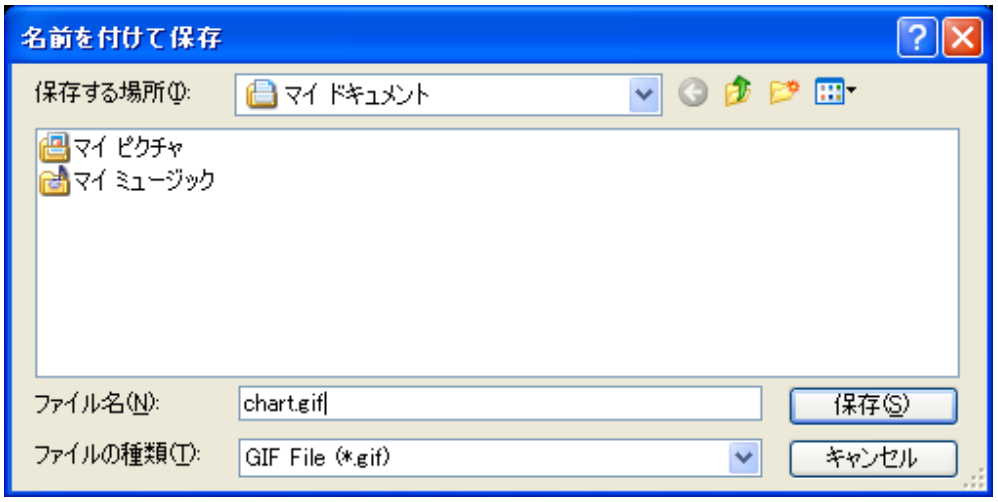
現在表示しているチャートを印刷・保存したい場合は、右クリックして「画像として保存」もしくは「印刷」を選択します。

2）キャプチャ範囲を指定



「画像として保存」を選択すると、画像の保存ウィンドウが表示されます。保存する画像を選択して「OK」をクリックします。

3）名前を付けて保存



任意のファイル名を付けて保存します。

3　ファイルメニュー

ファイルメニューは、おもにチャートを管理する際に使用します。ここではファイルメニューに関する解説をします。

3-1　チャート管理

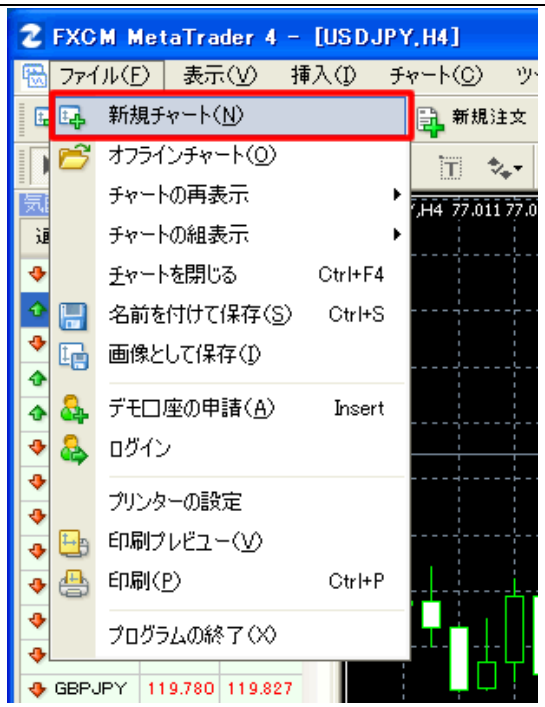
「新規チャート」は、新しくチャートを作成する際に利用します。選択後、通貨ペアが表示されるので、任意の通貨ペアを選択するとチャートが新しく作成され、チャートウィンドウに追加されます。

「オフラインチャート」は、過去数十年分の主要通貨ペアのデータです。数十年分の為替の動きを研究したい時などに便利です。オフラインチャートは、通常のチャートと異なり、リアルタイムで市場の動きを閲覧することはできません。

「チャートの組表示」は、複数のチャートを「組」という単位でまとめて、簡易に表示する機能です。自分で「組」を作成することも可能です。

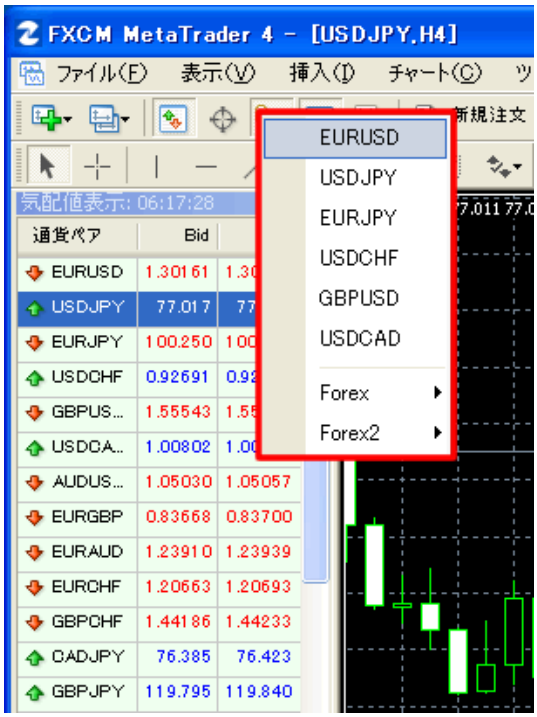
3-1-1　新規チャートの作成

1）新規チャートを選択



新しくチャートを作成する場合は「新規チャート」を選択します。

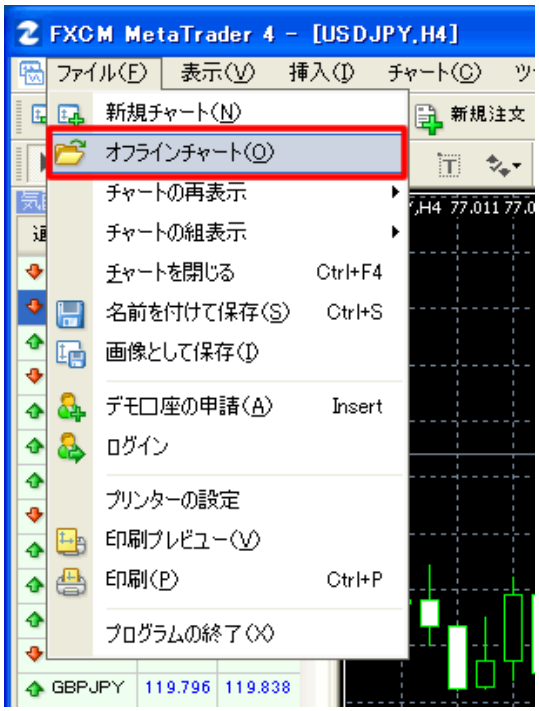
2）通貨ペアを選択



通貨ペア名が表示されるので、チャートを作成したい通貨ペアを選択すると、新たにチャートウィンドウに追加されます。

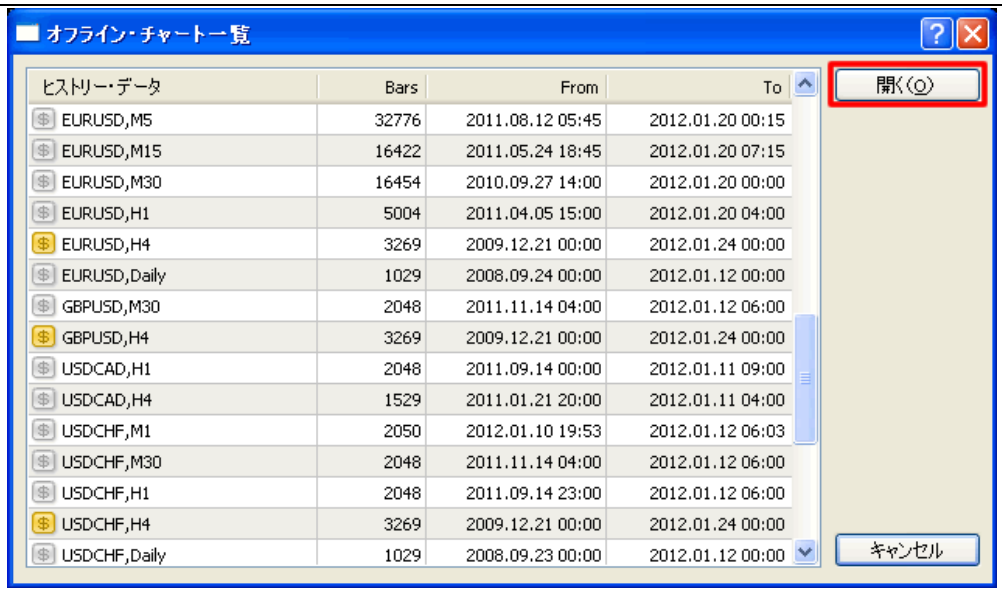
3-1-2　オフラインチャートで過去のデータを閲覧

1）オフラインチャートを選択



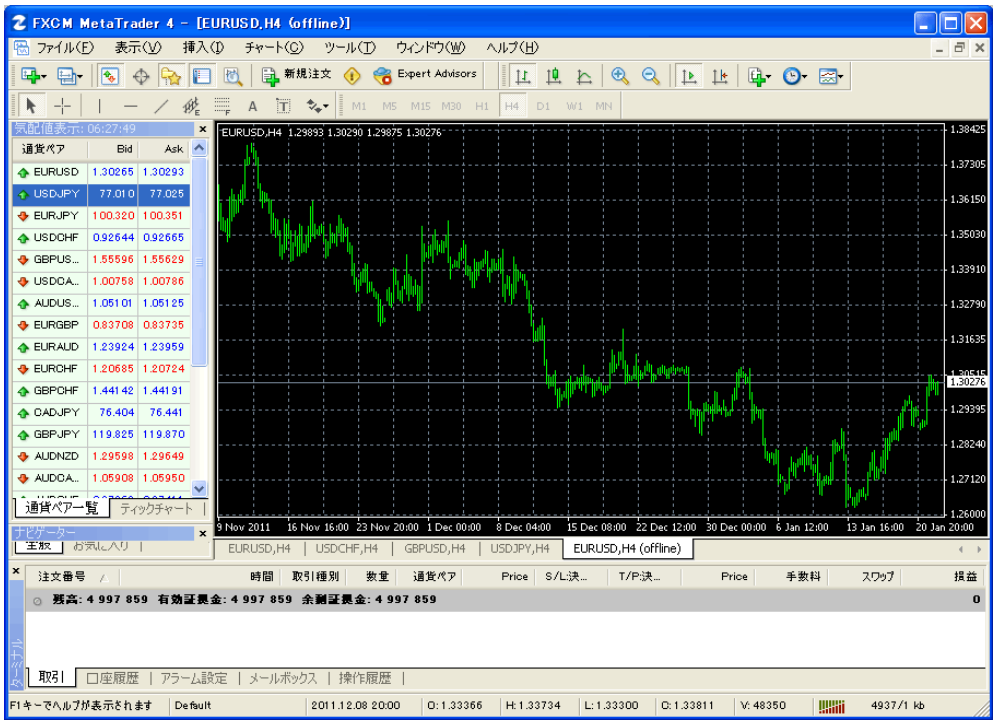
オフラインチャートを開く場合は、「オフラインチャート」を選択します。

2）通貨ペアを選択



オフラインチャート一覧が表示されます。閲覧したい通貨ペアを選択して「開く」アイコンをクリックします。

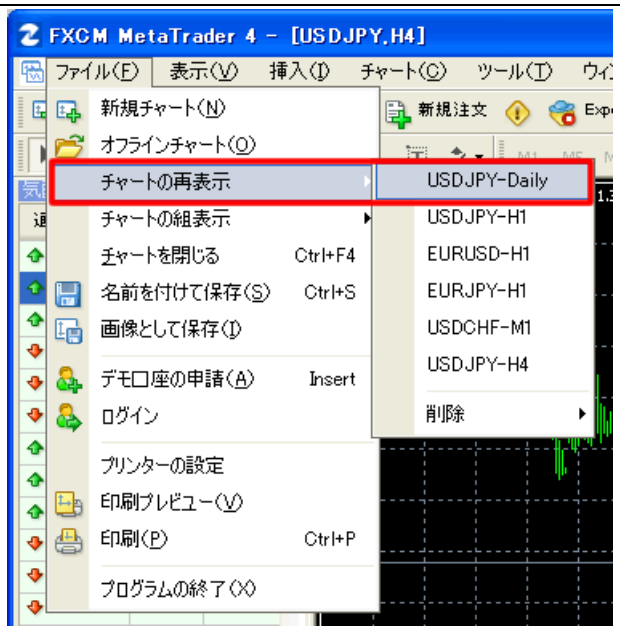
3）オフラインチャートが開く



指定した通貨ペアのオフラインチャートが開きます。

3-1-3　チャートの再表示

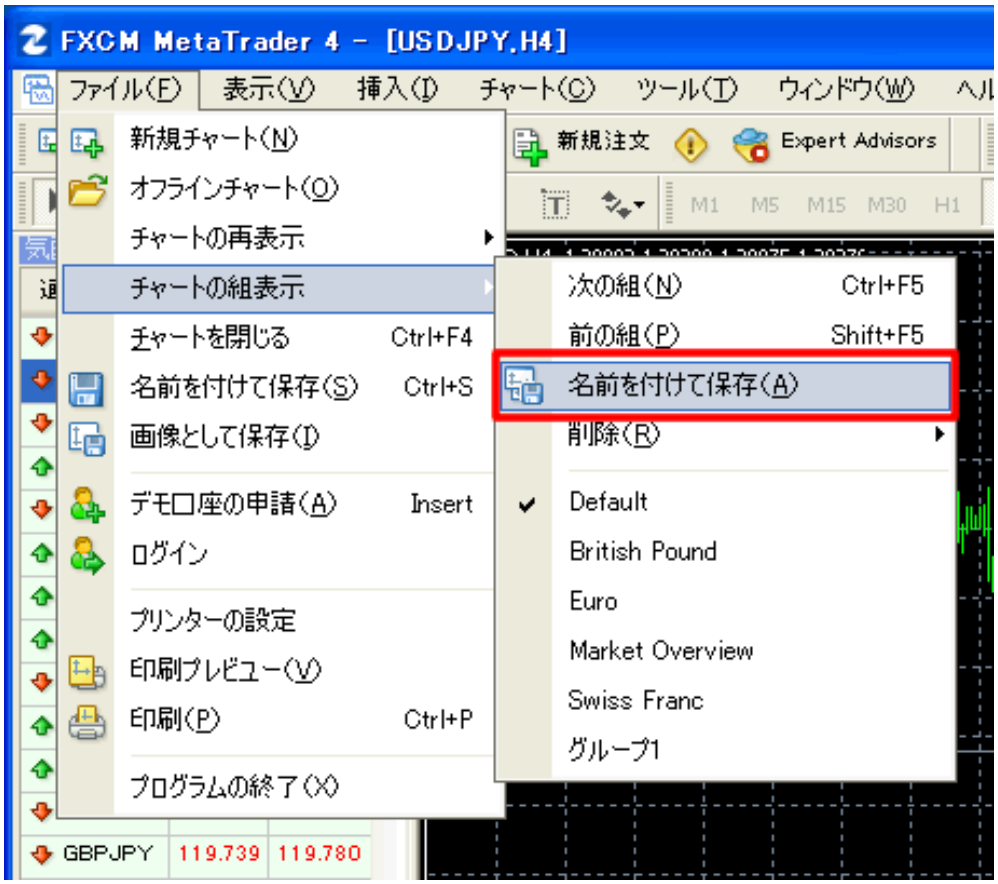
1）チャートを選択



「チャートの再表示」は、過去に削除したチャートを再表示させることが可能です。

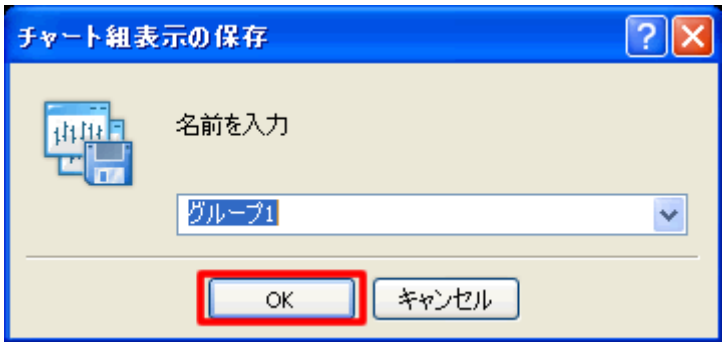
3-1-4　チャートの組表示

1）名前を付けて保存



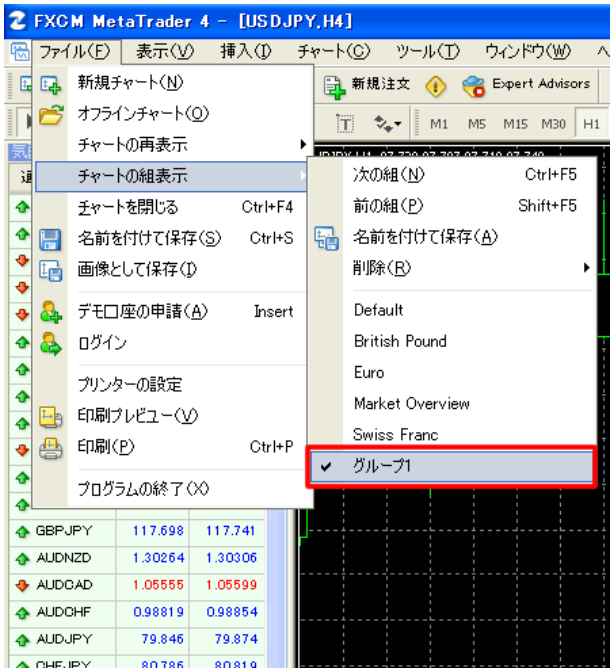
現在タブで開いているチャートを組としてまとめて保存する場合は、「チャートの組表示」から「名前を付けて保存」を選択します。

2）グループ名を入力



チャート組表示の保存ウィンドウが表示されます。任意のグループ名を入力し「OK」をクリックします。

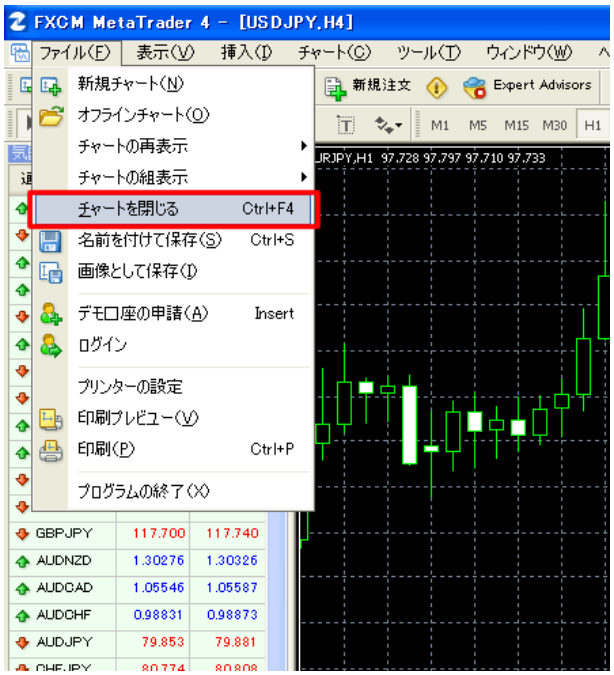
3）組の切り替え



「チャートの組表示」を開くと、先ほど作成した組が追加されており、選択するとチャートをまとめて開くことが可能です。

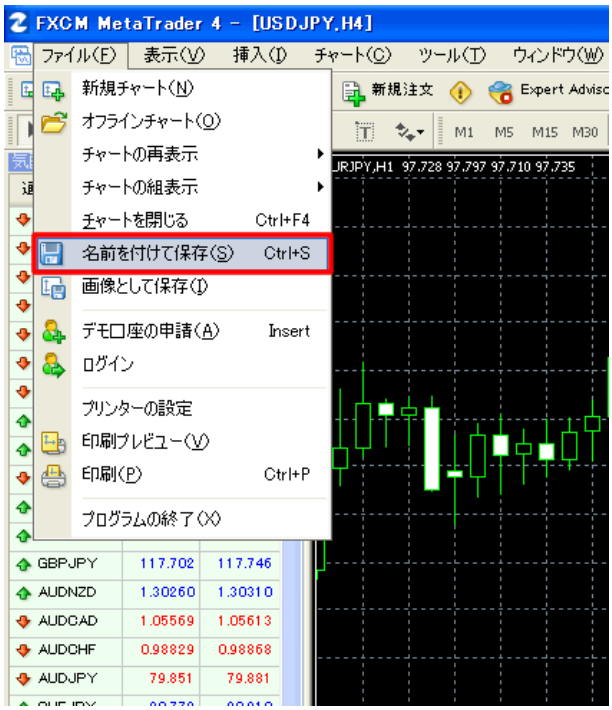
3-1-5　その他のチャートメニュー

・チャートを閉じる



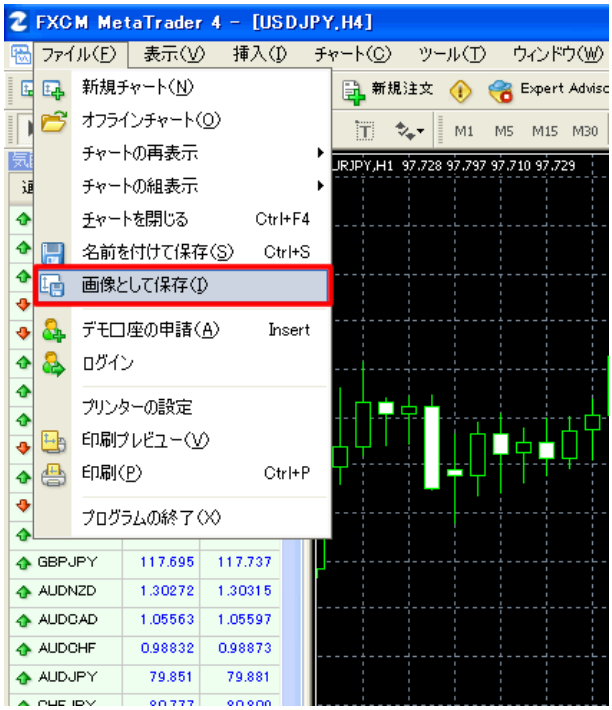
「チャートを閉じる」をクリックすると、現在開いているチャートを閉じることが可能です。

・名前を付けて保存



「名前を付けて保存」をクリックすると、作成したチャートを保存することが可能です。

・画像として保存



「画像として保存」をクリックすると、現在開いているチャート画像を保存可能です。

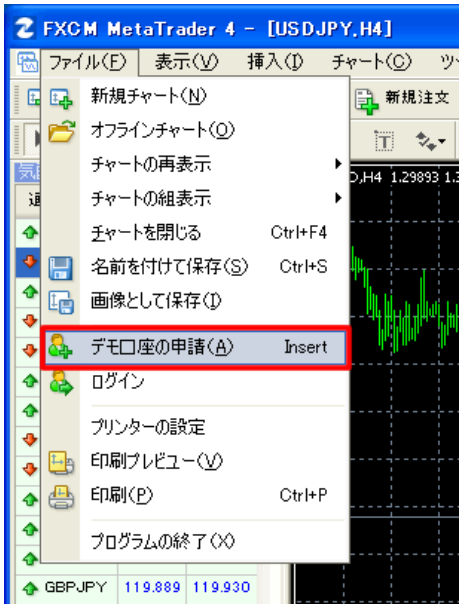
3-2　デモ口座の申請・ログイン

ファイルメニューで「デモ口座の申請」を選択すると、デモ口座の申請画面を起動させることができます。MetaTrader 4 の初回起動時に、デモ口座の申請をしていない場合は、この方法でファイルメニューから再度申請手続きを行えます。また、デモ口座は複数作ることができるので、既にデモ口座を作成している場合でも作成することができます。

「ログイン」では、デモ口座、および取引口座のアカウントにログインするためのログイン画面を起動させることができます。デモ口座と正式の口座ではサーバーが異なりますのでご注意ください。

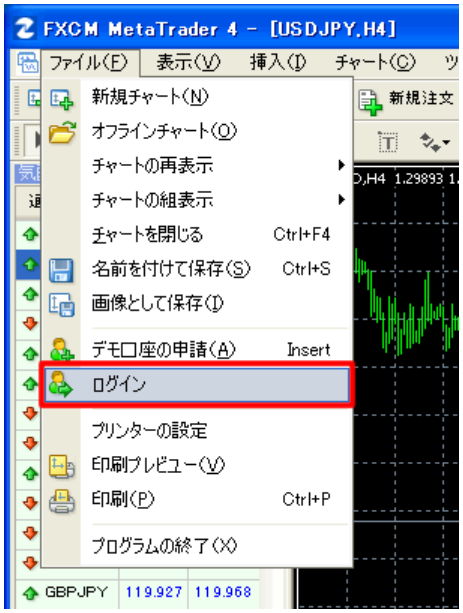
デモ口座のアカウントにログインする場合は「FXCM-JPYDemo01」を、取引口座のアカウントにログインする場合は「FXCM-JPYLive01」を選択します。

1）デモ口座の申請



「デモ口座の申請」をクリックすると、デモ口座の申請ウィザードが起動します。デモ口座の申請画面の詳細は 1 章を参照してください。

2）ログイン



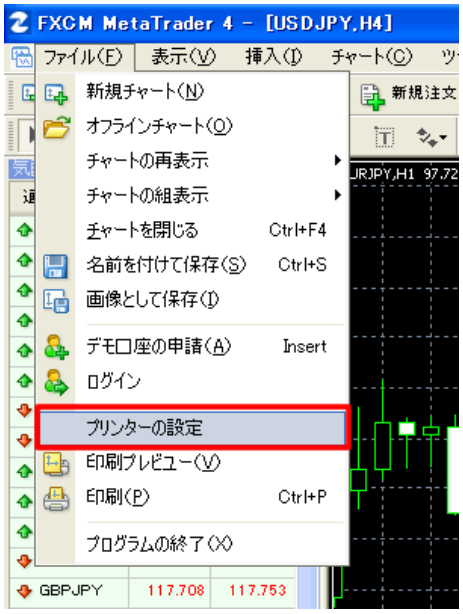
作成したデモ口座のアカウント、および取引口座のアカウントにログインしたい場合は、「ログイン」からログインウィンドウを立あげ、任意のログイン ID を選択します。

3-3　印刷設定

ファイルメニューには、印刷関係のメニューも含まれます。「プリンターの設定」は、印刷に利用するプリンターの設定画面にアクセスするためのメニューです。ページサイズなどを指定できます。「印刷プレビュー」は、印刷後の状態をプレビュー表示できる機能です。このメニューは右クリックメニューにある「印刷プレビュー」と同じ機能です。「印刷」をクリックすると、実際に印刷を実行します。

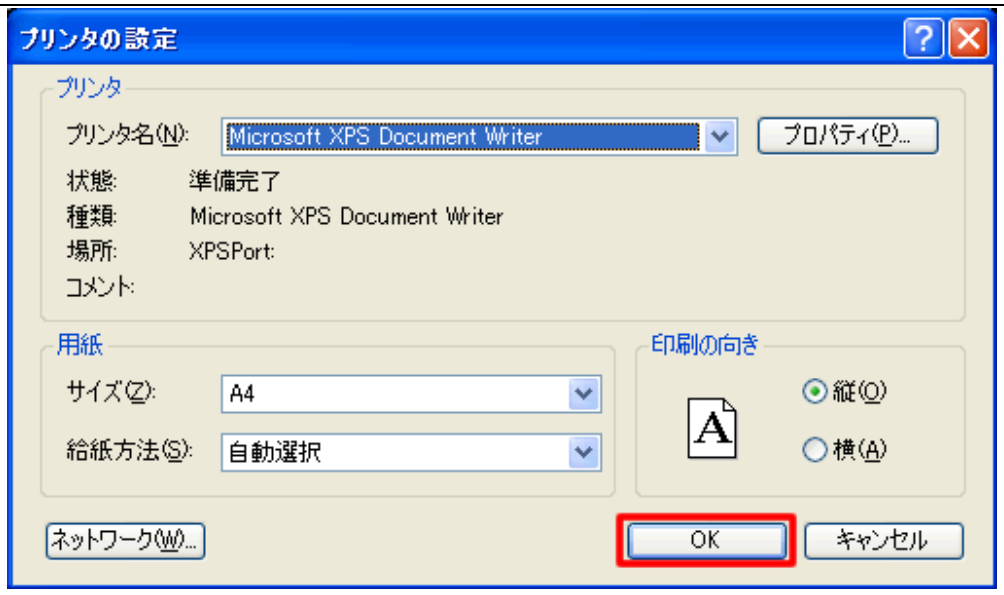
3-3-1　プリンターの設定

1）プリンターの設定を選択



「プリンターの設定」をクリックするとプリンターの設定画面が表示されます。プリンターが接続されていない場合は表示されません。

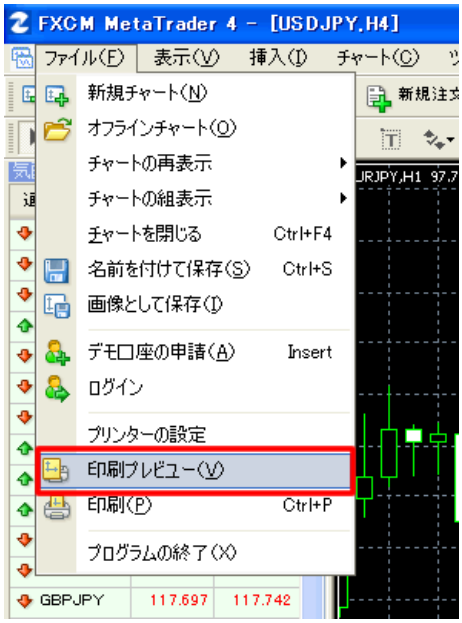
2）設定画面



プリンターの設定画面が表示されます。用紙サイズや印刷の向きなどを設定します。

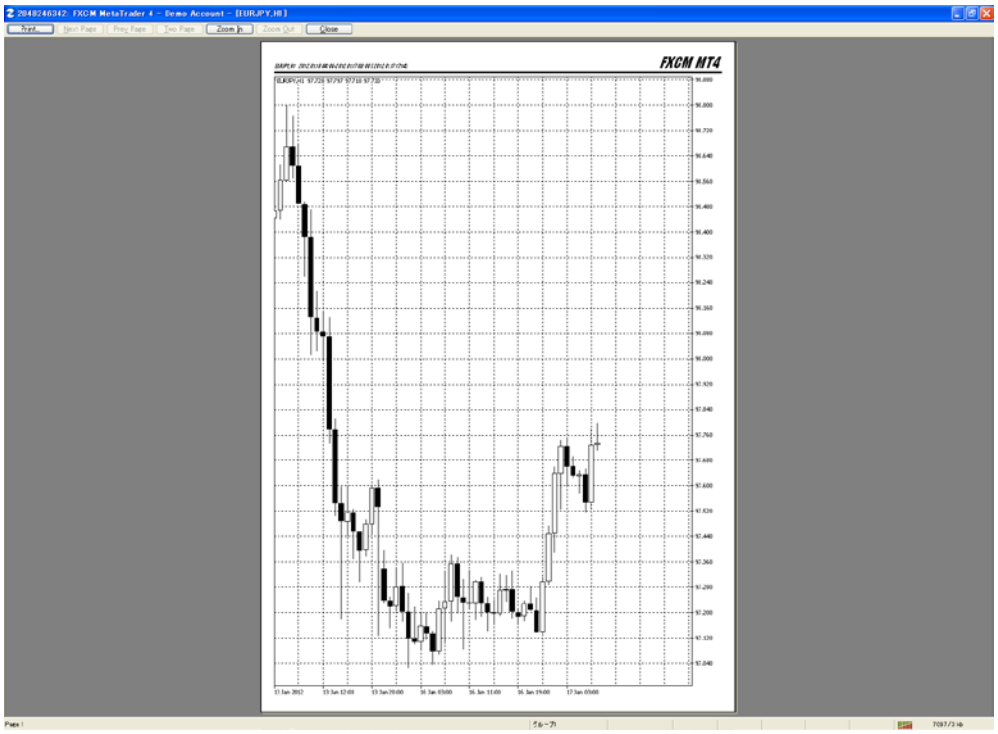
3-3-2　印刷のプレビュー

1）印刷プレビューの選択



「印刷のプレビュー」をクリックすると印刷時のプレビュー画面が表示されます。ただしプリンターが接続されていない場合は表示されません。

2）プレビュー画面



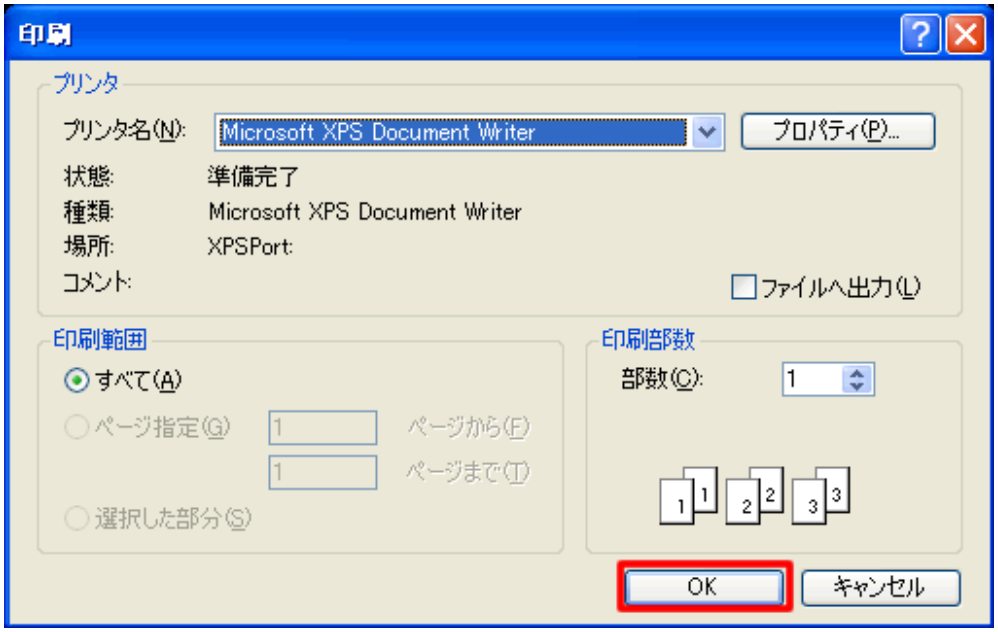
プレビュー画面が表示されました。プレビュー画面では拡大・縮小の設定ができます。「印刷」をクリックすると、印刷設定画面に移動します。

3-3-3　印刷

1）印刷を選択

「印刷」をクリックすると印刷設定画面が表示されます。ただしプリンターが接続されていない場合は表示されません。

2）印刷設定画面



「OK」をクリックすると表示中のチャートが印刷されます。「プロパティー」をクリックするとプリンターの設定画面が表示されます。

4　表示メニュー

表示メニューでは、MetaTrader 4 のインターフェースに表示されている各種ウィンドウの設定が行えます。利用頻度の低いウィンドウは、表示メニューから非表示設定にすることもできます。ここでは表示メニューに関する解説をします。

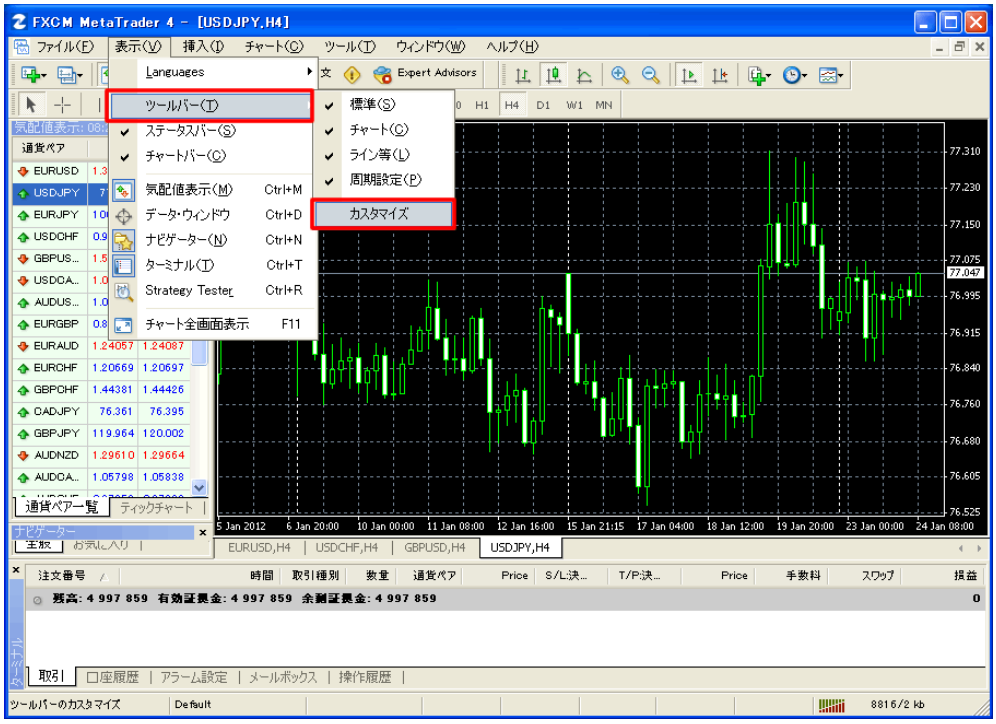
4-1　ツールバーのカスタマイズ

表示メニューでは、「標準バー」、「チャートバー」、「ラインバー」、「周期設定バー」の各種ツールバーのカスタマイズを行うことができます。ツールバーに追加したいプログラムアイコンがある場合、もしくは利用しないプログラムアイコンがある場合は、カスタマイズしてより使いやすくすることが可能です。また、仕切り線の位置を変更したり、追加したりすることもできます。

その他にチャートウィンドウ下部にあるチャートバー（タブ）の設定やステータスバーの変更ができます。

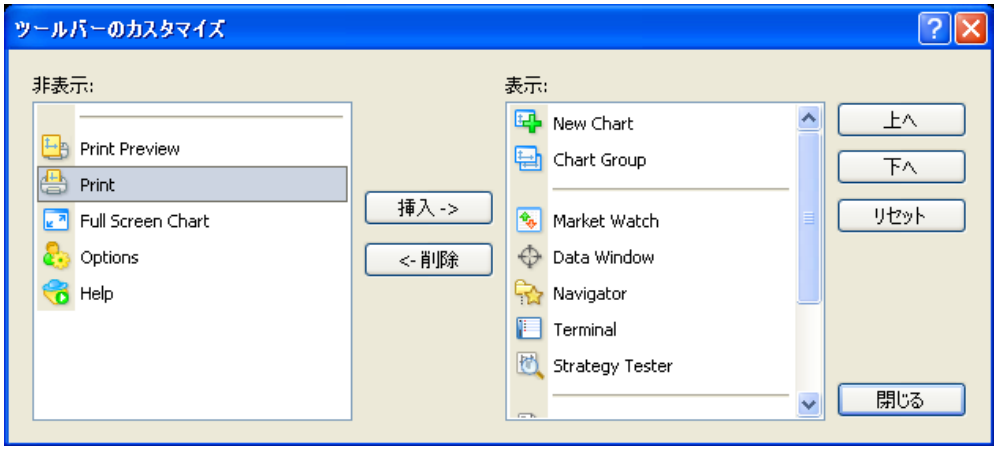
表示メニューにある「Language」では言語設定が可能となっていますが、一部言語では文字化けする可能性があるため、日本語での使用をお勧めします。言語設定を反映させるには、Meta Trader 4 の再起動が必要です。

1）ツールバーをカスタマイズ



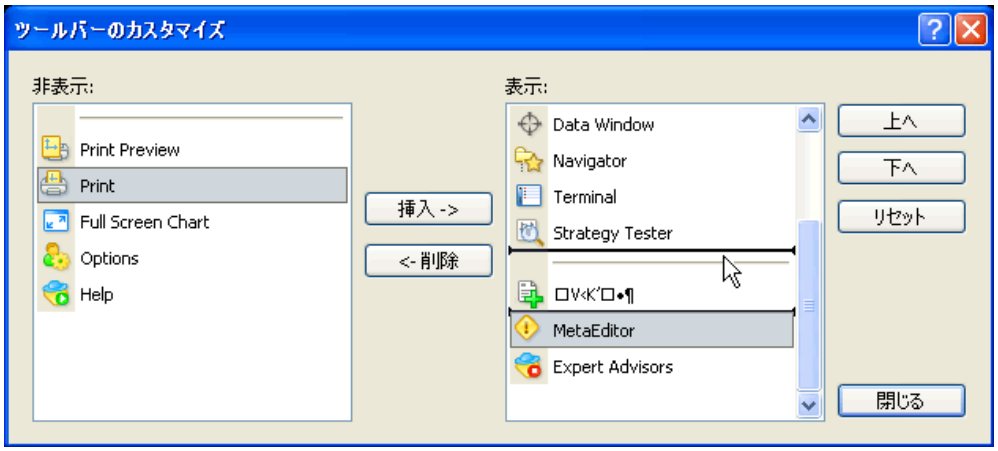
ツールバーをカスタマイズしたい場合は、表示メニューの「ツールバー」から「カスタマイズ」を選択します。

2）カスタマイズ画面



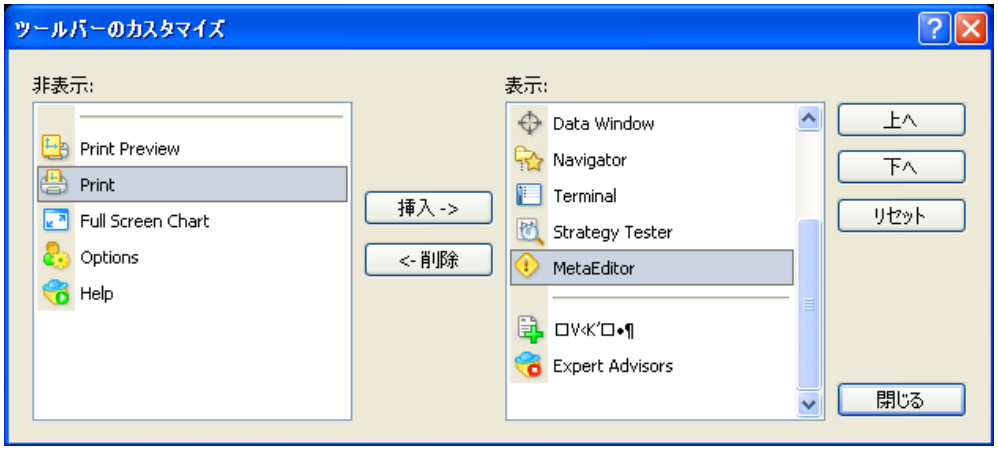
ツールバーのカスタマイズ画面が表示されます。アイコンを追加したい場合は「非表示」から追加したいアイコンを選択し「挿入」をクリックします。

3）アイコンの位置を調整



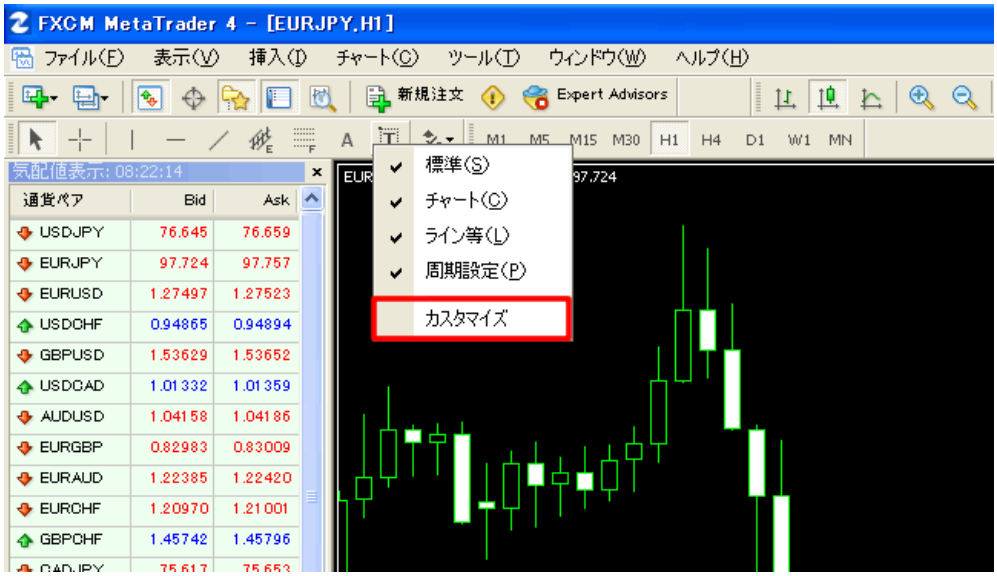
アイコンが追加されたらドラッグしてアイコンの位置を設定します。

4）カスタマイズ終了



カスタマイズが終了したら「閉じる」アイコンをクリックします。

5）他のツールバーをカスタマイズ

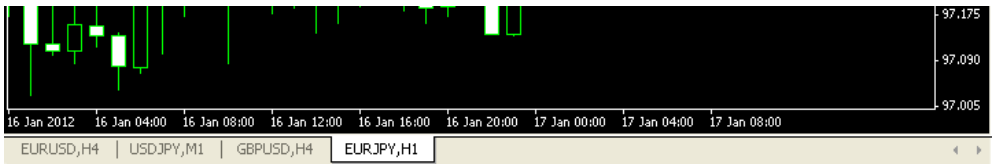


チャートバーやラインバーなど他のツールバーをカスタマイズしたい場合は、各ツールバー上で右クリックし「カスタマイズ」を選択します。

6）ステータスバー

ステータスバーは MetaTrader 4 のインターフェース最下部にある横長のバーで、ネットワーク速度が表示されています。

7）チャートバー



チャートウィンドウ下部にあるタブのことをチャートバーと呼びます。ツールバーにあるチャートバーとは別物です。

4-2　Strategy Tester を利用する

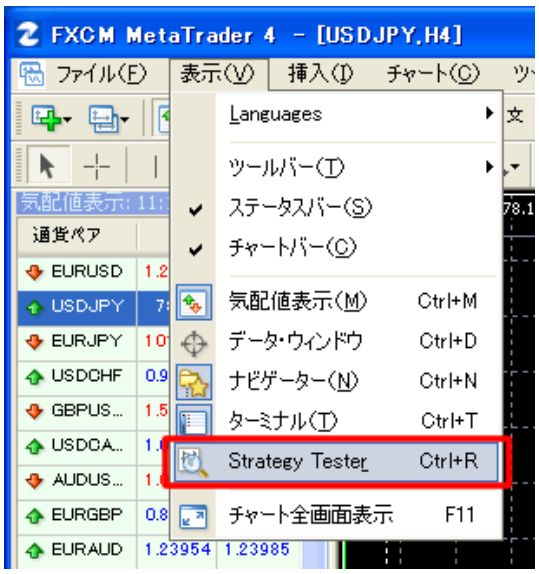
「Strategy Tester」は、MQL4 で作成した「Expert Advisors（システム売買プログラム）」のバックテストを行い、その有効性を検証するための機能です。MetaTrader 4 には初期の状態で「MACD Sample」と「Moving Average」の 2 種類の Expert Advisors が搭載されており、これらを利用してテストすることも可能です。

Strategy Tester ウィンドウを起動後、各種項目を入力して「スタート」アイコンをクリックするとバックテストが開始されます。バックテストが終了するまで多少時間がかかります。テストが終了すると結果が各種項目に表示されます。

「結果」タブを押すと、テストした EA の全取引結果が表示されます。また、「Graph」タブを押すと、収益結果のグラブが表示されます。「レポート」タブを押すと、取引の結果がレポート形式で表示されます。

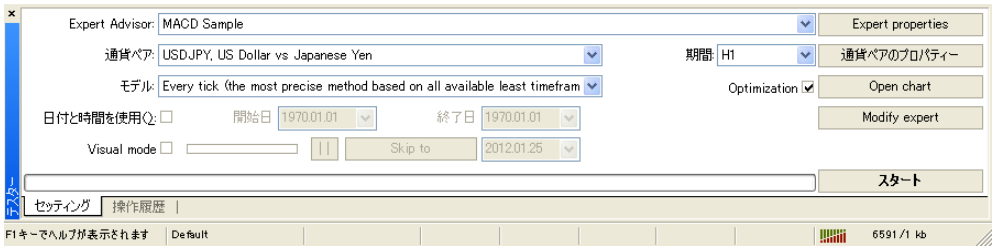
Expert Advisorsの詳細については 7 章で解説します。

1）Strategy Tester を起動



Strategy Tester を起動する場合、表示タブから「Strategy Tester」を選択します。

2）各種項目を入力



Strategy Tester が起動します。各種項目を入力してテストを行います。

Strategy Tester の項目

・Expert Advisors

バックテストを行う Expert Advisors を指定する。

・Expert properties

Expert Advisors のパラメーター設定や口座残高の設定を行う。

・通貨ペア

バックテストをする通貨ペアを指定する。

・期間

バックテストを行う時間枠を指定する。

・通貨ペアのプロパティー

通貨ペアの情報を閲覧できる。

・モデル

・Optimization

チェックを入れると最適なパラメーターを見つけ出す作業を行う。

・Open chart

テスト実施後、そのテスト結果をチャートウィンドウに表示します。

・日付と時間を使用

検証期間を設定します。

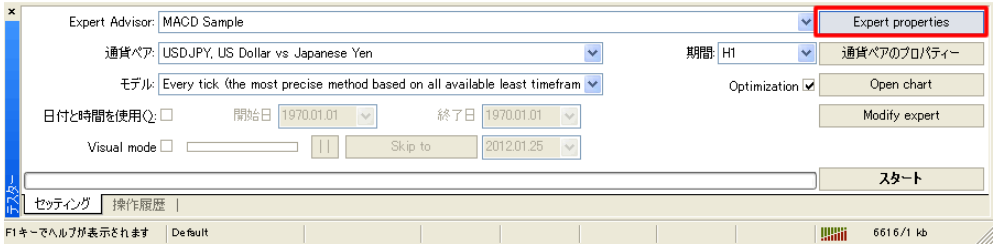
・Modify expert

選択した EA を、MetaEditor で開く。

・Visual mode

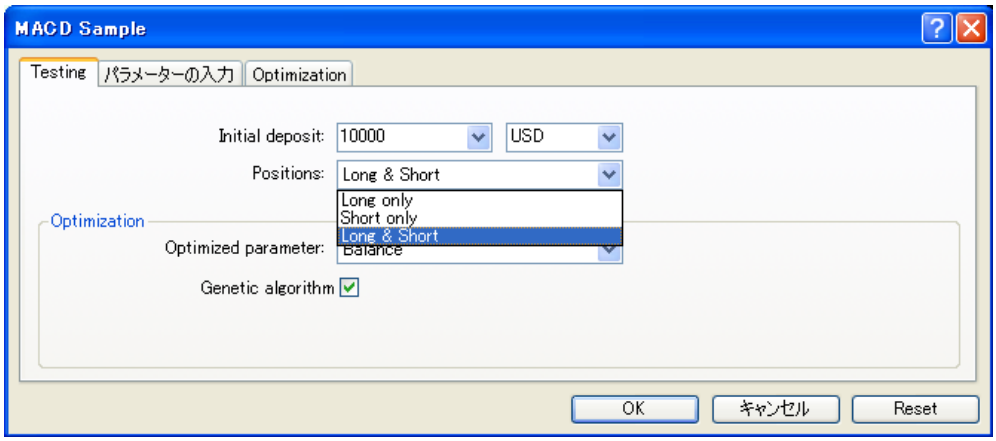
売買のポイントがチャート上に表示されます。

・**Expert properties 画面**



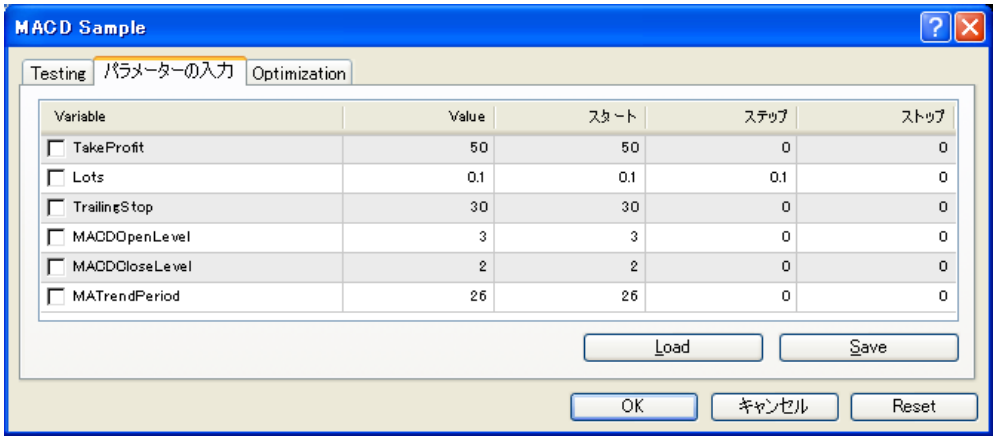
Expert properties アイコンをクリックすると指定した Expert Advisors のパラメーター設定や発注する通貨などに関するプロパティー画面が表示されます。

・**Testing 画面**



Testing タブでは発注する通貨の種類、証拠金の額、そして Long（買い）もしくは Short（売り）でポジションを持つか選択することができます。Optimized parameter では利用するパラメーターの種類を選択することができます。

・パラメーターの入力画面



「パラメーター」の入力画面では、パラメーター範囲と刻み（ステップ）の詳細な設定が行えます。変化させたいパラメーターの左にあるチェックボックスにチェックを入れ、各数値をカスタマイズします。複数のパラメーターにチェックを付けると、2 次元、3 次元的に各パラメーターの相互影響を含めたテストができます。

Point

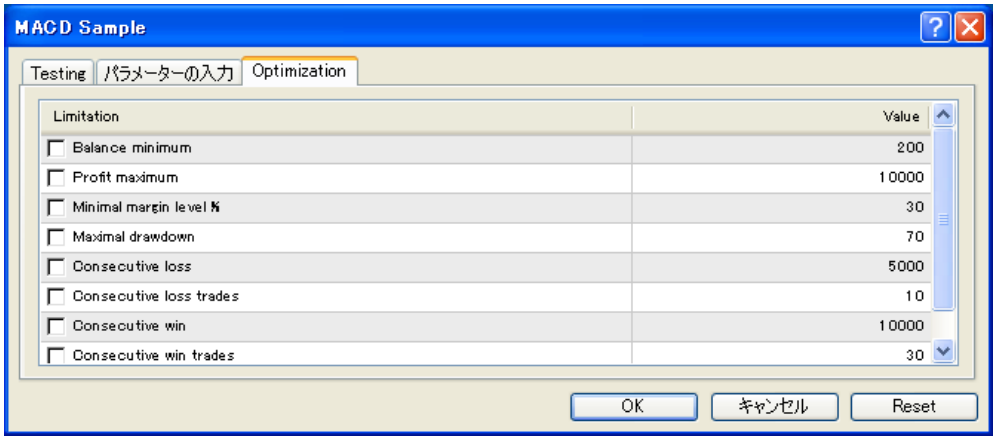
Value：デフォルトの値

スタート：開始値

ステップ：間隔

ストップ：終了値

・Optimization 画面



最適化の限界値を設定します。このタブで設定した数値に達した際に、現在のパスは止められ次のパスが始動します。

Point

・Balance minimum

預金通貨の最低限残高値

・Profit maximum

預金通貨の最大の利益

・Minimal margin level

最小量のマージンレベル

・Maximal drawdown

最大限度のドローダウン

・Consecutive loss

連続した損失

・Consecutive loss trades

連続負けトレード数

・Consecutive win

連続した利益

・Consecutive win trades

連続勝ちトレード数

3）結果タブ

#	時間	取...	注文番号	数量	Price	S/L決済逆...	T/P決済指値	損益	Balance
1	2011.04.19 19:49	buy	1	0.10	82.540		82.590		
2	2011.04.19 20:18	modify	1	0.10	82.540	82.542	82.590		
3	2011.04.19 20:19	modify	1	0.10	82.540	82.545	82.590		
4	2011.04.19 20:19	modify	1	0.10	82.540	82.548	82.590		
5	2011.04.19 20:19	modify	1	0.10	82.540	82.551	82.590		
6	2011.04.19 20:19	modify	1	0.10	82.540	82.555	82.590		
7	2011.04.19 20:20	modify	1	0.10	82.540	82.558	82.590		

ツールボックス　セッティング | Optimization Results | Optimization Graph | 結果 | Graph | レポート | 操作履歴

「結果」タブでは、Expert Advisors を利用したバックテストの結果が表示されます。この場合は 384 回の取引を過去の実際の相場でテスト結果、「−257.85 ドル」という結果が表示されました

Point

・#

トレード作業の番号

・時間

トレード作業を行った時間

・取引種別

実行したトレード作業の種類

・注文番号

トレードしたポジションの番号

・数量

ロット数

・Price

発注したポジションの価格

・S/L 決済逆指値

設定しておいた損失確定価格

・T/P 決済指値

設定しておいた利益確定価格

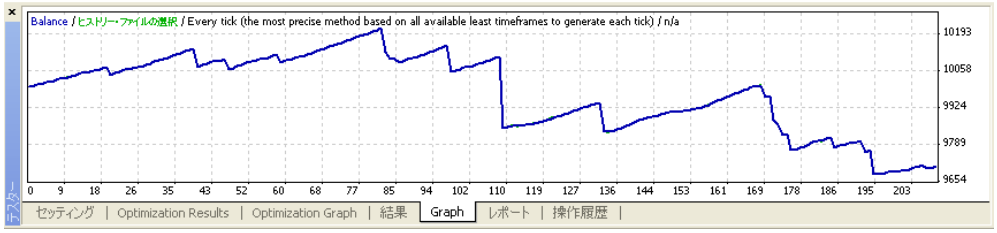
・損益

トレード後の実際の損益

・Balace

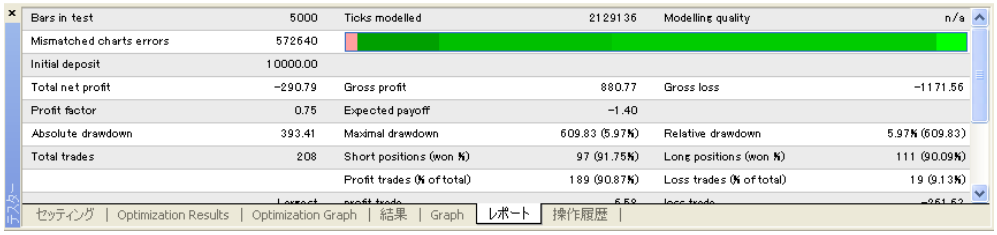
証拠金残高

4）Graph タブ


Balance / ヒストリー・ファイルの選択 / Every tick (the most precise method based on all available least timeframes to generate each tick) / n/a
10193
10058
9924
9789
9654
0 9 18 26 35 43 52 60 68 77 85 94 102 110 119 127 136 144 153 161 169 178 186 195 203
テスター
セッティング | Optimization Results | Optimization Graph | 結果 | Graph | レポート | 操作履歴

「Graph」タブでは、Expert Advisors を利用したバックテストの結果がグラフで表示されます。縦軸は預通貨残額が表示され、横軸にはポジションの注文番号が表示されます。ここで、バックテストの結果からその Expert Advisors の有効性を見ることができます

5）レポートタブ


Bars in test 5000 Ticks modelled 2129136 Modelling quality n/a
Mismatched charts errors 572640
Initial deposit 10000.00
Total net profit -290.79 Gross profit 880.77 Gross loss -1171.56
Profit factor 0.75 Expected payoff -1.40
Absolute drawdown 393.41 Maximal drawdown 609.83 (5.97%) Relative drawdown 5.97% (609.83)
Total trades 208 Short positions (won %) 97 (91.75%) Long positions (won %) 111 (90.09%)
Profit trades (% of total) 189 (90.87%) Loss trades (% of total) 19 (9.13%)
テスター
セッティング | Optimization Results | Optimization Graph | 結果 | Graph | レポート | 操作履歴

「レポート」タブでは、バックテストの結果の詳細が確認可能です。ここで、バックテストの結果からその Expert Advisors の有効性を理解することが可能です

Point

・Bars in test

テストをしたバーの数

・Ticks modeled

テストで利用したティック数

・Mismatched charts errors

周期ごとの時間足データに不整合がある数。たとえば、１分足と５分足の高値や安値の値が一致しなかった場合にカウントされる。

・Initial deposit

初期投資額

・Total net profit

総純益（総利益ー総損失）

・Gross profit

総利益

・Gross loss

総損失

・Profit factor

プロフィットファクター。1 セントあたりの売上総利益と総損失間の比率

・Expected payoff

期待損益

・Absolute drawdown

初期投資額からのドローダウン

・Maximal drawdown

最大ドローダウン

・Total trades

総トレード数

・Short positions

売りポジション数（勝率）

・Long positions

買いポジション数（勝率）

・Profit Trades(% of total)

利益トレード（率）

・Loss trades(% of total)

損失トレード（率）

・Largest profit trade

１トレードあたりの最大利益

・Largest loss trade

１トレードあたりの最大損失

・Average profit trade

利益トレード平均

・Average loss trade

損失トレード平均

・Maximum consecutive wins ($)

最大連続勝ちトレード数（金額）

・Maximumconsecutive losses ($)

最大連続負けトレード数（金額）

・Maximal consecutive profit (count)

最大連続利益（回数）

・Maximal consecutive loss (count)

最大連続損失（回数）

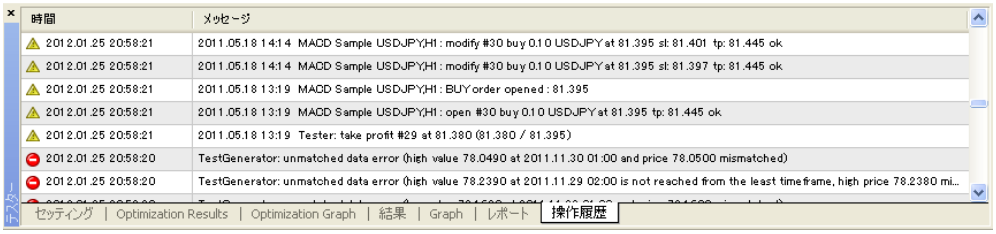
・Average consecutive wins

平均連続勝ちトレード数

・Average consecutive losses

平均連続負けトレード数

6）操作履歴タブ



「操作履歴」タブでは、Expert Advisors が行った操作の履歴を確認可能です

4-3　データウィンドウ

「データウィンドウ」では、チャート内の指定した部分の日付、始値、高値、安値、終値、出来高の詳細を表示します。また、現在のレートの詳細も表示できます。表示されたデータは、右クリックメニューにある「コピー」で簡単にコピーすることが可能です。

日付や始値などの表示項目は、初期の状態ではすべて表示されていますが、自由にカスタマイズすることが可能です。その他に、「グリッド」からグリッド線の表示・非表示、「直近を表示」からリアルタイムレートの詳細表示・非表示などの設定も行えます。

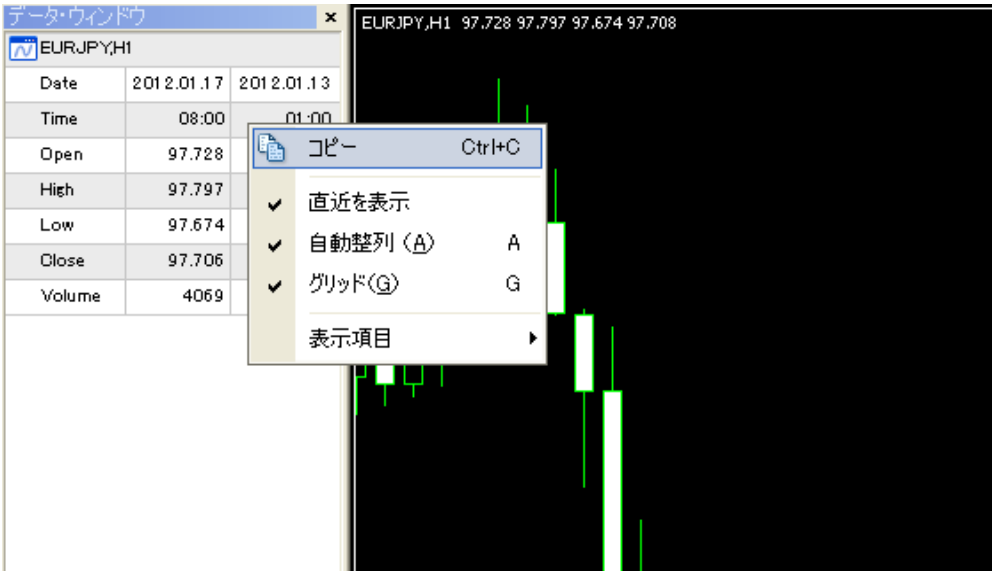
1）データウィンドウを表示

データウィンドウを表示する場合は、表示タブから「データ・ウィンドウ」を選択します。

2）データ詳細を表示

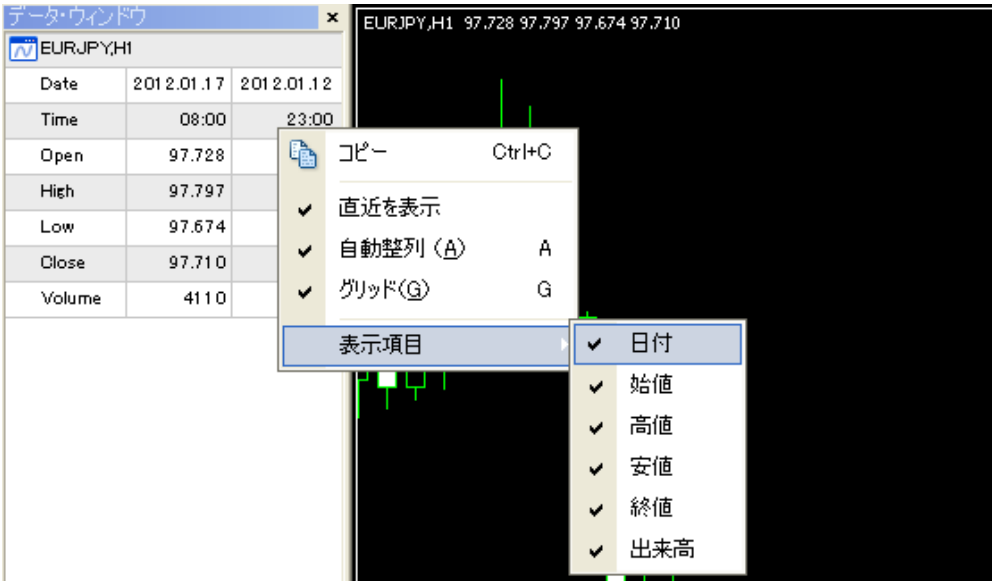
データウィンドウが表示されます。詳細なデータを知りたい場所にマウスカーソルを合わせると、データウィンドウにデータが表示されます。

・右クリックメニューからコピー



データをコピーしたい場合は、右クリックメニューから「コピー」を選択します。

・表示項目をカスタマイズ



表示項目をカスタマイズする場合は、右クリックで「表示項目」を選択し、表示したい項目のみチェックを入れます。

5 挿入メニュー

挿入メニューは MetaTrader 4 の様々な分析ツールをチャートへ挿入する際に利用します。これらの分析ツールは「罫線分析ツール」から呼び出します。ここでは挿入メニューに関する解説をします。

5-1 罫線分析ツール

分析ツールには大きく二種類があります。市場の上昇・下降トレンドを表す「Trend」系の分析ツールと、相場の強弱を表す「Oscillator」系の分析ツールです。他にも量的な指標を含む「Volume」や、ビル・ウィリアムスが開発したツールをあつめた「Bill Williams」、カスタマイズしたツールの「カスタム」があります。

これらのツールはチャート上に重なって表示されるタイプのものと、チャート外にサブウィンドウとして表示されるものがあります。

各分析ツールにはパラメーターがあり、それらを変更することで分析ツールのスタイルや設定を変更することができます。以下に Moving Average のパラメーター例を記載します。

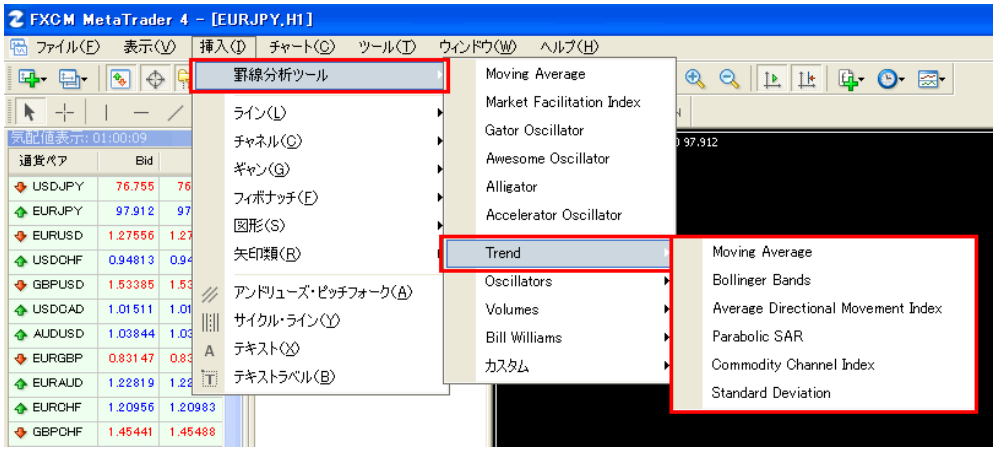
・パラメーターの例（1）

「パラメーター」タブでは基本的な設定を行います。図は Moving Average(移動平均)のパラメーターです。「期間」パラメーターで平均値を算出する対象期間を設定できます。

・パラメーターの例（2）

「移動平均の種別」を選択すると、移動平均線の計算方法を設定できます。

5-1-1 「Trend」メニュー



「Trend」メニューには、主に市場の上昇・下降トレンドを測定するために使われるツールがあります。

・Moving Average(移動平均)

Moving Average(移動平均)は分析ツールのなかでも基本中の基本のツールです。移動平均とは任意のデータ本数の終値で平均値を算出したものです。たとえば、5 日前までの終値をすべて足して 5 で割ります。この値を毎日算出し結んでゆくと「5 日移動平均線」になります。赤色の移動平均線は 14 日間、黄色の移動平均線は 5 日間にそれぞれ期間指定しています。

・Bollinger Bands(ボリンジャーバンド)

ボリンジャーバンドは、移動平均を中心として、±1σ（第 1 標準偏差)、±2σ（第 2 標準偏差）のラインを外側に向かって引いていきます。統計学的には「±1σ」の間に値が存在する確率が約 68.3%、「±2σ」の間に値がある確率が約 95.5%とされています。チャートが±2σのラインからはみ出したら、約 95.5%の確率で±2σ以内に戻ると考え、そこを取引のシグナルと捉えます。

・Avarage Directional Movement Index

Average Directional Movement Index(ADMI、一般的には DMI)はトレンドの強さを測るための指標です。別ウィンドウに表示されるグラフは「+DM」、「-DM」、「ADX」の 3 本の線で構成されます。一般的に+DI が-DI より上に位置している場合は強気相場、+DI が-DI より下に位置している場合は弱気相場とされ、+DI と-DI がクロスした点が売買ポイントとされています。

・Standard Deviation

Standard Deviation（標準偏差）は過去の値の変動幅を元に計算される指標で、値の変動リスクの測定に使います。この値が大きいほど値動きの幅が大きいと考えられます。

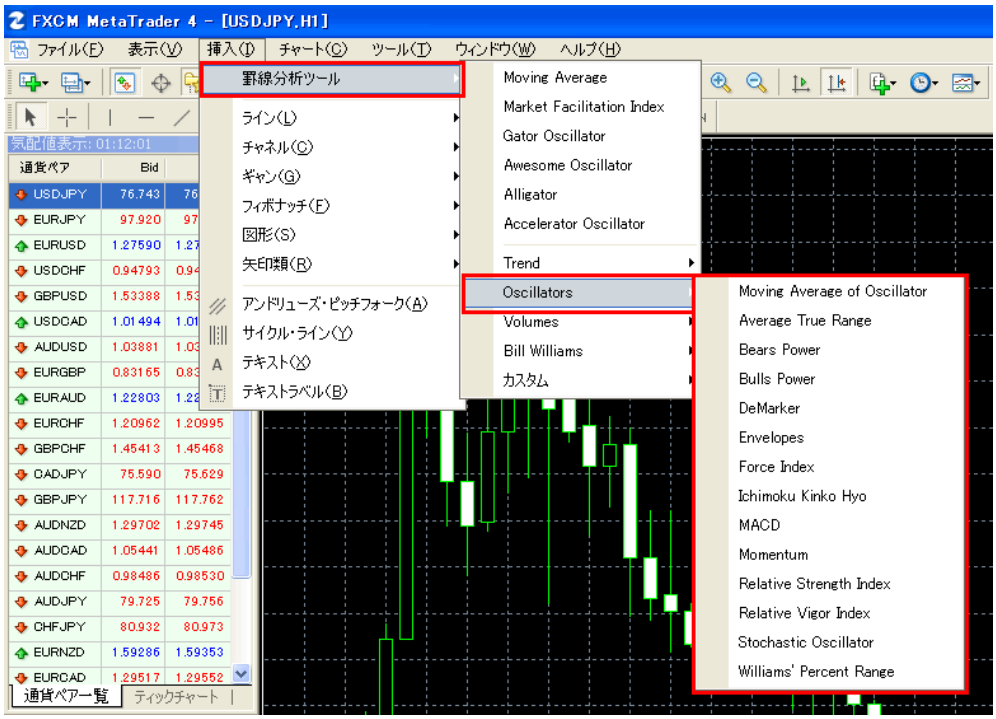
・Parabolic SAR

Parabolic SAR(パラボリック)は「放物線」という意味で、SAR は「Stop And Reverse」の略です。SAR は売買転換点を表します。Parabolic SAR は、チャート上に点の連なりで表示され、上昇トレンド、下降トレンドをわかりやすく表示します。

・Commodity Channel Index

CCI は「現在の値が統計的な平均値からどの程度乖離しているか」を表します。CCI では、中心を 0%とし、一般に値が±100%の境界線を越えた点を売買ポイントとします。

5-1-2 「Oscillators」メニュー



「Oscillators」メニューには、主に市場の動きの強弱を表すツールがあります。

・Moving Average of Oscillator

Moving Average of Oscillator(OsMA)は MACD のメイン線からシグナル線の値を引いたもので、メイン線とシグナル線の上下を判定しやすくしています。OsMA がプラスの時はメイン線がシグナル線を上回り、逆の時は下回っています。

・Average True Ranges

Average True Ranges(ATR)は市場の不安定さを表す指標です。売られすぎや買われすぎの場面では高い値になり、相場に動きがない場面では低い値になります。

・Bears Power／Bulls Power

Bears Power、Bulls Power は上昇・下落相場の強さを表します。画像の中段が Bulls Power、下段が Bears Power です。どちらもラインが長いほどトレンドが強いといえます。両方をあわせて使うとトレンドを判定できます。両方プラスであれば上昇、両方マイナスであれば下落傾向、プラスとマイナスで逆ならば横ばいとなります。

・Demarker

Demarker は、0～1 の数字で表される数値によりトレンドの転換点を探るための指標です。一般的には 0.3 を割り込んだ時や 0.7 以上へ到達した時をトレンドの転換点とします。

・Envelopes

Envelopes(エンベロープ)は 2 本の移動平均線で構成されます。片方は移動平均線を上に押し上げたもの、もう片方は移動平均線を下へ押し下げたものです。これらを上限／下限と考え、チャートとの交差点を売買シグナルと考えます。

・Force Index

Force Index は上昇傾向での買い勢力、下降傾向での売り勢力の強さを測定する指標です。チャートが上昇傾向にある時に Force Index が 0 以下に到達したら買いシグナル、またはチャートが下降傾向にある時に 0 以上に到達したら売りシグナルと考えるのが一般的です。

・Ichimoku Kinko Hyo

一目均衡表は文字通り「一目」で価格の「均衡」状態を捉えられるなど、相場のバランスを視覚的に把握することを目的とした分析手法です。MetaTrader 4 の一目均衡表では、転換線、基準線、遅行スパン、雲(上昇)、雲(下降)が表示されます。 これらの関係性から売買シグナルを判定します。

・MACD

MACD は「Moving Average Convergence and Divergence」の略で、マックディーと読みます。MACD は指標平滑移動平均の収斂／拡散を表示する指標です。シグナル線とメイン線が交わる点を売買シグナルと捉える方法が一般的です。

・Momemtum

Momentum（モメンタム）は、相場の勢い・転換の目安を判断する際などに用いられる分析手法の一つです。一般的には 0 ラインよりプラス圏にある場合は強気相場で、モメンタムの数値が大きくなるほど上昇の勢いが強いと考えられる一方、マイナス圏にある場合は弱気相場を示し、数値が小さくなるほど下落の勢いが強いとされています。

・Relative Strength Index

Relative Strength Index(RSI)は過去データ本数の値上がり幅と同じ期間の値下がり幅とを比較して、0～100%までの数値で表す指標です。一般的には「70%以上が買われ過ぎ」「30%以下が売られ過ぎ」と判断され、相場反転の目安として用いられます。

・Relative Vigor Index

Relative Vigor Index(RVI)は上昇トレンドでは終値が始値より高く、下降トレンドではその逆であることを元にした分析ツールです。市場の活動具合を判断するのに用います。

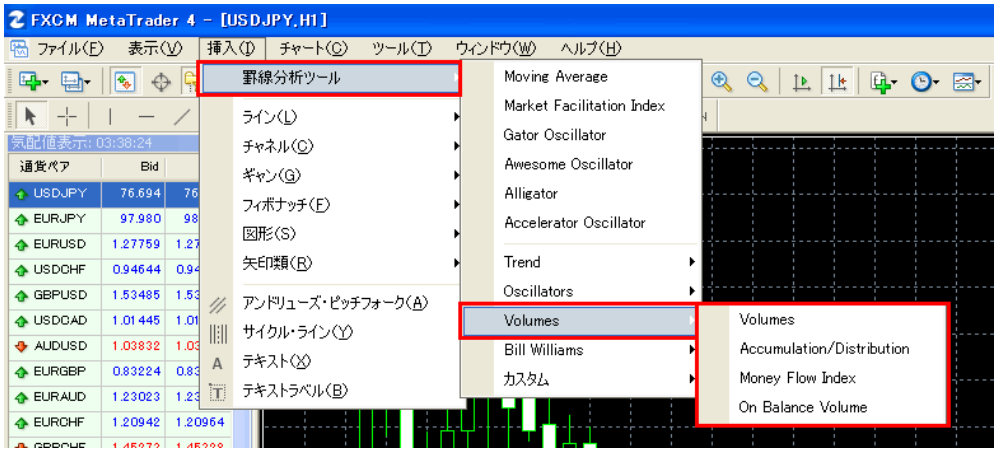
・Stochastic Oscillator

Stochastic Oscillator（ストキャスティクス）は「買われすぎ」や「売られすぎ」といった状態を表す指標です。数値が 0～100%の間で推移し、この数値が大きいほどレンジの高値、小さいほどレンジの安値に位置していることを示します。ストキャスティクスでは%K と%D の 2 本のラインが表示され、その交差と各値の大きさによって売買タイミングを判断します。

・Williams' Percent Range

Williams' Percent Range(%R)は市場が買われすぎ／売られすぎの状態にあるかを判定するのに利用します。0 から-100%の間で表示され、一般に-20%以上では買われすぎ、-80%以下では売られすぎと判断します。

5-1-3　「Volumes」メニュー



「Volumes」メニューには、主に出来高に関連したツールがあります。

・Volumes

出来高を示します。また色によって、値が上昇した時と下降した時に分けられています。図では緑色が上昇、赤色が下降となっています。

・Accumulation/Distribution

Accumulation/Distribution(A/D)は任意期間の始値と終値、最高値と最安値、出来高を元に計算されるツールで、売り／買いトレンドをつかむのに利用されます。

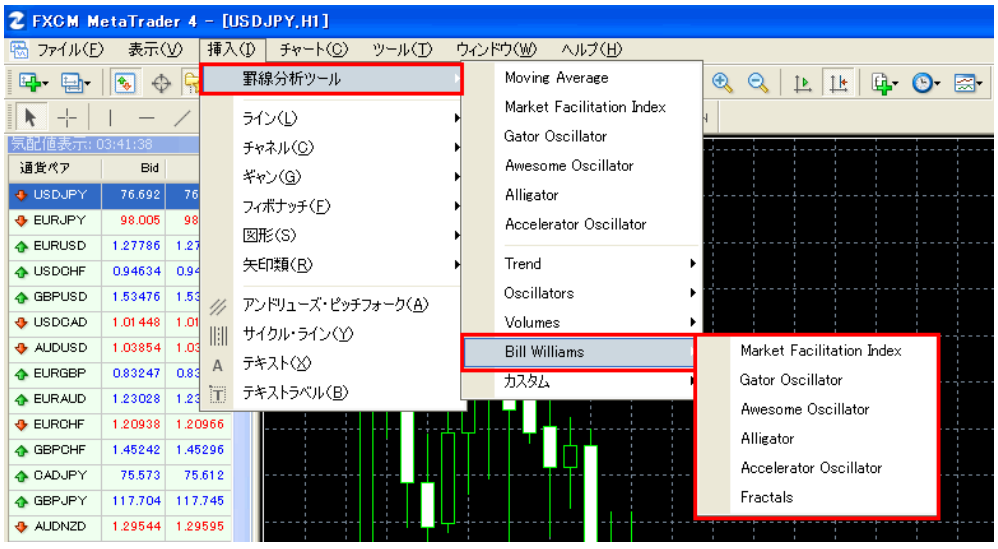
・Money Flow Index

Money Flow Index(MFI)はトレンドの分析に使います。チャートの上昇／下降傾向とは逆の傾向を MFI が示している時、トレンドの転換が起こる可能性があると考えます。また MFI が 80 を超えるもしくは 20 を下回る場合、市場は天井値／底値にあると考えられます。

・On Balance Volume

On Balance Volume(OBV)は上昇トレンドの前には出来高が増え、下降トレンドの前には出来高が減るという考えに基づいた指標です。市場の上昇／下降傾向にあわせて OBV が上昇／下降している時はトレンドが継続中、OBV が横ばいになったらトレンドは終了と考えます。

5-1-4 「Bill Willams」メニュー



このメニューには数々の分析ツールを開発した Bill Willams に関連するツールがあります。

・Market Facilitation Index

Market Facilitation Index(BW MFI)はティックごとの値動きを表しています。4 色の色はそれぞれ MFI の上下と出来高の上下の組み合わせを表しています。この組み合わせから市場の状態を判断することができます。

・Gator Oscillator

Gator Oscillator はアリゲーターの口が開き、閉じて眠るタイミングをわかりやすく表示します。Gator Oscillator の値が 0 に近い時はレートの変動が小さく、Gator Oscillator の値が大きくなればトレンドの発生と判断します。

・Awesome Oscillator

Awesome Oscillator(AO)は買いシグナル、売りシグナルをわかりやすく教えてくれるツールです。一般に、値が 0 となった時がエントリーポイントで、そこからグラフの色が変わった時が決済ポイントと言われています。色とグラフの傾きで売買のタイミングを教えてくれます。

・Alligator

Alligator(アリゲーター)は 3 本のラインで構成されます。この 3 本のラインが拡散するときにトレンドが発生し、収束するときには取引を終了すると良いとされています。

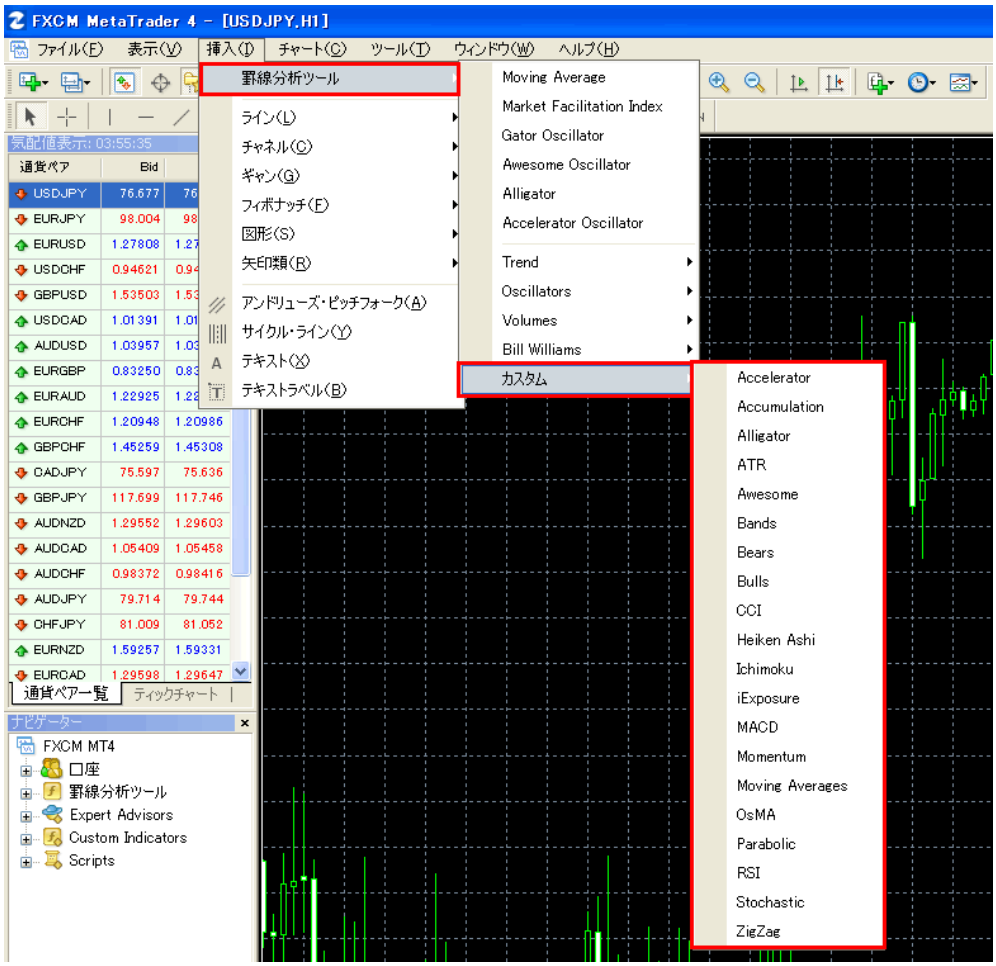
・Accelerator Oscillator

Accelerator Oscillator(AC)はトレンドの方向と強さを表示する指標です。5 日と 34 日の単純移動平均で作成されています。図の緑色部分はトレンドが弱まった部分、赤色は強まった部分を表しています。

・Fractals

フラクタルは値動きの頂点と底を探知することを目的としたツールです。フラクタルはアリゲーターと一緒に使うと売買シグナルがより正確になるといわれています。

5-1-5　「カスタム」メニュー



「カスタム」メニューにはカスタムインジケーターと呼ばれるツール群が備わっています。これらのインジケーターはプログラミングすることで改造することができます。(プログラミングには MetaQuotesLanguage エディタ(後述)を用います)

・Accelerator

Bill Williamsメニューの「Accelerator Oscillator」と同じグラフを描きます。

・Accumulation

Volumeメニューの「Accumulation/Distribution」と同じグラフを描きます。

・Alligator

Bill Williamsメニューの「Alligator」と同じグラフを描きます。

・ATR

Oscillatorsメニューの「Average True Range」と同じグラフを描きます。

・Awesome

Bill Williamsメニューの「Awesome Oscillator」と同じグラフを描きます。

・Bands

Trendメニューの「Bollinger Bands」と同じグラフを描きます。

・**Bears**

Oscillatorsメニューの「Bears Power」と同じグラフを描きます。

・**Bulls**

Oscillatorsメニューの「Bulls Power」と同じグラフを描きます。

・CCI

Trendメニューの「Commodity Channel Index」と同じグラフを描きます。

・Heikin Ashi

カスタムメニューのみにあるツールです。平均足を表示するツールで、デフォルトでは白が陽線、赤が陰線を表します。

・Ichimoku

Oscillatorsメニューの「Ichimoku Kinko Hyo」と同じグラフを描きます。

・iExposure

カスタムメニューのみにあるツールです。取引中の情報をサブウィンドウに描き出します。

・MACD

Oscillatorメニューの「MACD」と同じグラフを描きます。

・Momentum

Oscillatorメニューの「Momentum」と同じグラフを描きます。

・Moving Average

Trendメニューの「Moving Average」と同じグラフを描きます。

・OsMA

Oscillatorメニューの「Moving Average of Oscillator」と同じグラフを描きます。

・**Parabolic**

Trendメニューの「Parabolic SAR」と同じグラフを描きます。

・**RSI**

Oscillatorメニューの「Relative Strength Index」と同じグラフを描きます。

・**Stochastic**

Oscillatorメニューの「Stocastic Oscillator」と同じグラフを描きます。

・**ZigZag**

カスタムメニューのみのツールで、エリオット波動理論のジグザグのラインを表示します。

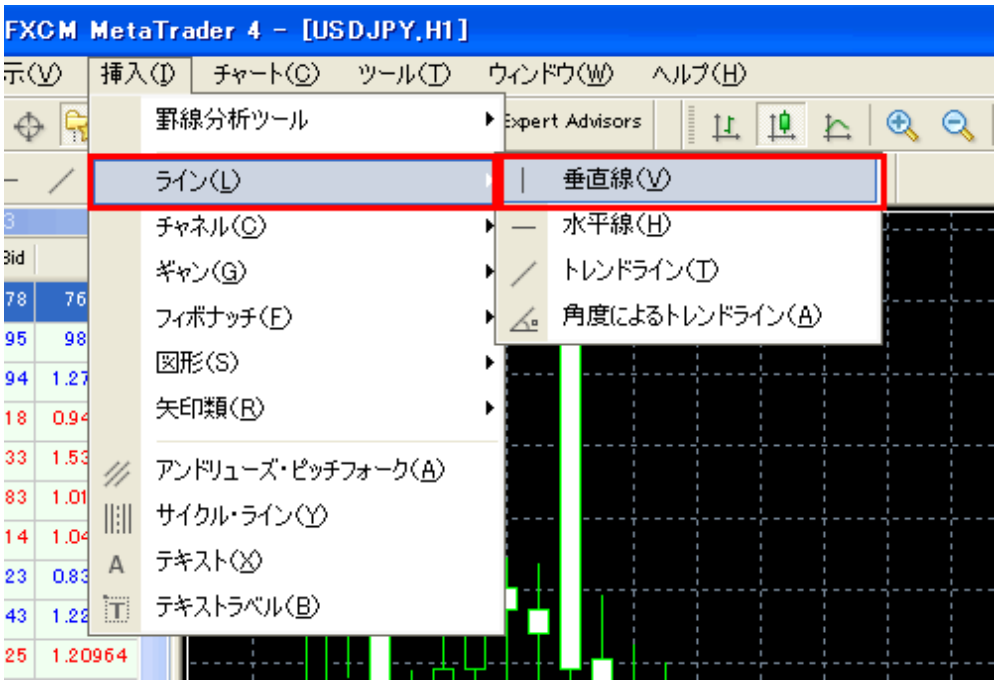
5-2　ラインメニュー

チャートウィンドウの表示内容を分析する際に、チャートにラインを引く方法があります。MetaTrader 4 には分析に必要なラインを引く機能が搭載されています。ラインはメニューバーの「挿入」から「ライン」で選択できます。

ラインメニューでチャート上に引くことができるラインには、垂直線、水平線、トレンドラインがあります。

垂直線はチャート上に縦のラインを引くことができます。主にある一時点の価格を知るのに使います。水平線は横のラインを引くことができます。レジスタンスラインなどの分析に使うことができます。トレンドラインは斜めの線を引くことができ、チャートの傾斜を測るのに使います。

1）ラインメニューの内容



ラインメニューには垂直線、水平線、トレンドライン、角度によるトレンドラインが含まれています。

2）垂直線

「垂直線」メニューを選択し、チャート上で線を引きたい箇所をクリックするとラインを引くことができます。

3）水平線

「水平線」メニューを選択し、チャート上で線を引きたい箇所をクリックするとラインを引くことができます。

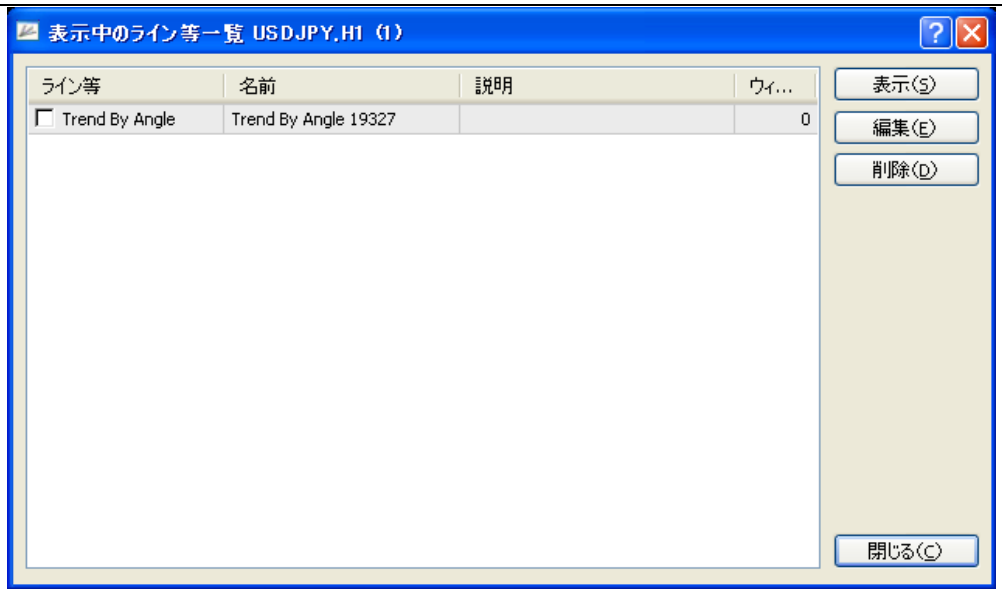
4）トレンドライン

「トレンドライン」メニューを選択し、マウスの左ボタンを押して始点を決め、ボタンを押したままカーソルを動かして角度を決定します。

5）角度によるトレンドライン

トレンドラインと同じ方法でラインが引けますが、こちらはラインを引く時にその角度が表示されます。

6）ラインを消す



チャート上に引いたラインを消すには、チャート上の右クリックメニューから「ライン等一覧」を選択します。するとチャート上のラインの一覧が表示されますので、削除対象をクリックして「削除」アイコンをクリックします。または、チャート上で削除したいラインをダブルクリックし、そのライン上で右クリックすると「削除」メニューが表示されるので、そこから削除することもできます。

5-3　チャネルメニュー

チャネルメニューでは、チャートの値幅を分析する機能を搭載しています。サポートラインやレジスタンスライン、トレンドを判断するのに活用します。

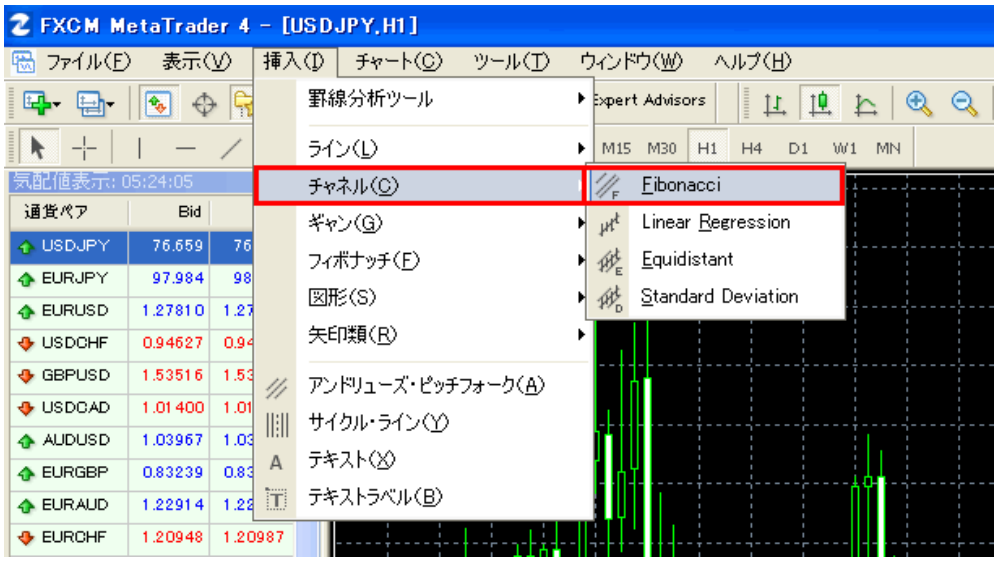
「Fibonacci」ではフィボナッチ数に従った複数のラインを一度に引くことができます。チャートが中心線から 5 つのラインの上下どちらに進むかをみてトレンドを判断します。

「Linear Regression」では 2 点間の線形回帰ラインが引かれます。期間中の平衡価格を中心に、一定の値幅を表示します。

「Equidistant」ではチャートの中心から等距離に離れた平行線を引くことができます。ピークや底値を探すのに利用できます。

「Standard Deviation」では 2 点間の標準偏差を元にラインを引きます。標準では、Linear Regression を中心にして±1σを表すラインを表示します。

・チャネルメニューの内容



チャネルメニューには Fibonacci、Linear Regression、Equidistant、Standard Deviation の 4 つがあります。

・Fibonacci

「Fibonacci」メニューを選択すると、中心線と 5 つのフィボナッチ数に従ったラインを引くことができます。

・**Linear Regression**

「Linear Regression」メニューを選択すると、2 点間の線形回帰ラインを引けます。ラインを引く期間の始点で左クリックし、そのまま終点までドラッグします。

・**Equidistant**

「Equidistant」メニューを選択すると、2 点間で等距離線を引くことができます。引き方は Linear Regression と同様です。

・Standard Deviation

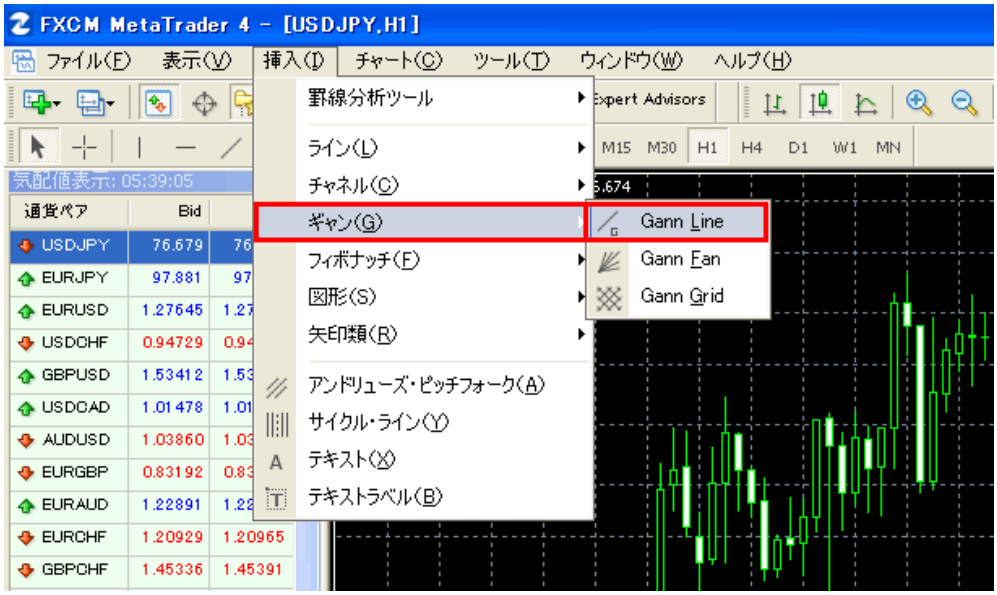
「Standard Deviation」メニューを選択すると、2 点間の標準偏差を元にラインを引くことができます。

5-4　ギャンメニュー

ギャンメニューでは、ギャン理論に沿った分析を行うためのラインを引くことができます。ギャン理論ではまず基本となるギャンライン(45 度線といわれます)を引いて期間と値幅の基本単位「1x1」を決定します。次にこの基本単位をもとに、「1x2」、「2x1」など複数の勾配を持ったラインを引きます。この複数のラインとチャートの動きからサポートラインやレジスタンスラインを探ります。またギャンのアングルラインとチャートが交差する点はトレンドの転換点のシグナルとして使われます。

「Gann Line」ではチャート上に基本となる 45 度線を引くことができます。「Gann Fan」は指定した点から複数のアングルラインを引きます。一度に 1x8、1x4、1x3、1x2、2x1、3x1、4x1、8x1 を引くことができます。「Gann Grid」では 1x1 の基本単位の対角線を点線で表示します。1x1 単位の上昇勾配、下降勾配がわかるようになっています。

・ギャンメニューの内容

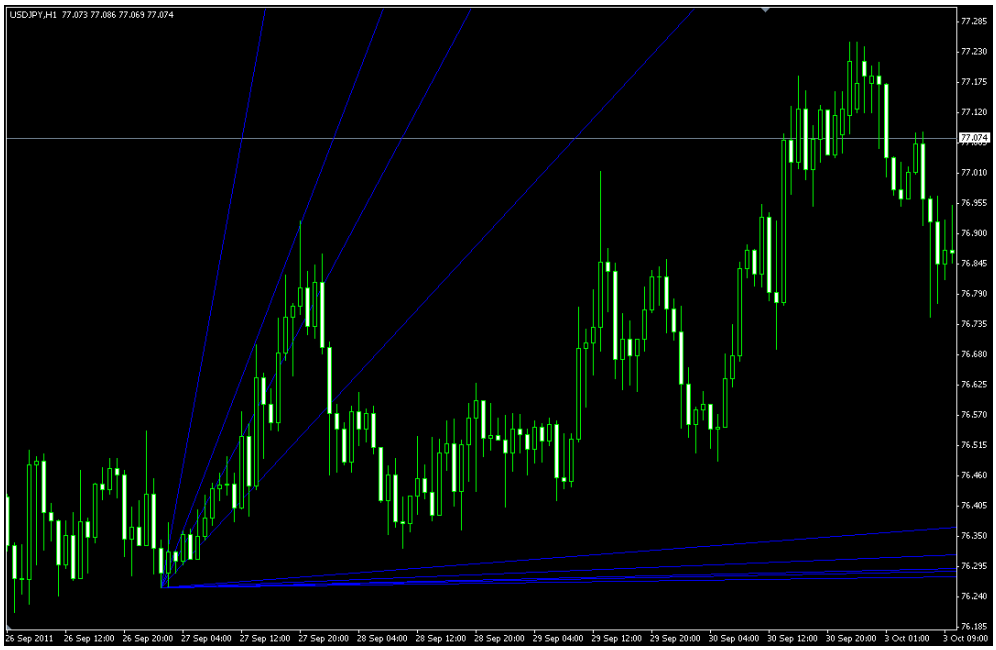


ギャンメニューには「Gann Line」、「Gann Fan」、「Gann Grid」の 3 つがあります。

・Gann Line

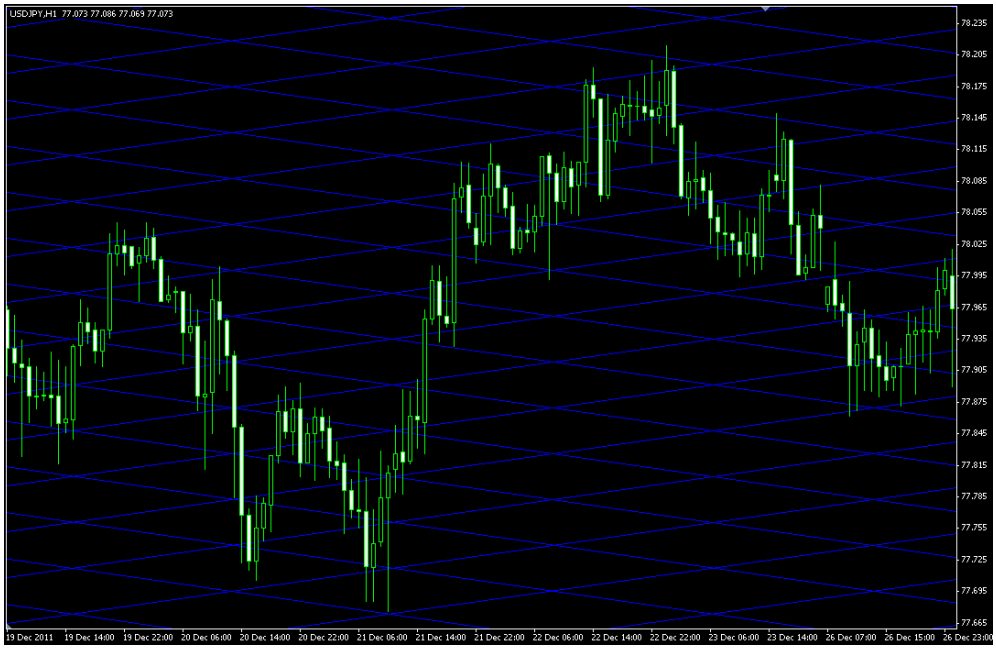
「Gann Line」メニューでは、ギャン理論の基本となる 45 度線を引くことができます。

・**Gann Fan**



「Gann Fan」メニューでは、ギャン理論の様々なアングルラインを一度に引くことができます。

・**Gann Grid**



「Gann Grid」メニューでは、ギャン理論の 1x1 単位の対角線を結んだラインをチャート全体に表示できます。勾配の緩急を分かりやすく表示します。

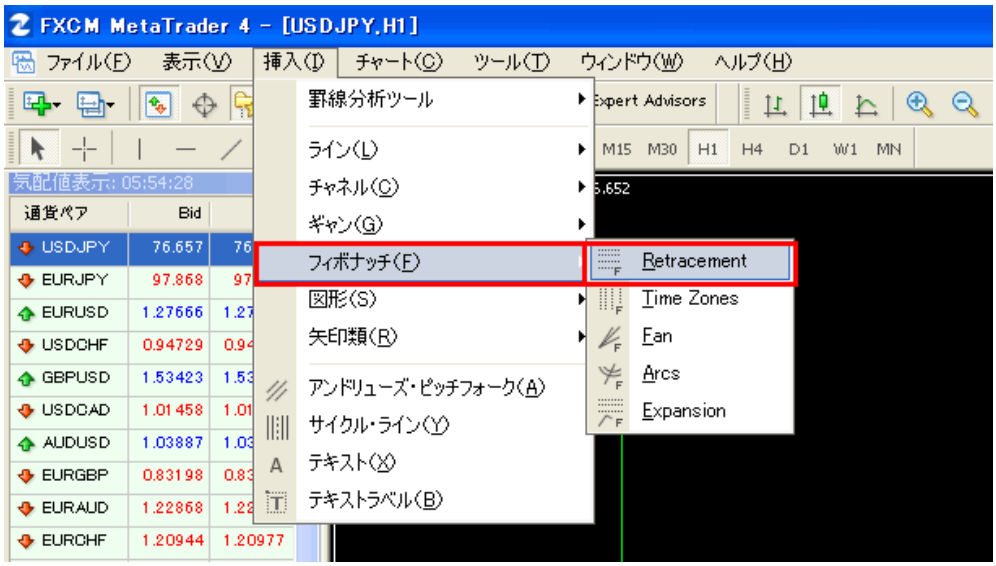
5-5　フィボナッチメニュー

フィボナッチメニューでは、フィボナッチの比率に基づいた様々なラインをチャートに引き、トレンドやサポート／レジスタンスラインの分析に利用できます。

フィボナッチは自然界の種々の現象に「1.618…」が関連しているとし、「黄金比」と名付けました。フィボナッチ数を使った分析は「為替相場も自然法則に従う人間の人為的な行為なのだから自然界と同様の比率で変化するだろう」という考えを基にしています。

このメニューでは上記の考えに基づいて、様々なラインを引くことができます。一般的に有名なフィボナッチリトレースメントではある底値と天井値の間のトレンドラインを元に、サポート／レジスタンスラインを分析します。Fan や Arcs も同様の方法で傾斜したラインや曲線を引き、サポート／レジスタンスラインの分析に用います。Expansion はフィボナッチリトレースラインに似ていますが、二つのトレンドラインを元に描かれる点で異なります。

・フィボナッチメニューの内容



フィボナッチメニューには「Retracement」、「Time Zones」、「Fan」、「Arcs」、「Expansion」の 5 つがあります。

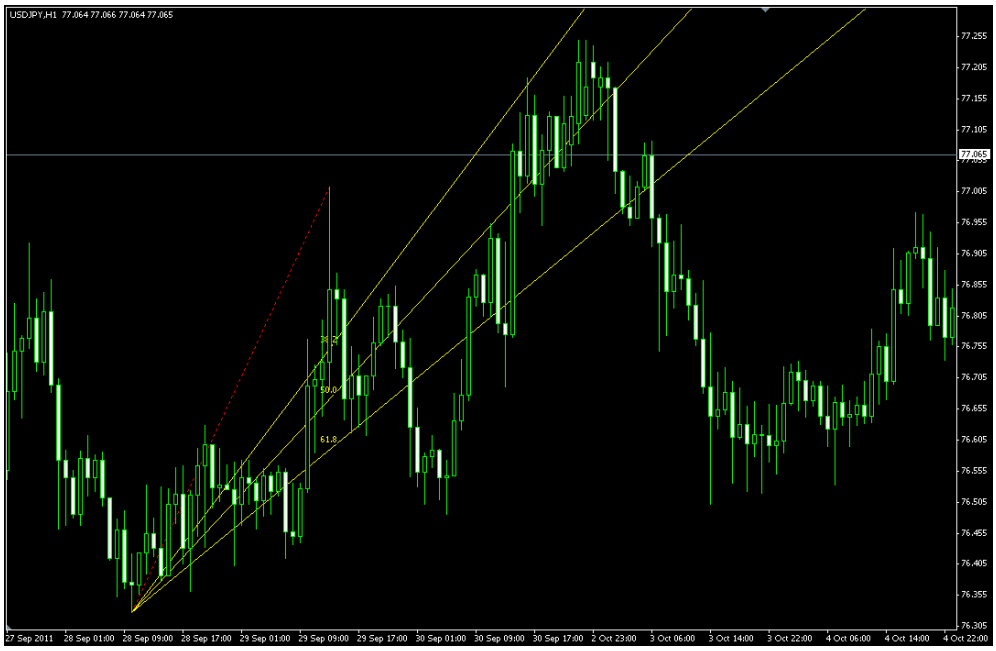
・**Retracement**

「Retracement」では任意の期間に対するフィボナッチリトレースメントラインを引くことができます。

・**Time Zones**

「Time Zones」では、時間軸方向にフィボナッチ数毎のラインを引くことができます。

・**Fan**

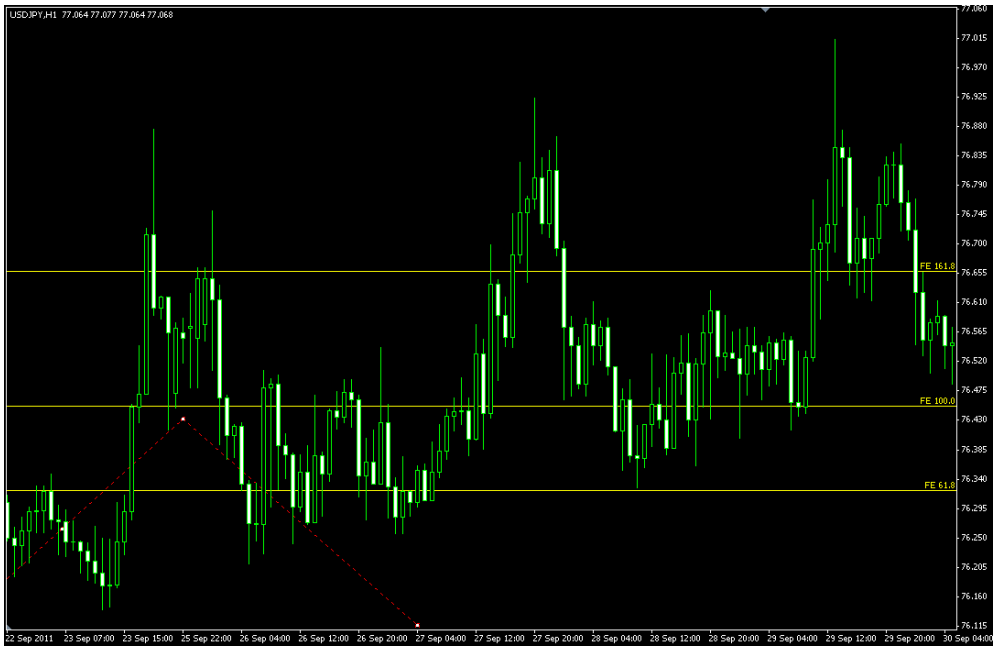


「Fan」メニューでは、ある底値から天井値を選択すると、3 つのラインを引くことができます。これらはサポートライン、レジスタンスラインの分析に利用できます。

・**Arcs**

「Arcs」では、Fan と同様にある底値から天井値を選択すると、3 つの曲線を引くことができます。これらもサポートライン、レジスタンスラインの分析に利用できます。

・**Expansion**



「Expansion」ではフィボナッチリトレースメントに似たラインを引くことができます。

5-6　図形メニュー

図形メニューではチャート上に長方形、三角形、楕円を引くことができます。

長方形はある期間を長方形に塗りつぶすことができます。

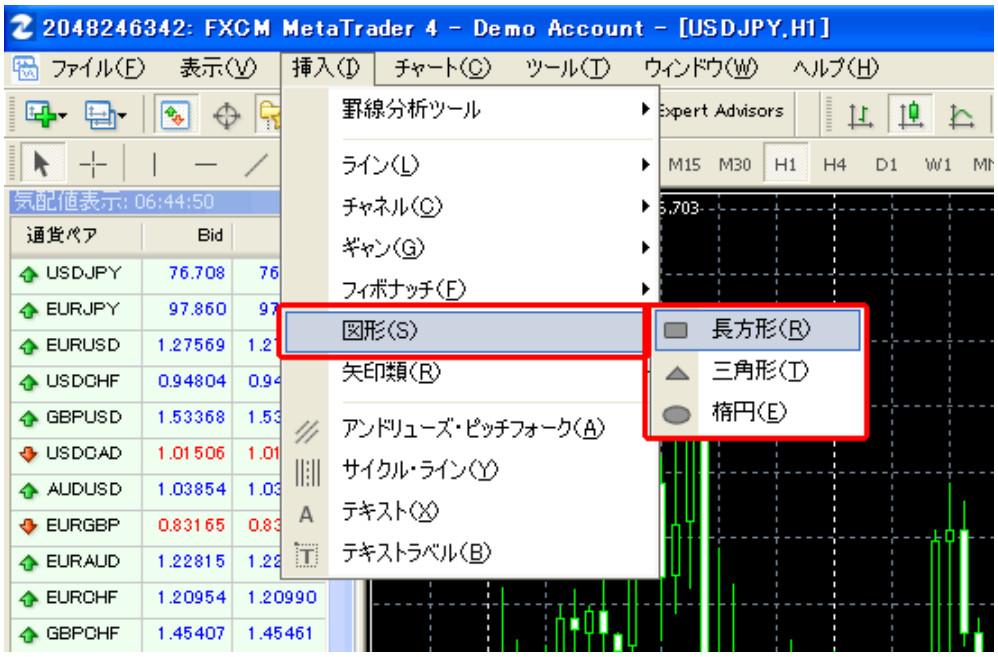
三角形は任意の三点を指定し三角形を描きます。チャートにそって三角形を描くことでトレンドと値幅を認識しやすくなります。

楕円は図形上に楕円を書くことができます。楕円の傾きは入力時に決定します。チャートの値幅がどの範囲で推移しているのかが掴みやすくなります。

これらの図形は、同じ色で描くと重なり合う部分が無色になり、わかりやすく表示されるようになっています。

チャートに図形を描くことで、値幅のトレンドを把握しやすくなります。また、他のラインツールと組み合わせて使うことで、より傾向が分析しやすくなります。

・図形メニューの内容



図形メニューには「長方形」、「三角形」、「楕円」の 3 つがあります。それぞれの形をチャート上に描くことができます。

・長方形

「長方形」メニューではチャート上に長方形を描くことができます。描きたい長方形の頂点をクリックし、そのまま対角線をドラッグすると長方形が描けます。

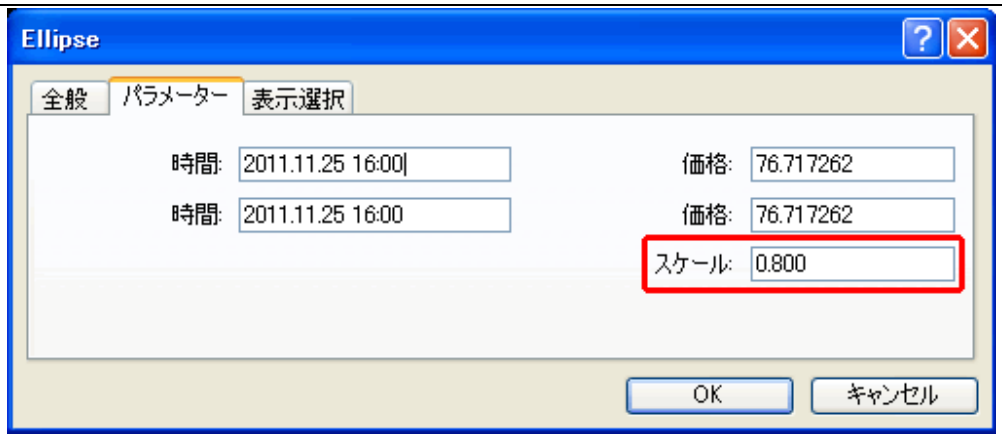
・三角形

「三角形」メニューではチャート上に三角形を描くことができます。描きたい三角形の頂点をチャート上で 3 点クリックすると任意の三角形を描くことができます。

・楕円

「楕円」メニューではチャート上に楕円を描くことができます。

・楕円の形の変更



楕円の幅は、パラメータータグの「スケール」で変更できます。値を小さくすると太く、大きくすると細い楕円になります。

・同色の図形の重ね合わせ

同色の図形を重ね合わせると、重なり合う部分は無色で表示されるようになっています。

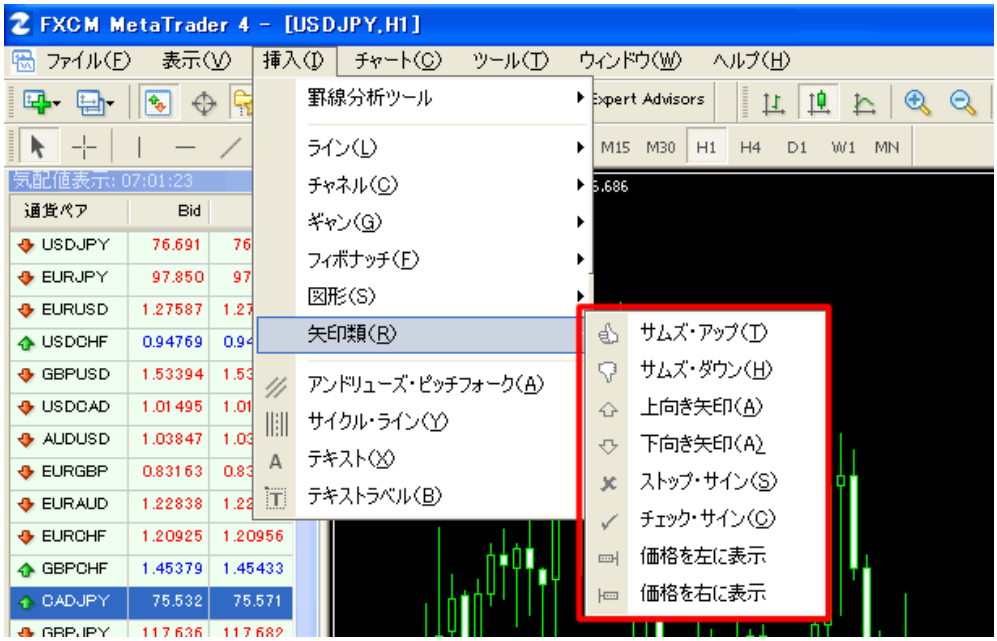
5-7　矢印類メニュー

矢印類メニューでは、チャート上に様々な印を表示できます。

矢印類には親指の上げ下げのマークを表示する「サムズ・アップ」、「サムズ・ダウン」、通常の矢印を表示する「上向き矢印」、「下向き矢印」、価格のストップ箇所、チェックしたい箇所を明確に表示する「ストップ・サイン」、「チェック・サイン」、チャート上にわかりやすく価格を表示できる「価格を左に表示」、「価格を右に表示」があります。

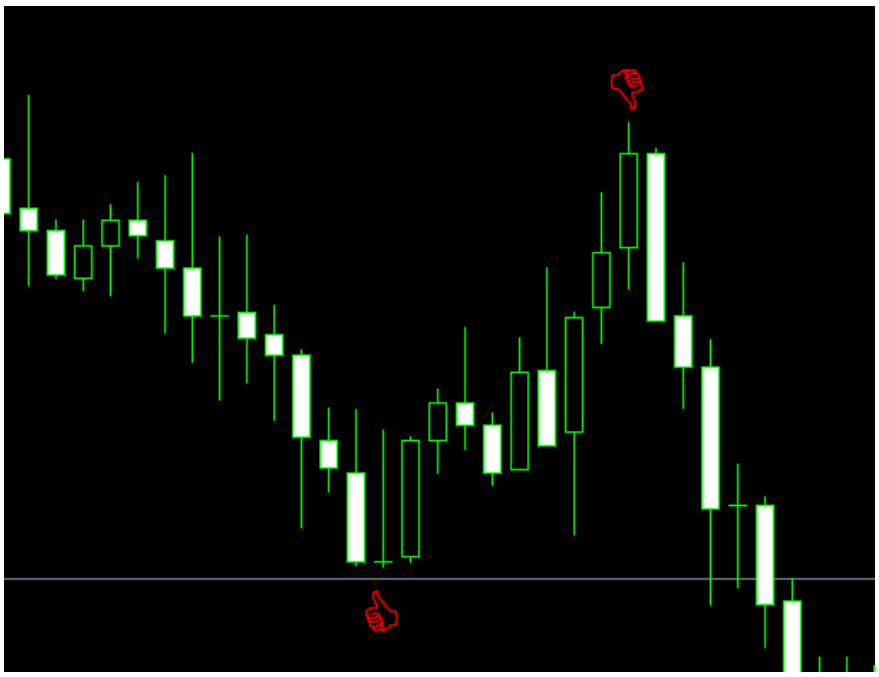
これらの矢印類は、パラメーターを編集することでサイズの変更が可能です。

・矢印類メニューの内容



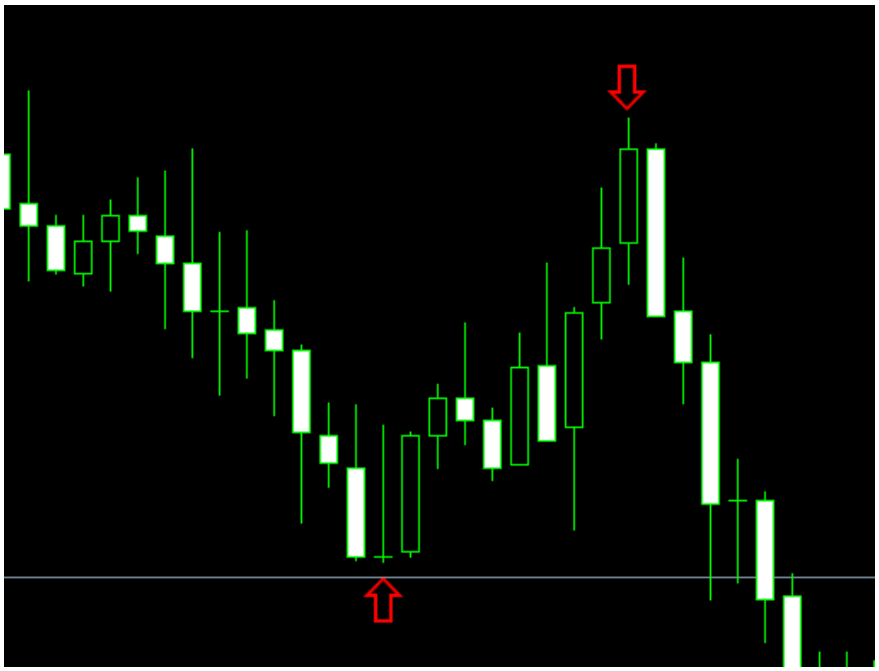
矢印類メニューには、「サムズ・アップ」、「サムズ・ダウン」、「上向き矢印」、「下向き矢印」、「ストップ・サイン」、「チェック・サイン」、「価格を左に表示」、「価格を右に表示」といった 8 つのマークがあります。

・サムズ・アップ／サムズ・ダウン



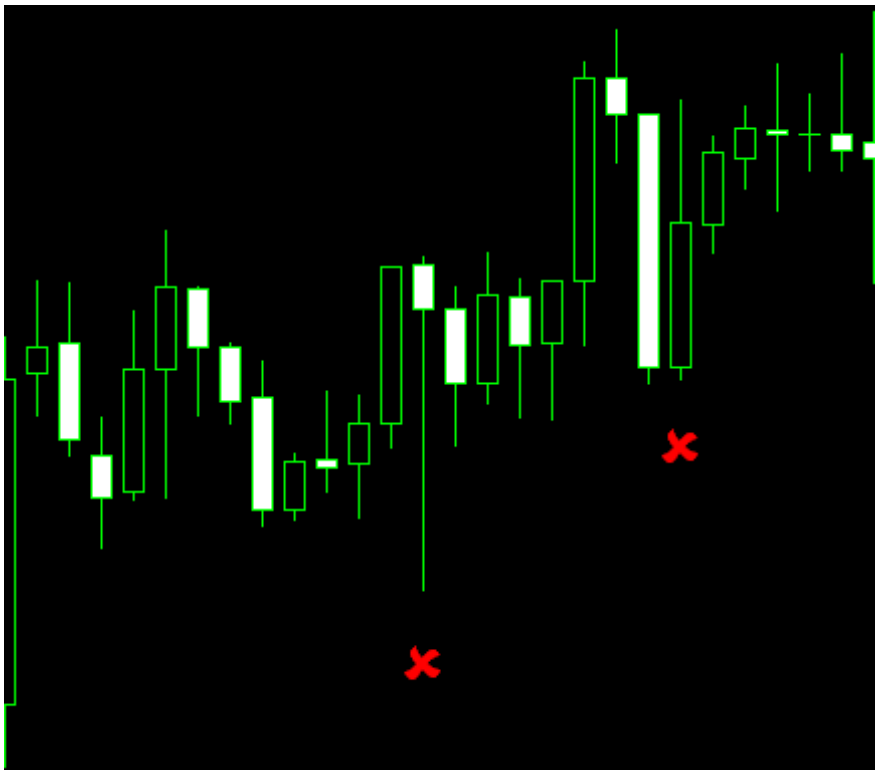
「サムズ・アップ」、「サムズ・ダウン」メニューでは、チャート上に親指を立てたマークを配置することができます。

・上向き矢印／下向き矢印



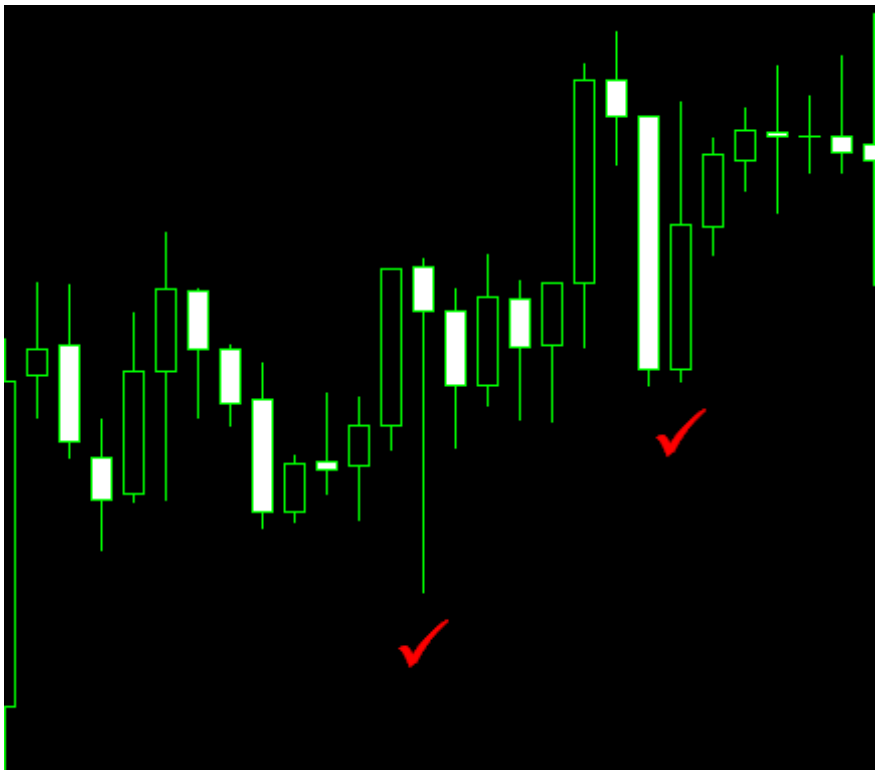
「上向き矢印」、「下向き矢印」メニューではチャート上に上向き／下向きの矢印を配置することができます。

・「ストップ・サイン」



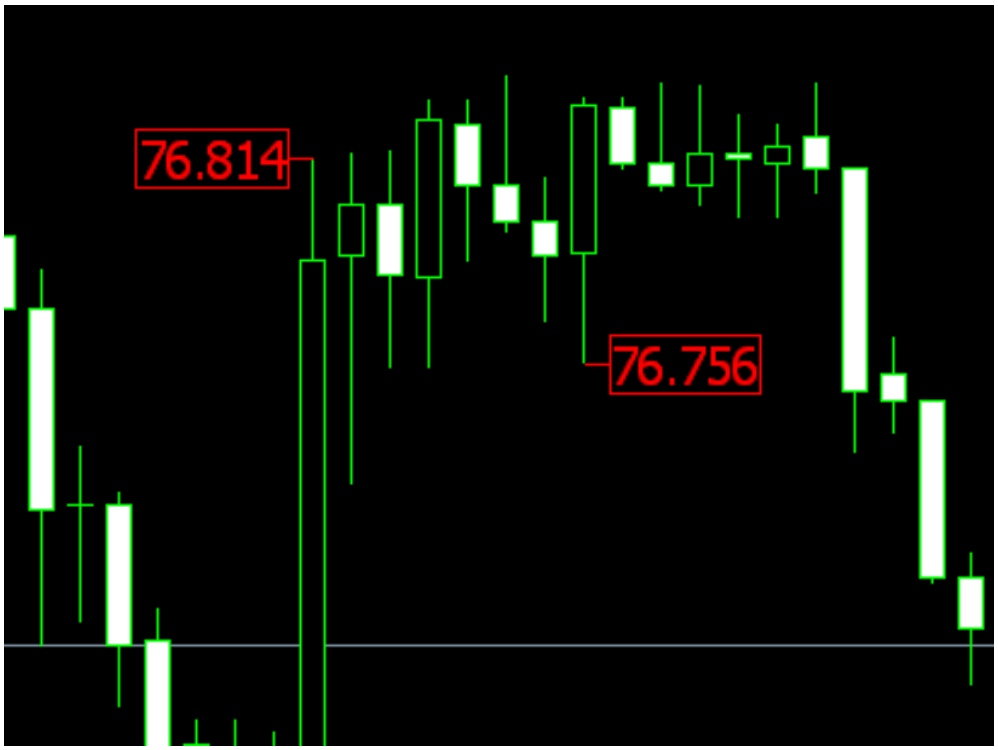
「ストップ・サイン」メニューは、チャート上にストップサインを配置することができます。

・「チェック・サイン」



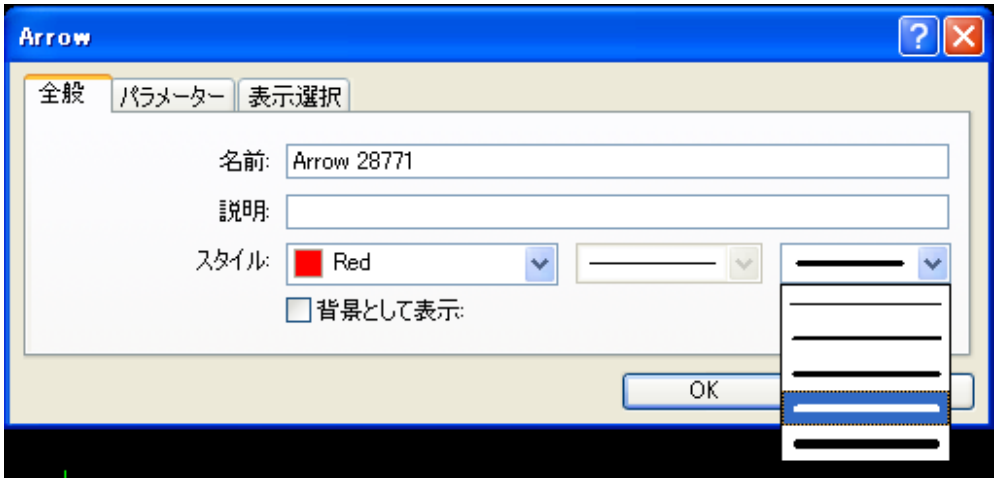
「チェック・サイン」メニューは、チャート上にチェックサインを配置することができます。

・「価格を左に表示」、「価格を右に表示」



「価格を左に表示」、「価格を右に表示」メニューではチャート上で値を表示したいポイントをクリックすると、選択した方向に価格を表示させることができます。

・矢印類の大小の変更



矢印類のパラメーターのうち、「太さ」を変更すると、矢印の大小を変更することができます。

5-8　アンドリューズ・ピッチフォーク

アンドリューズ・ピッチフォークはアラン・アンドリュース博士によって開発されたツールです。描かれた図形が「熊手」に形が似ていることから、このような名前が付けられました。

アンドリューズ・ピッチフォークは、3 つの平行なトレンド線で成り立っています。上のラインをレジスタンスライン、下のラインをサポートラインと考えます。このツールはトレンドがはっきりした状況でのサポート／レジスタンスラインの分析に利用されます。

アンドリューズ・ピッチフォークを表示するには、「挿入」メニューから「アンドリューズ・ピッチフォーク」を選択した後、チャート上で始点を指定します。次に近隣の天井値、底値を順に指定すると表示できます。

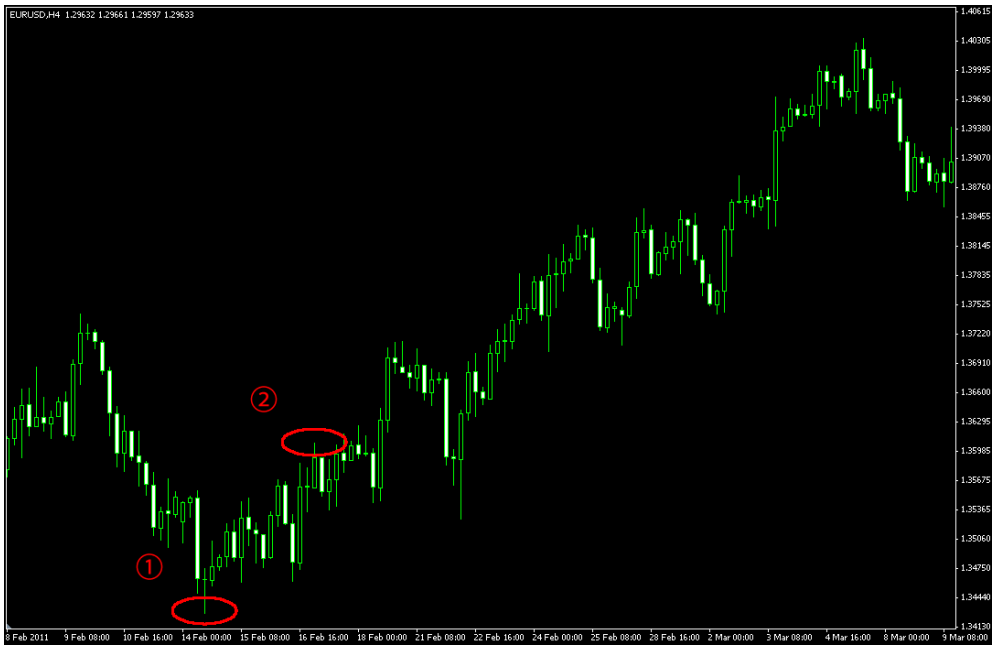
1）アンドリューズ・ピッチフォーク

アンドリューズ・ピッチフォークは 3 本のトレンド線で構成されます。形が熊手(=ピッチフォーク)に似ていることからこの名前が付けられています。

2）入力方法（1）

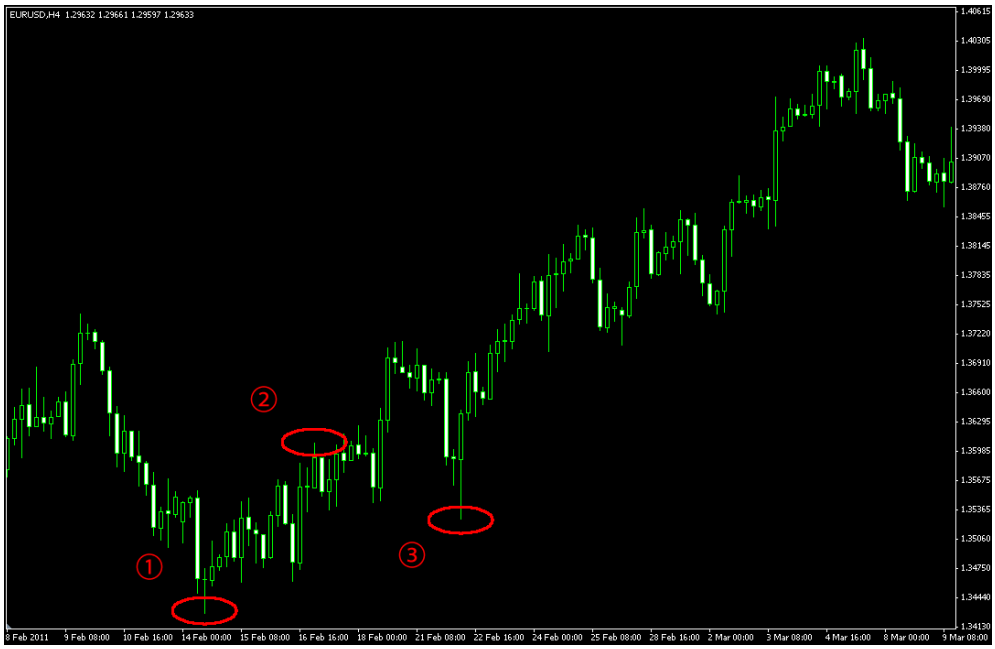
分析を解析する始点をクリックします。

3）入力方法（2）



次に近隣の天井値をクリックします。

4）入力方法（3）



最後に近隣の底値をクリックします。すると 3 本のトレンド線が引かれ、アンドリューズ・ピッチフォークが描かれます。

5-9　サイクル・ライン

サイクル・ラインは、チャート上に一定間隔の時間軸のラインを引きます。このラインによって、値動きのサイクルを明確化することができます。サイクルを決める最初の 2 点間のトレンドラインを引くこともできます。このツールは、トレンドが周期的に変化するという考え方に基づいて分析する際に利用できます。

サイクルラインを表示するには、「挿入」メニューから「サイクル・ライン」を選択し、サイクルの始点をクリックします。そしてドラッグしたままチャート上でカーソルを動かし、サイクルの終点で離します。するとその二点間のサイクルがチャート上に繰り返し描かれます。同時に最初の二点で指定したサイクルラインの間に、点線でトレンドラインが表示されます。

1）サイクル・ライン

サイクル・ラインはチャート上に一定間隔に時間軸のラインを引くことができます。また最初の二点間には点線でトレンドラインが引かれます。

2）入力方法（1）

まずサイクルの始点を決め、チャート上をクリックします。

3）入力方法（2）

そのままドラッグしながらカーソルを動かして終点で離します。するとサイクルラインが表示されます。

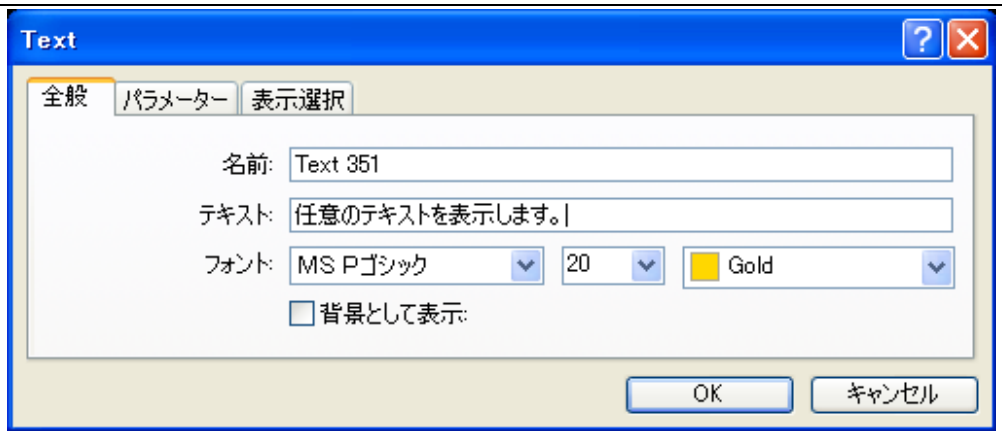
5-１０　テキスト

「テキスト」は、チャート上に任意のテキストを表示することができます。日本語フォントも選択可能です。分析した結果のメモをチャート上へ追記することが可能です。

テキストをチャート上に表示させるには、メニューバーの「挿入」メニューから「テキスト」メニューを選択し、チャート上のテキストを挿入したい箇所をクリックします。表示する文字を入力する画面が表示されますので、テキストボックスに任意の文字列を入力します。日本語を入力する場合は、日本語表示が可能なフォント(たとえばＭＳ　Ｐゴシック)を指定します。指定しないと文字化けを起こします。

「全般」タブ横の「パラメーター」タブでトレンドラインに沿って角度をつけた文字を入力することも可能です。

１）テキスト

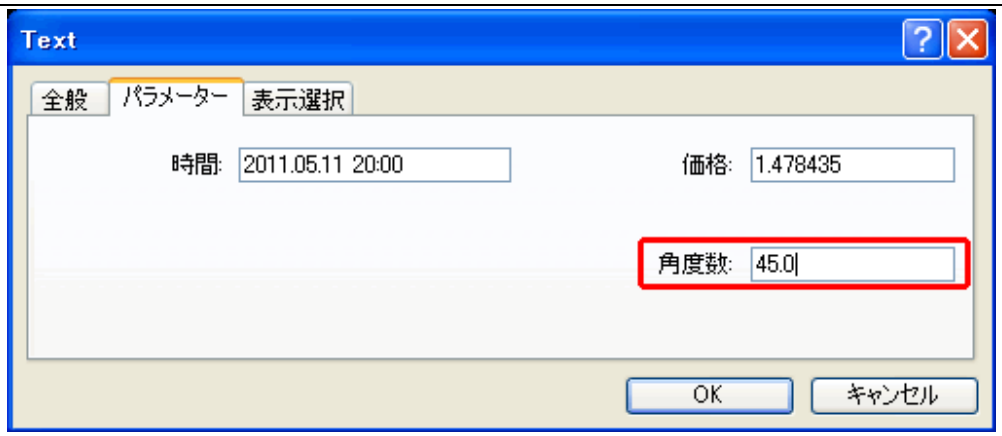


チャート上のテキストを挿入したい箇所をクリックし、「テキスト」横のテキストボックスに任意の文字列を入力します。

２）テキスト表示後

入力したテキストが表示されました。

3）パラメーターの変更



パラメーターの「角度数」を変更すると、入力した文字列に角度を付けることができます。「45」といれると 45 度に傾いた文字列を表示させることが可能です。

4）角度をつけたテキスト

トレンドラインに沿って文字を書き込む場合などに便利です。

5-１１　テキストラベル

テキストラベルは、チャート上に任意のテキストを記入することが可能です。日本語フォントも選択可能です。「テキスト」と似た機能ですが、「テキスト」がチャート上の指定箇所に固定されるのに対して、テキストラベルは画面上の指定箇所に固定され、スクロールしても画面上の同じ場所に表示される点が異なります。テキストラベルはチャート表示を動かしながら分析する場合に役立ちます。

テキストラベルをチャート上に入力するには、メニューバーの「挿入」メニューから「テキストラベル」メニューを選択し、画面上のテキストを挿入したい箇所をクリックします。プロパティーの「テキスト」欄に表示したい文字列を入力します。テキストと同様に、日本語を入力する場合は、日本語表示が可能なフォントに指定します。

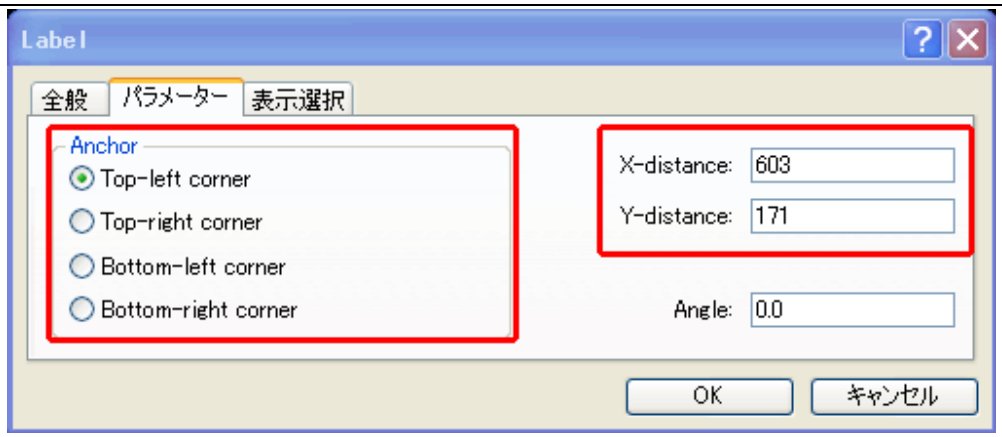
１）テキストラベル

画面上のテキストを挿入したい箇所をクリックし、表示したい文字列を入力します。

2）ラベルは画面に固定されます

チャートを移動してもラベルの位置は変わりません。画面に固定されています。

3）パラメーターの変更



チャート画面上の 4 隅の内どの位置からを基準とするかしていし(Anchor)、横軸(X-distance)、縦軸(Y-distance)の座標を入力することで、テキストの移動が出来ます。

6　ツールメニュー

ツールメニューは、過去の値動きを参照することができる「History Center」、グローバル変数の追加や削除、値の変更を行う「Global Variables」、Meta Quotes Language(MQL)というプログラミング言語を使用して自分で分析ツールを作成する「Meta Quotes Language Editor」が利用できます。「オプション」では各種サーバー接続の設定などが変更できます。ここではツールメニューについて解説します。

6-1　ヒストリーセンター

ツールメニューの「History Center」では、これまでの為替変動をチャートではなくデータとして見ることが可能です。このツールではMetaQuote社が提供する為替データを、通貨ペア、集計期間単位で取得できるので、数値を見て分析したい場合に有効です。取得できる通貨ペアはFXCMジャパン証券が提供しているものが対象になります。

ヒストリーセンターでは左側に通貨ペア、右側にヒストリーデータ、下部に選択項目が配置されています。

各通貨ペアはグループ別けされており、その中に複数の通貨ペアのデータが分類されています。取得したいデータをグループから探し出してダブルクリックすると、右側にヒストリーデータが読み込まれます。読み込んだデータは追加、削除、変更することも可能です。ヒストリーセンターでダウンロードしたデータはMetaQuote社提供のデータです。

また外部ファイルへの書き出し、外部ファイルからの読み込みも可能できます。この機能により、Excelなどで作成された分析ツールへデータを流用することもできるようになっています。

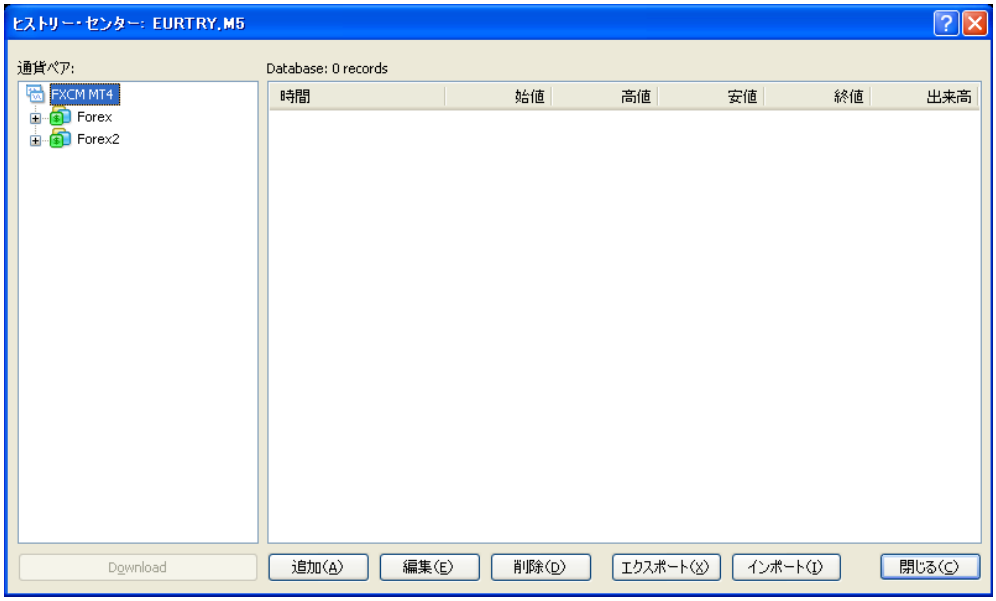
Point

ヒストリーセンターからダウンロードしたデータを再ダウンロードすると、過去のデータに上書きされますので、ご注意ください。

1）ヒストリーセンターメニュー

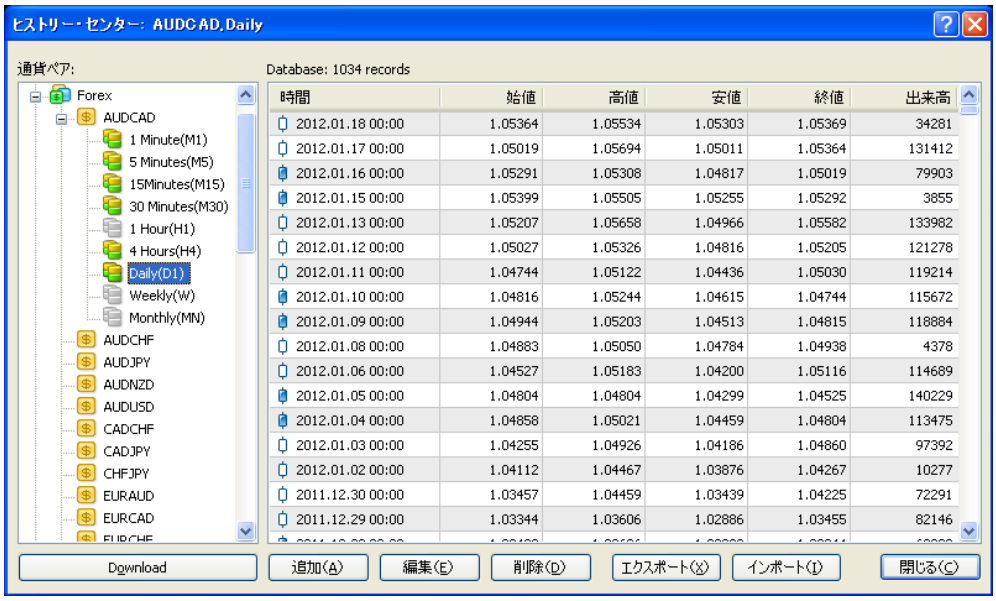
「ツール」メニューの「History Center」をクリックします。

2）ヒストリーセンター初期表示



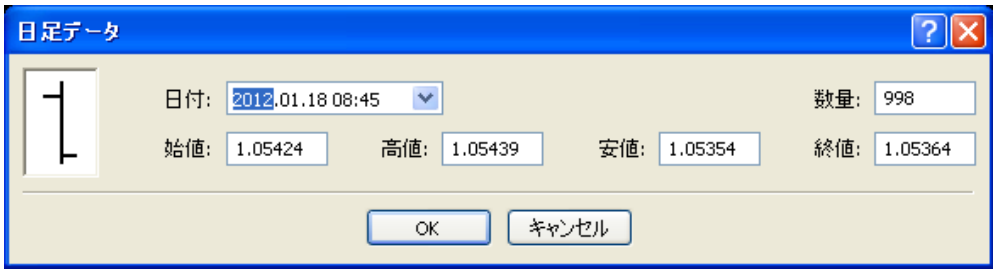
ヒストリーセンターを起動するとこの初期画面が表示されます。

3）ヒストリーデータの入手



過去の情報を入手するには、入手したい通貨ペアと集計期間の単位をダブルクリックします。するとサーバーからデータがダウンロードされて表示されます。画像ではユーロ対ドルの週足を表示しています。

4）ヒストリーデータの追加、削除、編集

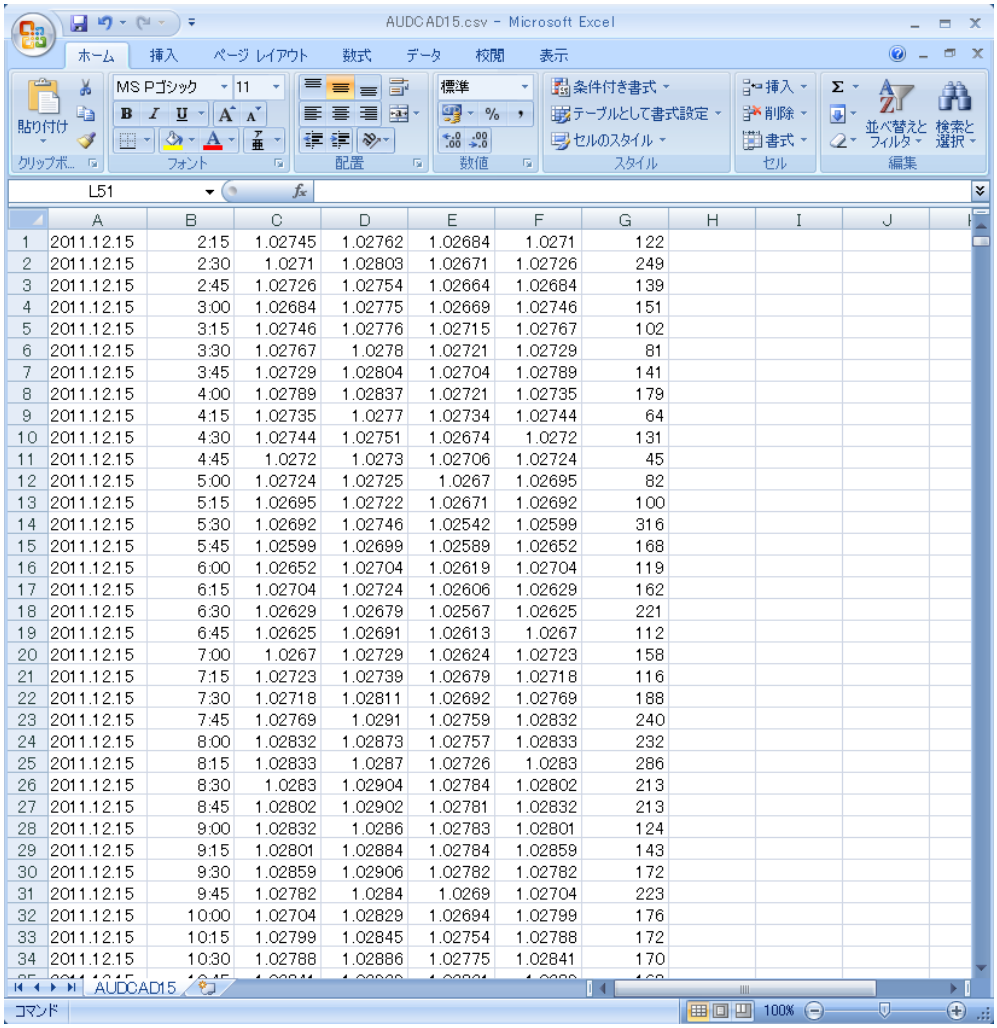


ヒストリーセンター下部の「追加」、「編集」、「削除」アイコンをクリックすると、ヒストリーデータを編集することができます。

5）ヒストリーデータのエクスポート

ヒストリーセンター下部の「エクスポート」アイコンをクリックすると、ヒストリーデータを csv 形式のファイルで保存することができます。

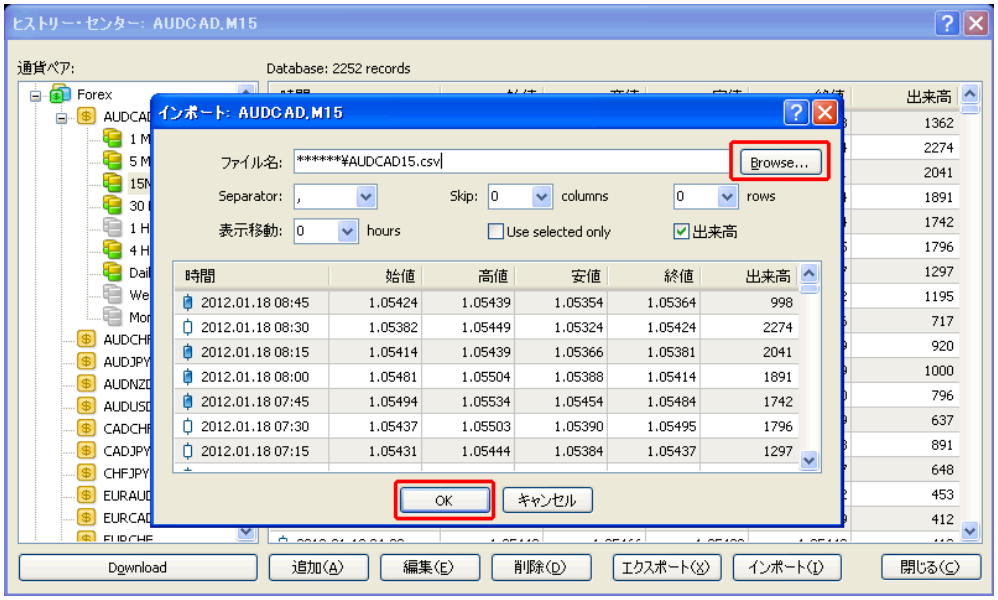
6）エクスポートされたファイル



	A	B	C	D	E	F	G
1	2011.12.15	2:15	1.02745	1.02762	1.02684	1.0271	122
2	2011.12.15	2:30	1.0271	1.02803	1.02671	1.02726	249
3	2011.12.15	2:45	1.02726	1.02754	1.02664	1.02684	139
4	2011.12.15	3:00	1.02684	1.02775	1.02669	1.02746	151
5	2011.12.15	3:15	1.02746	1.02776	1.02715	1.02767	102
6	2011.12.15	3:30	1.02767	1.0278	1.02721	1.02729	81
7	2011.12.15	3:45	1.02729	1.02804	1.02704	1.02789	141
8	2011.12.15	4:00	1.02789	1.02837	1.02721	1.02735	179
9	2011.12.15	4:15	1.02735	1.0277	1.02734	1.02744	64
10	2011.12.15	4:30	1.02744	1.02751	1.02674	1.0272	131
11	2011.12.15	4:45	1.0272	1.0273	1.02706	1.02724	45
12	2011.12.15	5:00	1.02724	1.02725	1.0267	1.02695	82
13	2011.12.15	5:15	1.02695	1.02722	1.02671	1.02692	100
14	2011.12.15	5:30	1.02692	1.02746	1.02542	1.02599	316
15	2011.12.15	5:45	1.02599	1.02699	1.02589	1.02652	168
16	2011.12.15	6:00	1.02652	1.02704	1.02619	1.02704	119
17	2011.12.15	6:15	1.02704	1.02724	1.02606	1.02629	162
18	2011.12.15	6:30	1.02629	1.02679	1.02567	1.02625	221
19	2011.12.15	6:45	1.02625	1.02691	1.02613	1.0267	112
20	2011.12.15	7:00	1.0267	1.02729	1.02624	1.02723	158
21	2011.12.15	7:15	1.02723	1.02739	1.02679	1.02718	116
22	2011.12.15	7:30	1.02718	1.02811	1.02692	1.02769	188
23	2011.12.15	7:45	1.02769	1.0291	1.02759	1.02832	240
24	2011.12.15	8:00	1.02832	1.02873	1.02757	1.02833	232
25	2011.12.15	8:15	1.02833	1.0287	1.02726	1.0283	286
26	2011.12.15	8:30	1.0283	1.02904	1.02784	1.02802	213
27	2011.12.15	8:45	1.02802	1.02902	1.02781	1.02832	213
28	2011.12.15	9:00	1.02832	1.0286	1.02783	1.02801	124
29	2011.12.15	9:15	1.02801	1.02884	1.02784	1.02859	143
30	2011.12.15	9:30	1.02859	1.02906	1.02782	1.02782	172
31	2011.12.15	9:45	1.02782	1.0284	1.0269	1.02704	223
32	2011.12.15	10:00	1.02704	1.02829	1.02694	1.02799	176
33	2011.12.15	10:15	1.02799	1.02845	1.02754	1.02788	172
34	2011.12.15	10:30	1.02788	1.02886	1.02775	1.02841	170

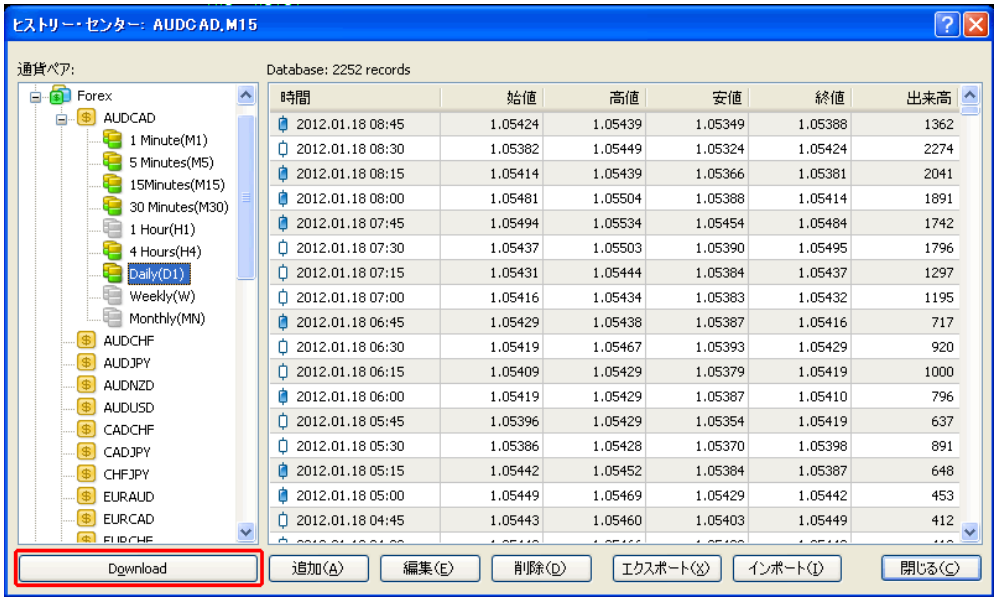
エクスポートされたファイルは、日付や時刻、始値、終値、最高値、最安値などがカンマ(,)で区切られた状態で出力されます。

7）インポート



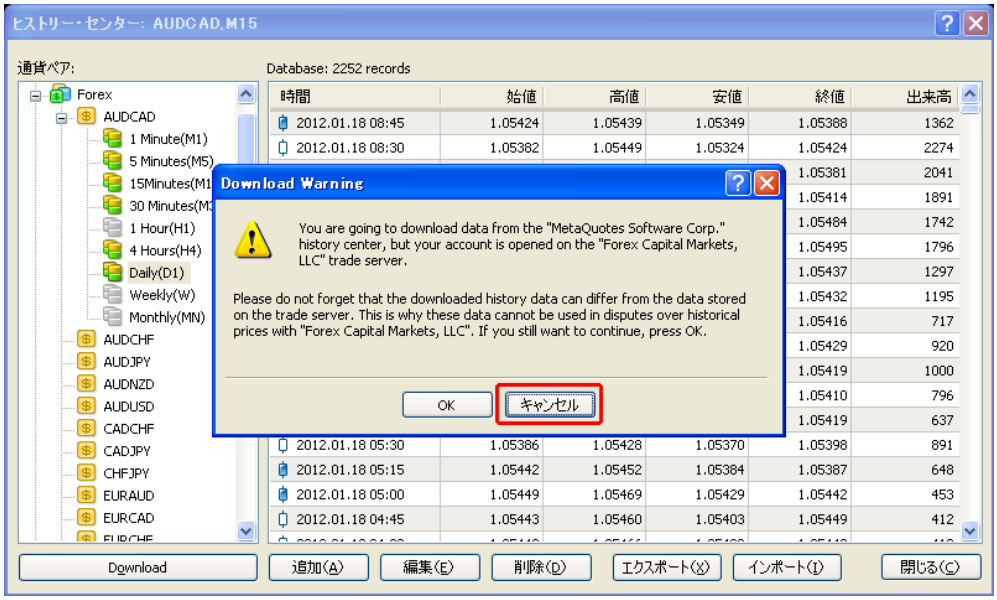
インポートはエクスポートとは逆に、「Browse」で外部ファイルを指定し、「OK」をクリックすると、その外部ファイルがヒストリーセンターに読み込まれます。

8）注意：「Download」アイコンについて



「Download」アイコンをクリックすると、FXCM ジャパン証券の取引サーバーとは別のサーバー(MetaTrader 4 開発会社のサーバー)からデータを取得します。このデータは FXCM ジャパン証券が提供するデータとは異なり、分析に違いが出る可能性があります。その為「Download」を実行しないようお願いします。

9）注意：「Download」クリック時の警告



「Download」アイコンをクリックすると「Download Warning」画面が表示されます。「キャンセル」を選択してください。

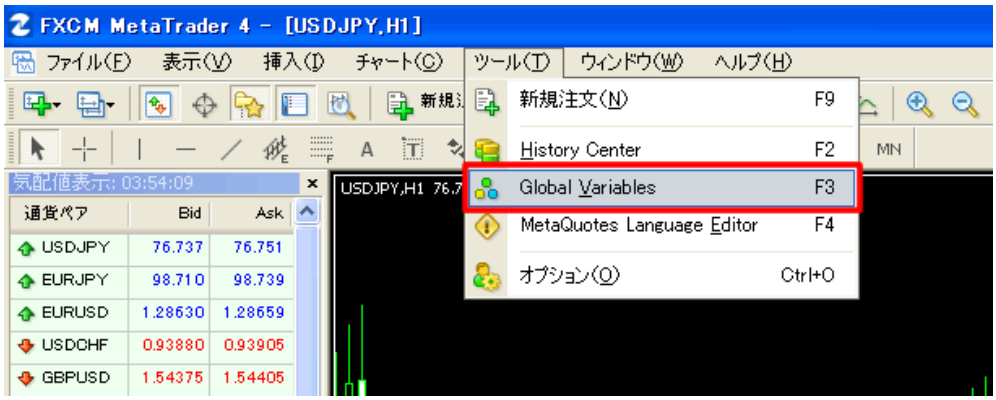
6-2　Global Variables

ツールメニューの「Global Variables」では、MetaTrader 4 内のグローバル変数を表示します。このダイアログではグローバル変数の参照の他に、追加や削除、値の変更を行うことができます。

グローバル変数とは、MetaTrader 4 内のインジケーターや EA(システム売買)、スクリプトなどの各種プログラムが共通で使うパラメーターのようなものです。これらを使用されない限り関係のないものですが、使用しているツールのプログラムの中には、グローバル変数を利用するものがあるかもしれません。そのような場合にこのメニューを選択すると、どの変数がどのような値をとっているのかを参照できます。グローバル変数の不用意な編集は、動作中プログラムに影響を与える可能性がある為、避けたほうがよいでしょう。逆にトラブルが発生した際には、編集によって回復が見込める場合があります。

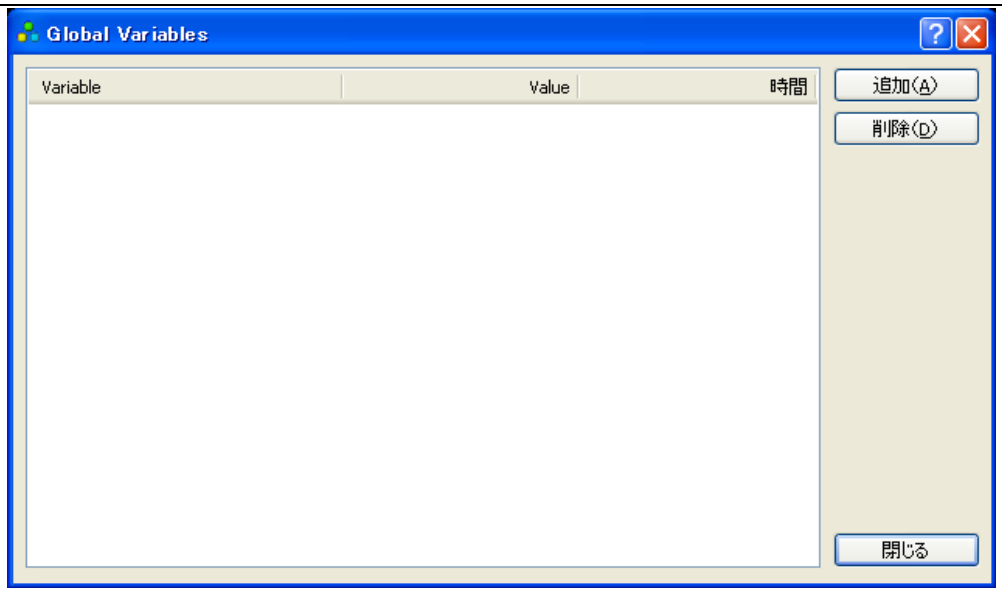
グローバル変数は、最終アクセスから 4 週間は MetaTrader 4 内に保存され、その後自動で削除されるようになっています。

1）Global Variables メニュー



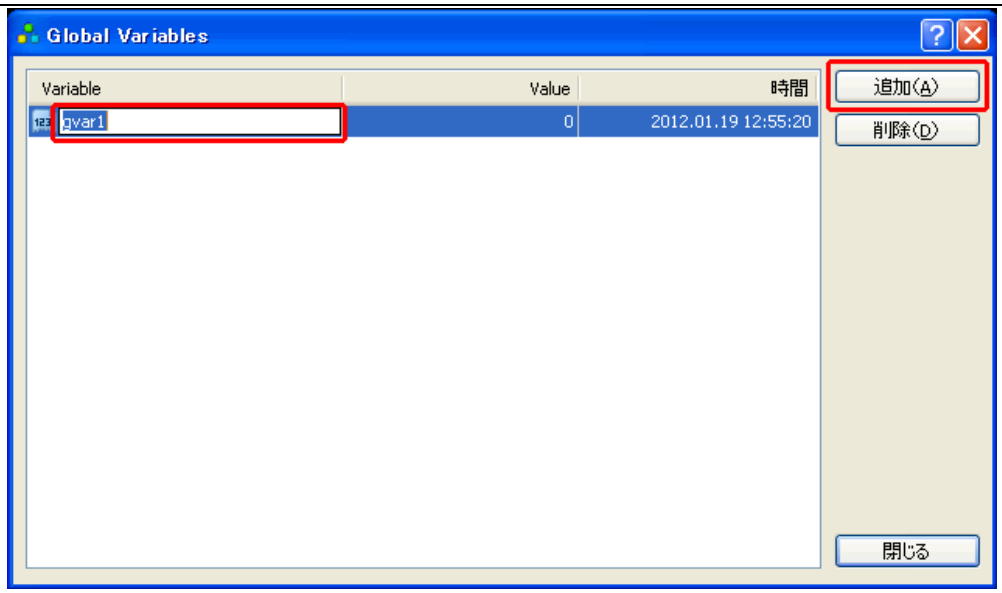
「ツール」メニューの「Global Variables」をクリックします。

2）Global Variables 初期表示



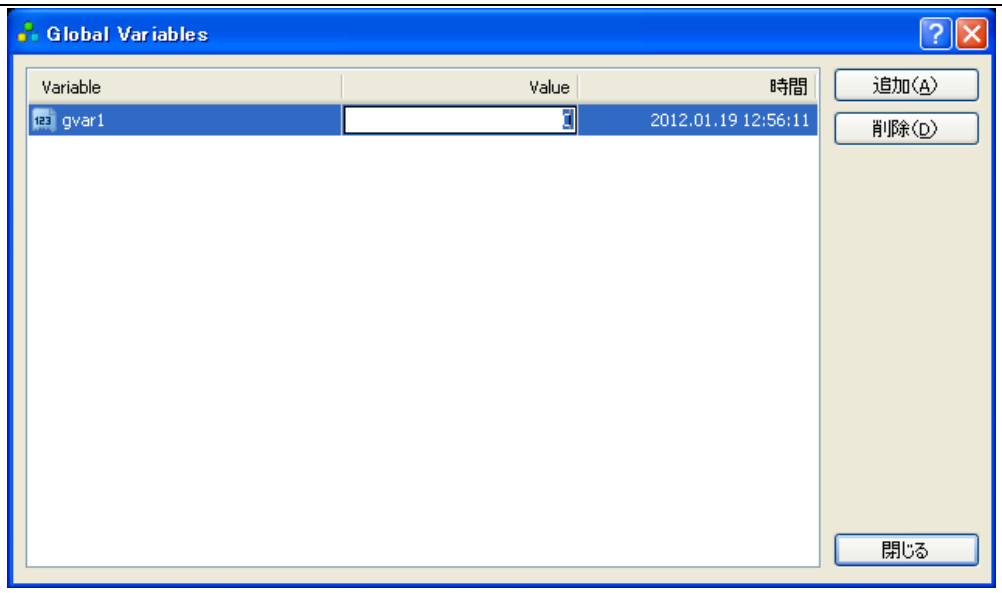
Global Variables のダイアログです。もしもグローバル変数を利用するツールを使っている場合、ここに変数名、値、参照された時間が表示されます。

3）グローバル変数の追加



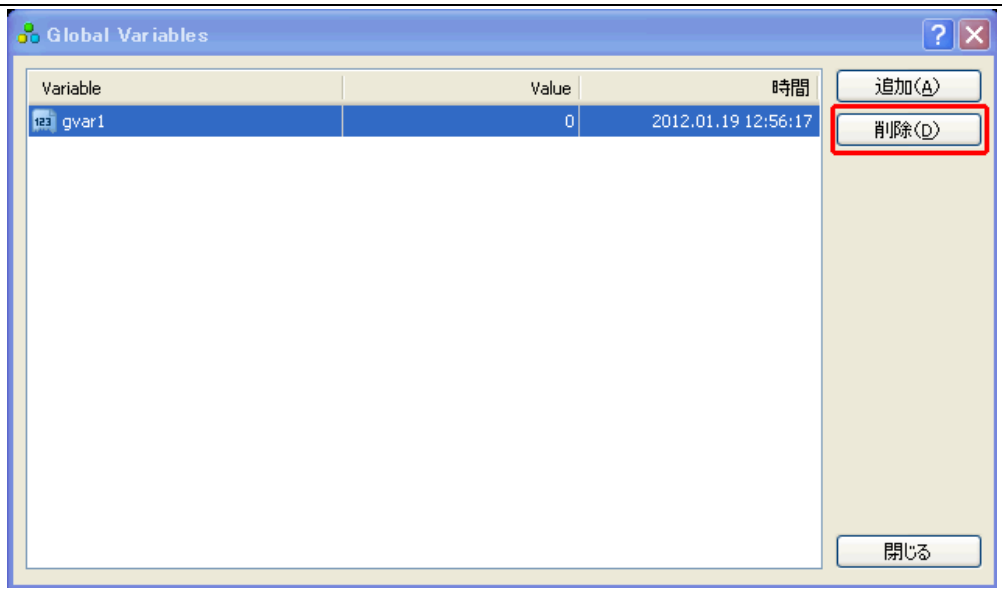
グローバル変数は自分で追加することもできます。「追加」アイコンをクリックすると新しい変数のエントリーができるので、「Variable」欄に変数名を入力します。

4）グローバル変数の編集



グローバル変数の値を変更したい場合、「Value」欄をダブルクリックして編集モードにすることで、値の上書きができます。

5）グローバル変数の削除



削除したい変数をクリックして選択状態にし、「削除」アイコンをクリックするとグローバル変数を削除できます。

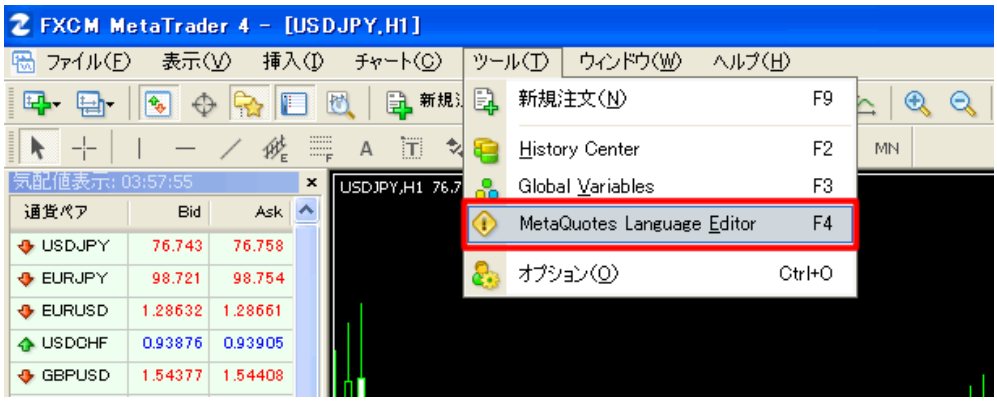
6-3　Meta Quotes Language Editor

MetaTrader 4 には様々な分析ツールがありますが、これらは自分で作成することも可能です。MQL でのプログラム作成をサポートするツールとして、「Meta Quotes Language Editor」(MQL エディタ)が標準搭載されています。

ツールを作成するには Meta Quotes Language(MQL)というプログラミング言語を使用します。標準で備わっている各種分析ツールも MQL を用いて記述されています。プログラミングの知識があれば、標準の分析ツールを改良して、より使いやすく改良することができます。

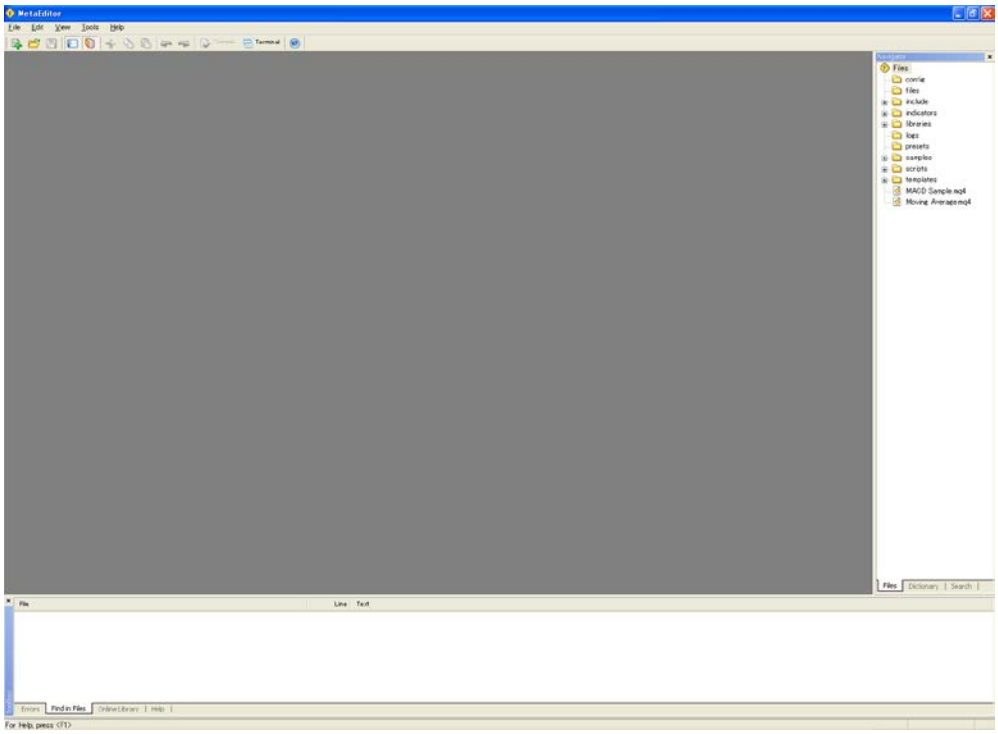
MetaTrader 4 の分析ツールは、世界中で作成され、インターネット上に公開されています。MQL エディタではこれら公開されたツールへアクセスし、ダウンロードして利用することが可能です。

1）MQL エディタを起動



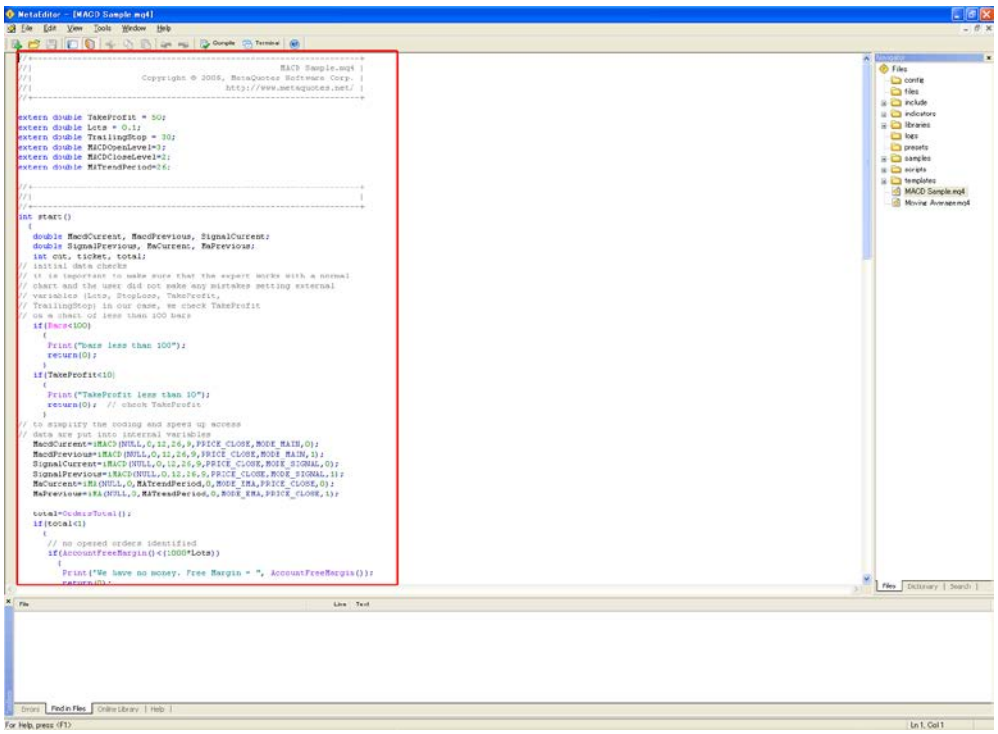
「ツール」メニューの「MetaQuotes Language Editor」を選択すると MQL エディタを起動することができます。

2）MQL エディタの初期状態



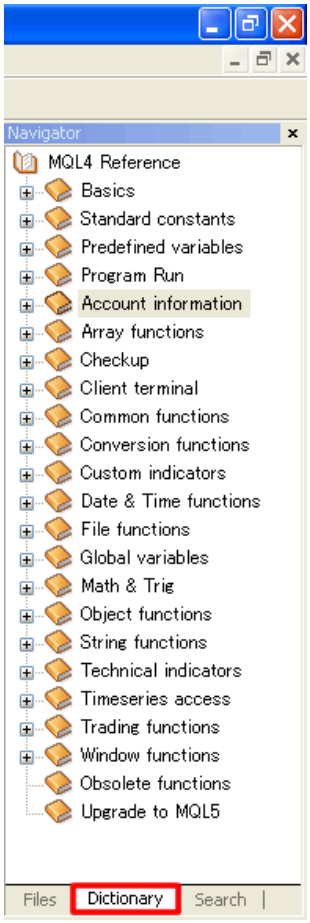
起動された直後の状態です。右側にナビゲーターウィンドウ、下部にツールボックスウィンドウが表示されています。左側には MQL で書かれたプログラムコードが表示されます。

3）サンプルコードの表示



サンプルで配布されているプログラムを開いたところです。ナビゲーターに表示されている「MACS sample.mq4」をダブルクリックすると、左側にプログラムコードが表示されます。

・ナビゲーター：MQL マニュアルの表示



右側のナビゲーターウィンドウで「Dictionary」タブを選択すると MQL に関するマニュアルの目次が表示されます。項目をクリックすると、下部のツールボックスウィンドウに内容が表示されます。

・Online Library：EA

MQL によるツールの開発は世界中で行われ、多数が公開されています。「Online Library」タブにはそれらのツールがリスト表示されています。これらはダウンロードして利用することができます。「Experts」には、Expert Advisor(EA)が表示されます。「indicators」でインジケーターを表示し、「Libraries」や「Articles」では様々な文献を読むことができます(英文)。

6-4　オプション

MetaTrader 4 には様々なオプションがあります。「オプション」メニューではこれらオプションの設定ができます。

オプションの中にはサービス提供会社／メール／FTP など各種サーバー接続の設定や、アラーム音の設定があります。

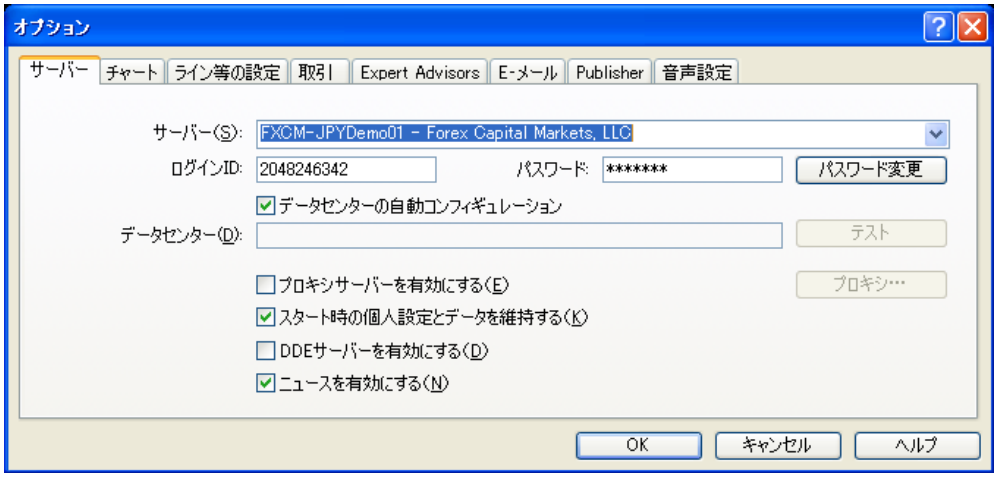
また、チャートやラインのデフォルト値の変更もできます。例えば、「ライン等の設定」タブで「作成後にプロパティーを表示する」を指定すると、ラインを追加する度にパラメーターダイアログが表示されます。ライン入力の度にパラメーターダイアログを呼び出す必要がなくなります。

オプションから設定変更することで、ユーザーの利用環境に応じたカスタマイズをすることが可能です。

・オプションを表示

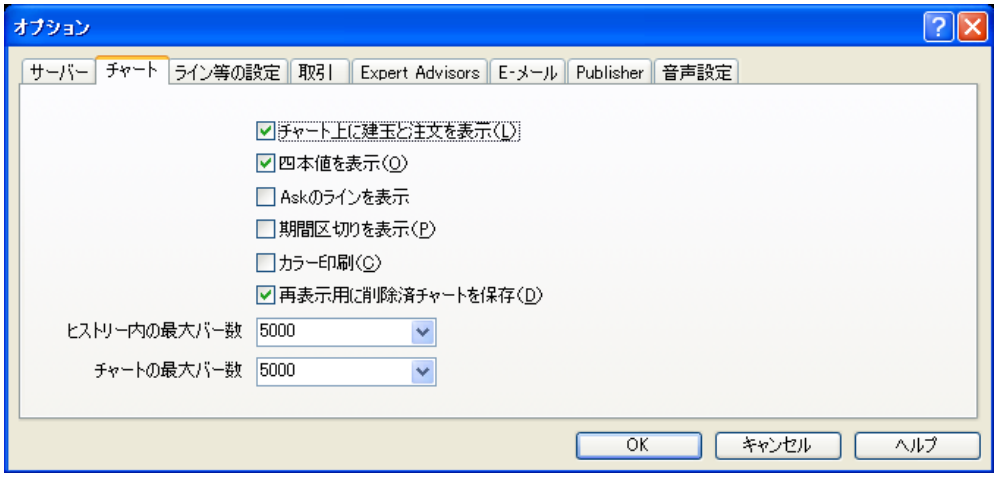
「ツール」メニューの「オプション」を選択するとオプションを設定するためのダイアログが表示されます。

・「サーバー」タブ



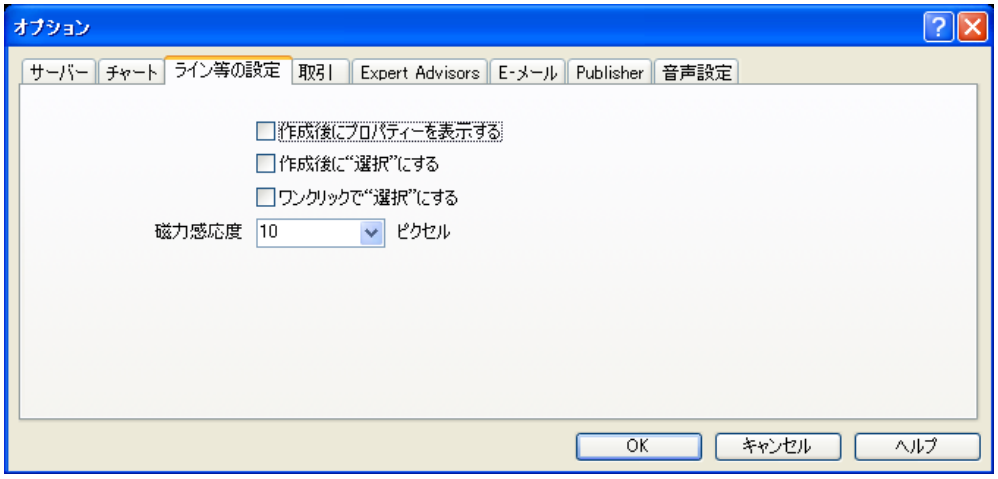
「サーバー」タブでは接続する先のサーバーやその時使用するアカウント、パスワードやその他オプションを設定します。

・「チャート」タブ



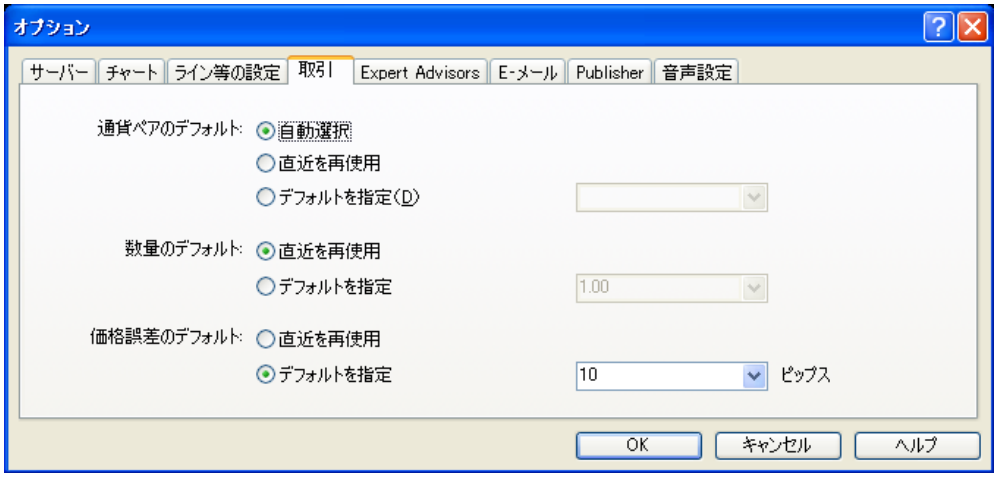
「チャート」タブではチャート表示の基本設定を行います。「Ask のラインを表示」をチェックすると、チャート上に Ask ラインが追加されます。「期間区切りを表示」を選択すると一定区間ごとに「ヒストリー内のバーの最大数」、「チャート表示バーの最大数」では直接数字を指定することも可能です。

・「ライン等の設定」タブ



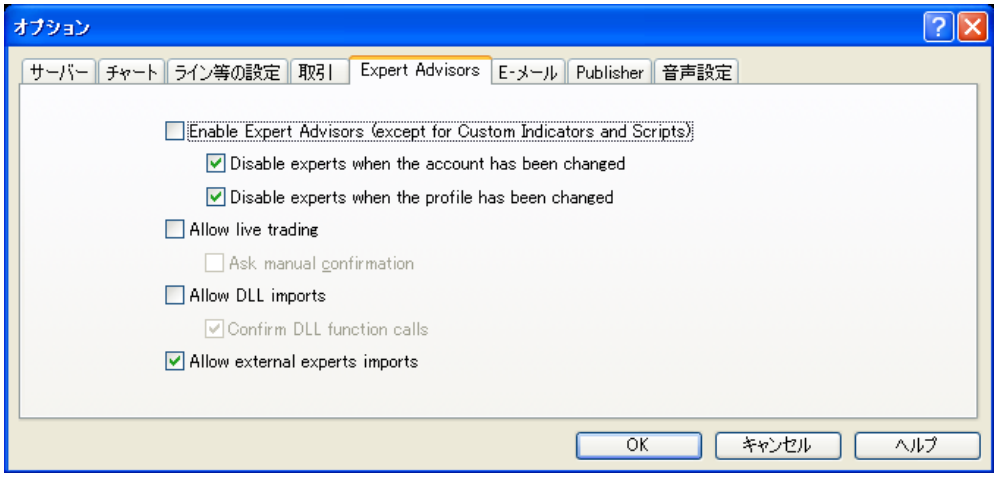
ラインに対する挙動を設定します。「作成後にプロパティーを表示する」にチェックを入れておくと、ラインを追加するたびに必ずプロパティー設定のダイアログが表示されるようになります。

・「取引」タブ



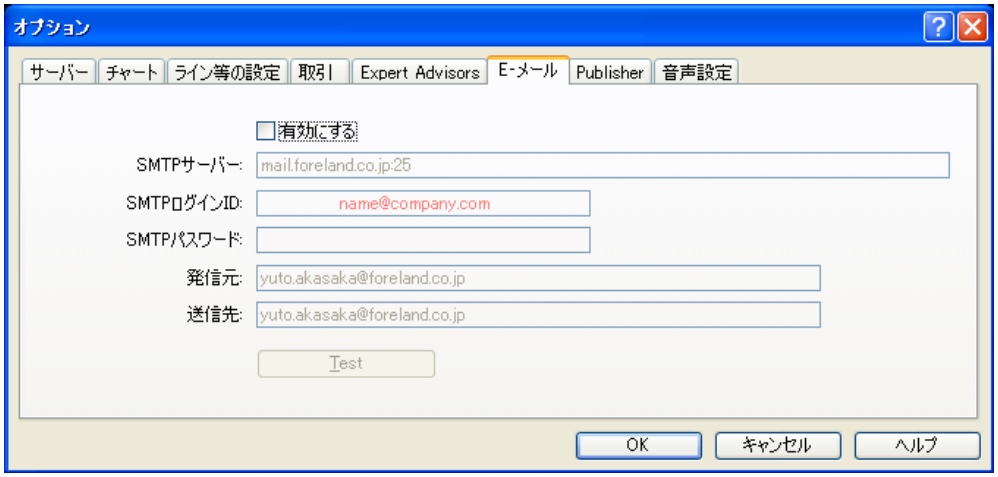
取引に関するオプションを設定します。ここで「デフォルトを指定」を選択すると、直近の取引に関係なく、設定した値がデフォルト値として使われるようになります。

・「Expert Advisors」タブ



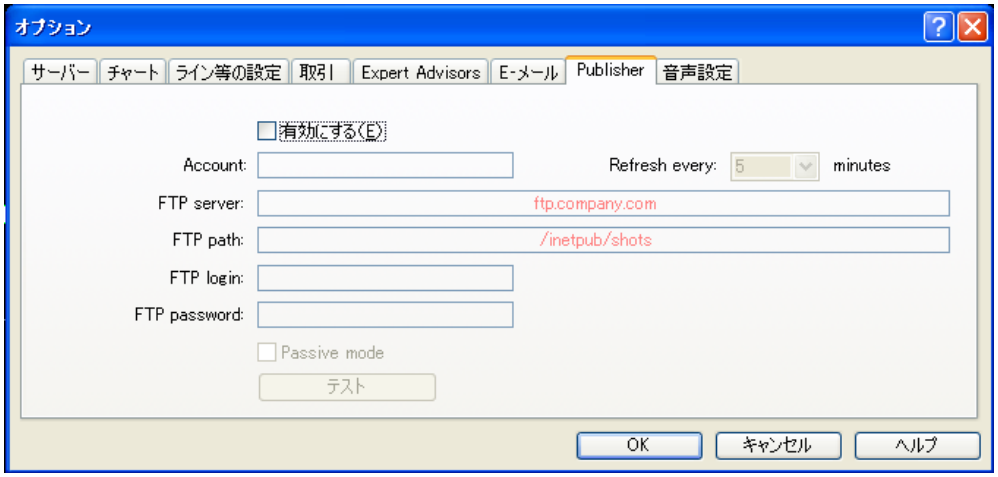
Expert Advisor(EA)の設定のタブです。「Enable Expert Advisors」をクリックすると、EA が有効になります。

・「E－メール」タブ



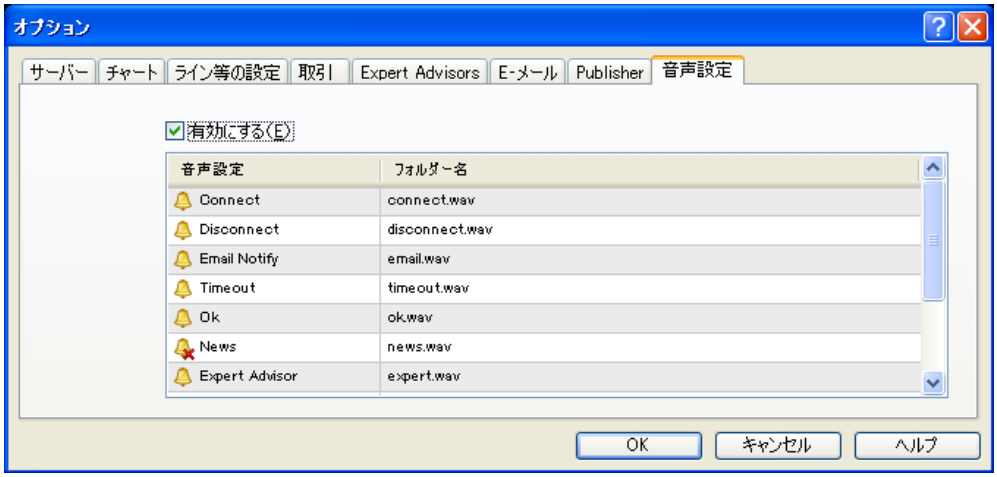
E-メール設定を行うと、MetaTrader 4 からメールを送信することが可能になります。分析ツールでアラートが出た際にメールを送信することができます。「SMTP サーバー」にサーバー名、「SMTP ログイン ID」、「SMTP パスワード」に ID とパスワードをそれぞれ入力します。「発信元」、「送信先」にはメールの送り主と送り先を指定します。送り先を携帯などにしておけば外出中にアラートメールを受け取ることも可能です。

・「Publisher」タブ



このタブは、売買履歴を FTP サーバー上へ自動でアップする場合等に使用します。「Account」にアカウント情報、「FTP server」に転送先サーバー名、「FTP Path」に転送先のパス、「FTP login」、「FTP password」へログイン ID とパスワードをそれぞれ入力します。「OK」を指定すると設定が有効になります。

・「音声設定」タブ

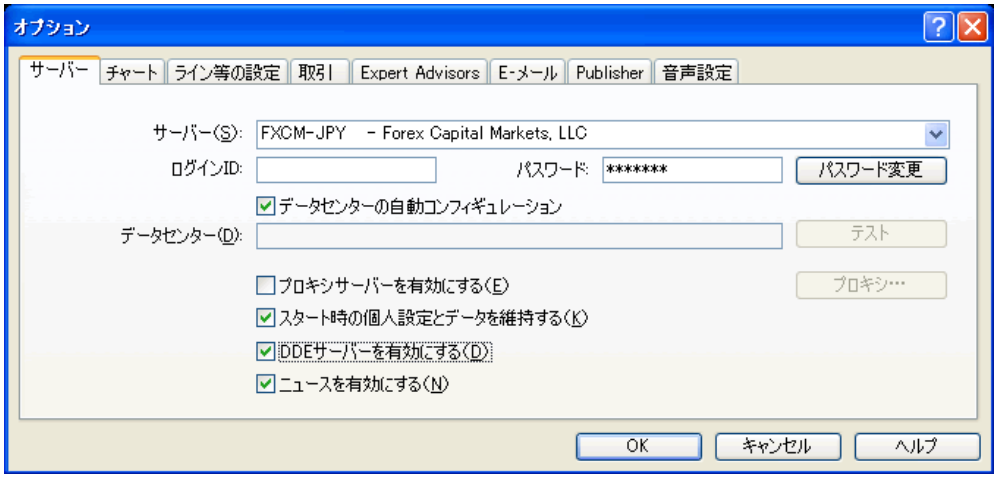


音声に関する設定が可能です。状況に応じて任意のアラーム音を設定できます。また「有効にする」のチェックをはずすと、アラーム音を出さない設定が可能です。

6-4-1　FXCM MetaTrader4 から、Microsoft excel へのリアルタイムエクスポート

MetaTrader4 では、DDE サーバー機能を有効にすることで、値動きをリアルタイムに Excel へエクスポートすることができます。

・DDE サーバーを有効にする



オプションから、「DDE サーバーを有効にする」のチェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックします。

Excel から起動した MetaTrader4 のデータを参照する場合には、以下の命令文を使用します。

BID	request:	= MT4|BID!USDCHF
ASK	request:	= MT4|ASK!USDCHF
HIGH	request:	= MT4|HIGH!USDCHF
LOW	request:	= MT4|LOW!USDCHF
TIME	request:	= MT4|TIME!USDCHF
QUOTE	request:	= MT4|QUOTE!USDCHF

※「USDCHF」(USD/CHF)部分は、任意の通貨ペアに置換えて使用します。

7　Expert Advisor　テスターウィンドウと稼動／停止

MetaTrader4 には Expert Advisor(以下 EA)を用いたシステム売買機能があり、この機能を使用すると、EA が市場動向を分析し、プログラムされた指示に従い取引を行います。

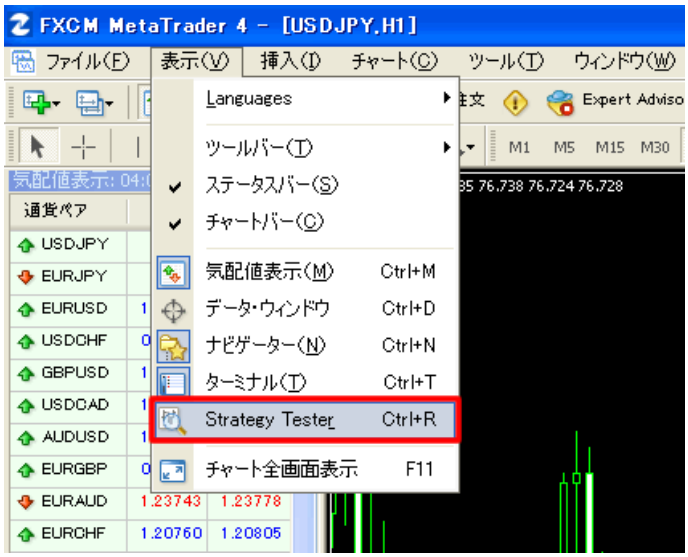
MetaTrader4 には過去の為替市場のデータを用いて EA の取引成績をテストする機能があります。テストは「テスター」ウィンドウで行います。

テスターウィンドウでは、テストしたい EA や通貨ペア、期間などを指定できます。結果は一覧とグラフの両方で表示され、どれだけの収支となったかをチェックし、EA プログラミングの改善に役立てることができます。

また EA が使用する各パラメーターを、テスターが徐々に変化させていって、それぞれの値でのテスト結果を自動でまとめて表示する機能(Optimization）も備わっています。これを利用すると EA システム売買プログラムのパラメーター調整の作業負荷を減らし、調整結果を簡単に得ることができます。

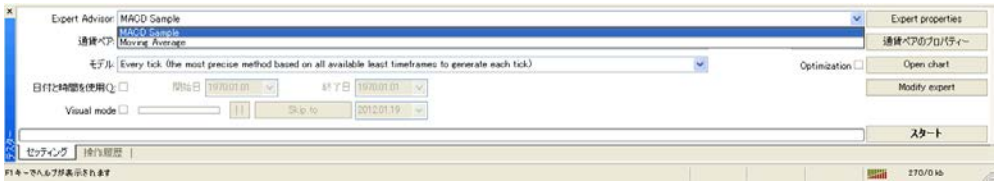
EA の実際の稼動はツールバーのアイコンから操作できます。また、EA 構築方法については本マニュアルでは触れていないため、別途 EA のプログラミング言語「MQL」のリファレンスをご利用ください。

1）テスターを表示



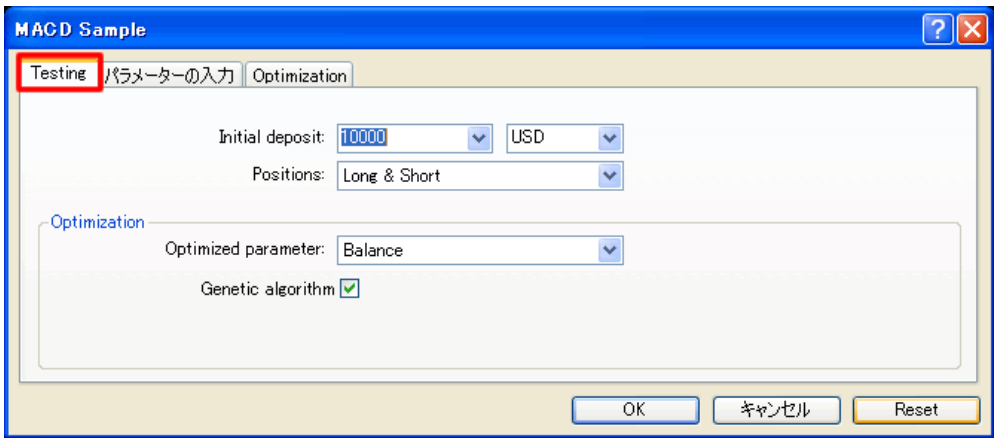
「表示」メニューの「Strategy Tester」を選択するとテスターウィンドウが開きます。

2）「テスター」ウィンドウ



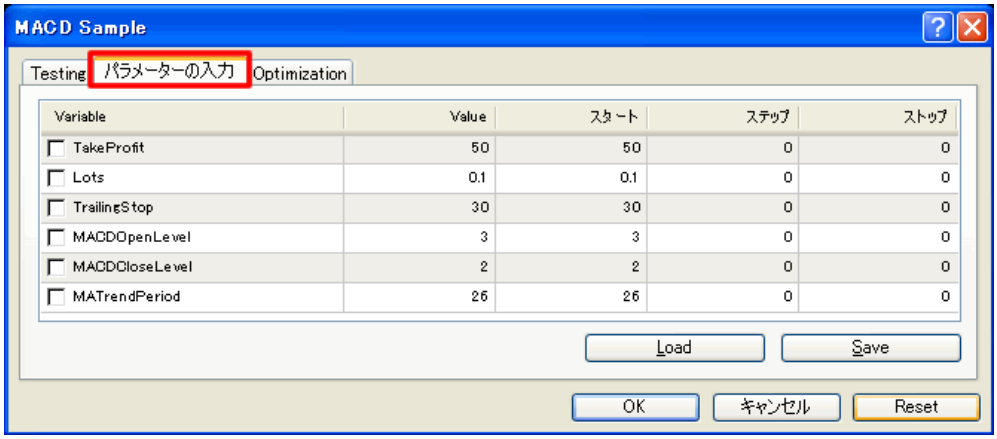
画面下部にテスターウィンドウが表示されます。「セッティング」タブのプルダウンからテストしたい EA、通貨ペア、期間、モデルを選択できます。また日付を直接指定することもできます。

3）EA 詳細設定「Testing」タブ



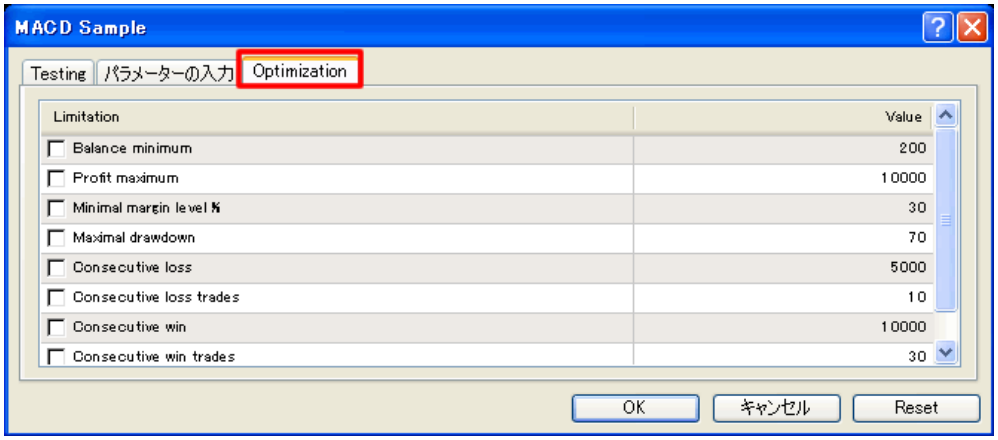
テスターウィンドウで「Expert Properties」を選択すると、テスト対象の EA の詳細設定を行うことができます。設定できる内容は EA ごとに異なります。図はサンプルで配布されている EA「MACD Sample」の詳細設定です。Initial deposit で初期保証金、Positions で「売りのみ」「買いのみ」「売り買い」の選択をすることができます。

4）EA 詳細設定「パラメーターの入力」タブ



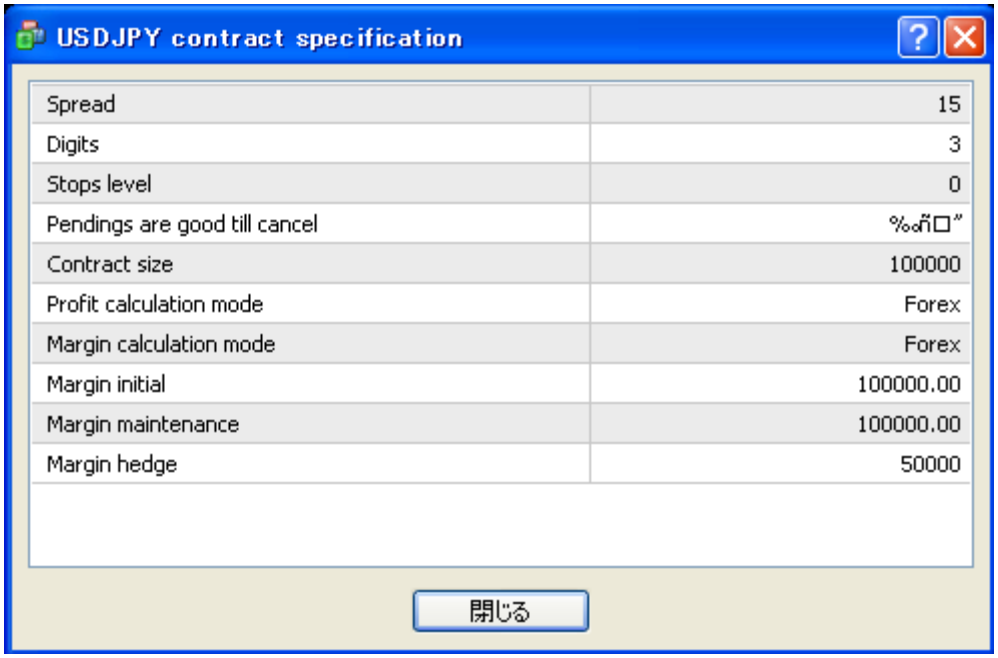
テスト対象の EA に与えるパラメーターを最適化する場合に使用します。EA ごとに異なりますので、EA の仕様書を参考にしてください。図はサンプル配布 EA「MACD Sample」のものです。

5）EA 詳細設定「Optimization」タブ



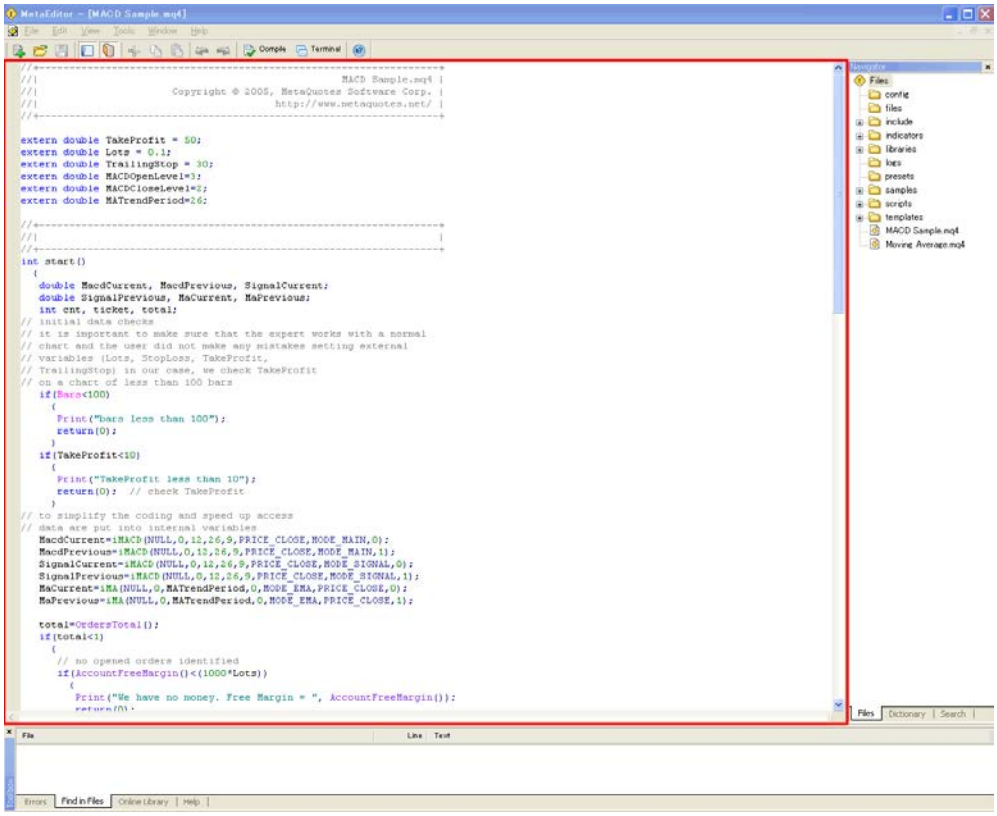
テスト対象 EA の動作に制限を加え、最適化することができます。利益の量や損失許容レベルなどの設定ができます。

6）「通貨ペアのプロパティー」選択時



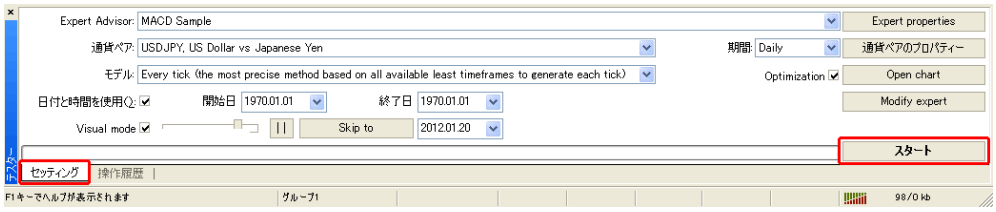
テスト対象の通貨ペアのプロパティーが別ウィンドウで表示されます。

7）「Modify expert」選択時



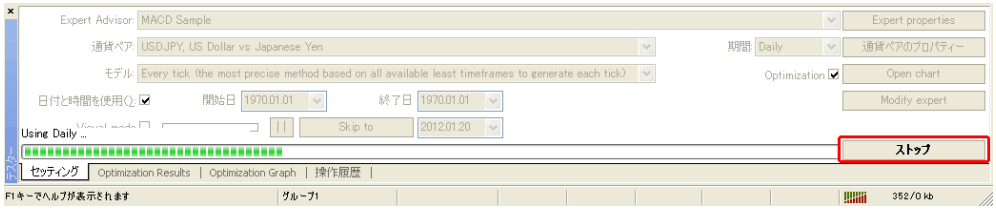
テスターウィンドウの「Modify expert」を選択すると、Meta Editor4 が起動され、テスト対象の EA のプログラムソースが表示されます。ここで EA のプログラムそのものを修正することができます。

8）EA のテスト開始



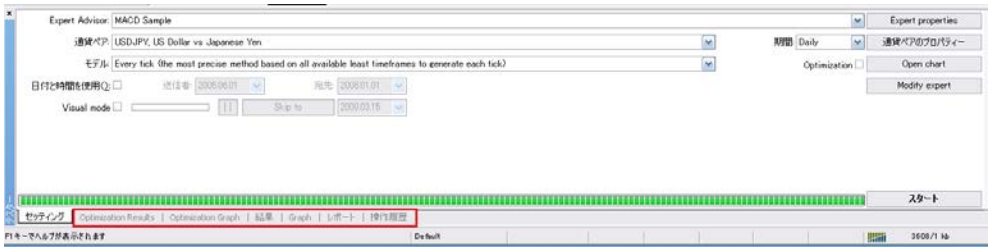
「スタート」を選択すると、テストが実行されます。

9）テスト実行中



テスト実行中は経過が表示されます。中止する場合は「ストップ」を選択します。

１０）テスト完了

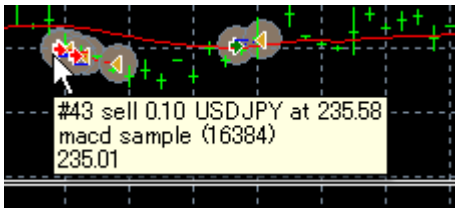


テストが完了すると、テスターウィンドウに「結果」「グラフ」「レポート」「操作履歴」「Optimization Results」「Optimization Graph」が追加されます。

１１）「Open Chart」選択時

テストした対象のチャートが画面上部に表示されます。図は「MACD Sample」のものです。チャート上には EA がシステム売買したタイミングがわかるようになっています。右側を向いた矢印のうち、青が買い、赤が売り、左側を向いた黄色の三角のしるしが売買のクローズタイミングになります。各ポイントにカーソルを載せると、売り買いの値がポップアップで表示されます。

１２）売りタイミングの表示例



赤い矢印へカーソルをあわせるとこのようなメッセージが表示されます。これは「取引番号 43、0.10 通貨単位を 235.58 で売った」という意味です。取引番号の内容は、テスターウィンドウの「結果」タブで詳細に見られます。

１３）買いタイミングの表示例

青い矢印へカーソルをあわせるとこのようなメッセージが表示されます。これは「取引番号 46、0.10 通貨単位を 235.64 で買った」という意味です。取引番号の内容は、テスターウィンドウの「結果」タブで詳細に見られます。

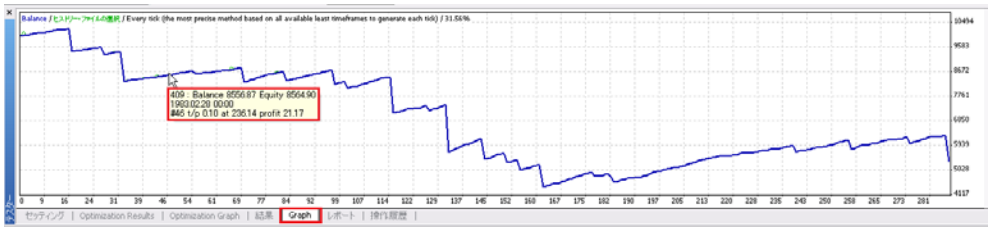
１４）クローズタイミングの表示例

黄色の三角形へカーソルをあわせるとこのようなメッセージが表示されます。これは「取引番号 46、236.14 での買い取引を 235.64 で手仕舞った」という意味です。取引の詳細は、テスターウィンドウの「結果」タブで確認できます。

１５）「結果」タブ

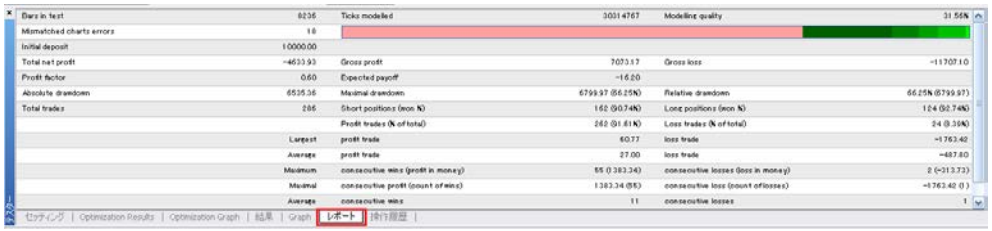
テスターウィンドウの「結果」タブでは、EA の動作の結果を詳細にみることができます。チャート上の「取引番号」は、結果タブの「注文番号」にあたります。このタブの「時間」は動作したタイミングです。「取引種別」は動作の内容で、"Buy"と"Sell"は売りと買い、"close"は一致する「注文番号」の決済を意味します。また、「損益」は該当する決済注文で確定した損益、「Balance(決済残高)」にはその時点での収支が表示されます。

１６）「Graph」タブ



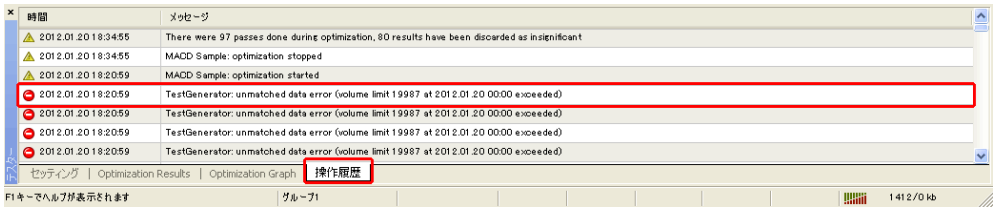
EA 取引の収支結果をグラフで表示します。図は「MACD Sample」のものです。横軸には「注文番号」、縦軸が「収支」です。グラフ上にカーソルをあわせると、その時点の情報が表示されます。

１７）「レポート」タブ



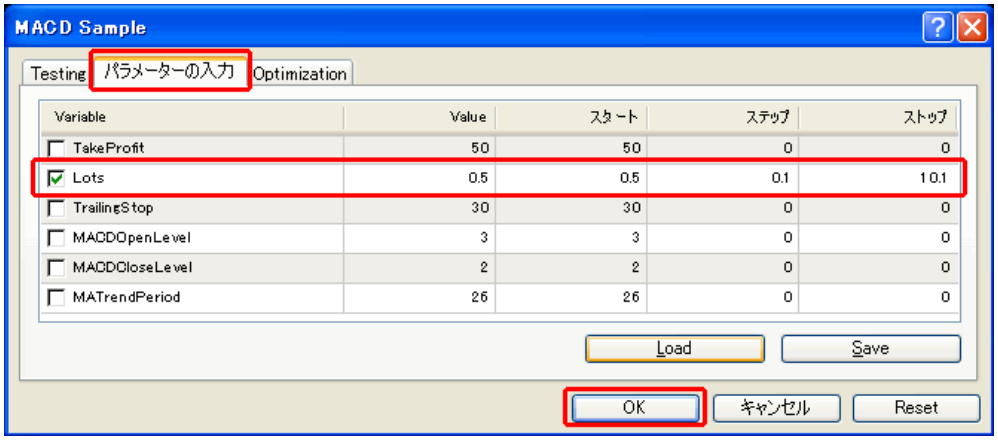
EA の取引結果のまとめがレポートで表示され、初期投入量(Initial deposit)、総正味利益(Total net profit)、利益総量(Gross profit)、損失総量(Gross loss)、PF 値(Profit factor)などが確認できます。これらを参考に、EA をカスタマイズ（最適化）していきます。

１８）「操作履歴」タブ



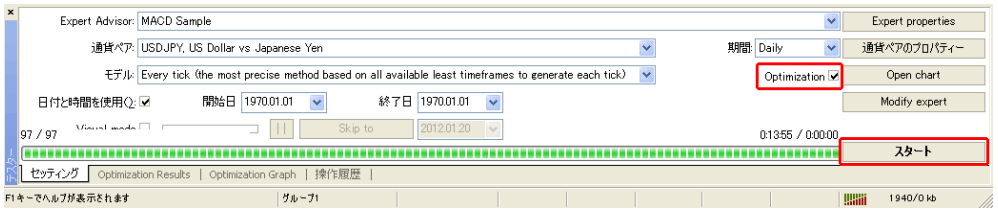
EA の動作の機械的なログファイルです。EA のバグチェックなどに利用できます。エラーがあると赤いマークとともにこちらに表示されます。

１９）「Optimization」の準備



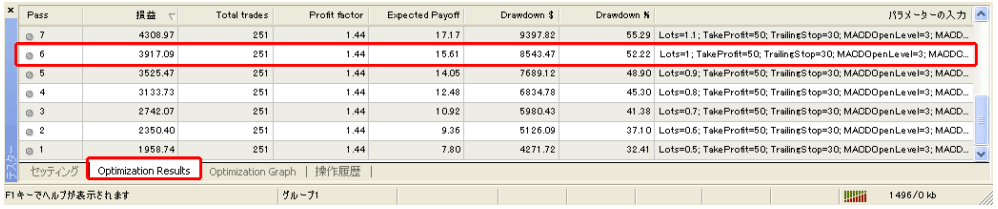
EA はパラメーターを変更することで結果が変わります。テスターには自動的にパラメーターを変化させて、パラメーターの最適化結果を簡単にチェックできる機能「Optimization」があります。たとえばサンプル EA「MACD Sample」で一回の取引量(Lots)を変化させた際、その変更が結果に及ぼす影響を確認するには、「Expert properties」を選択し、「パラメーターの入力」タブを表示して「Lots」をチェックし、変化させる量を入力します。図では「0.5 から始めて 0.1 ずつ増加させる」よう指示しています。

２０）「Optimization」実行



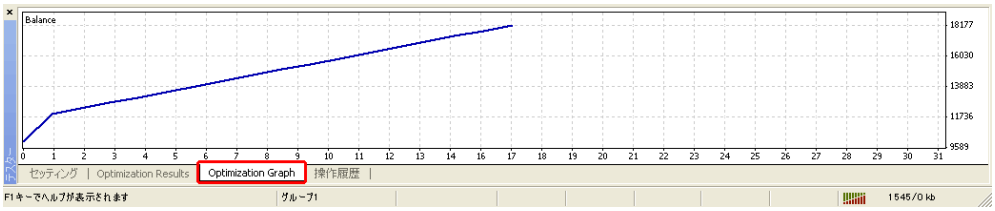
テストの開始前に「Optimization」をチェックすると、指示した通りにパラメーターを変化させ、何度もテストを実行してそれぞれの結果を出力します。こうすることで、何度もパラメーターを変化させるようなテスト作業を簡略化することができます。

２１）「Optimization Results」タブ



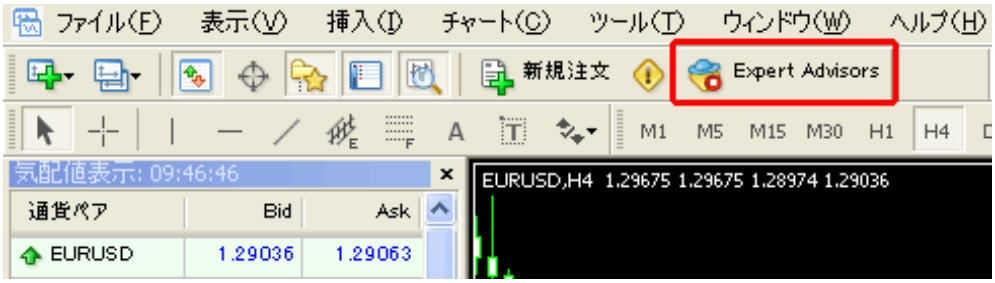
Optimization 機能を利用した結果がこのタブに表示されます。図の例では取引量(Lots)を変化させたときの結果を順に表示しています。「パラメーターの入力」欄に、テストで使われたパラメーターが表示されています。図では、たとえば Lots が 1 単位の場合は、6 パス目(6 回目)に表示されています。

２２）「Optimization Graph」タブ



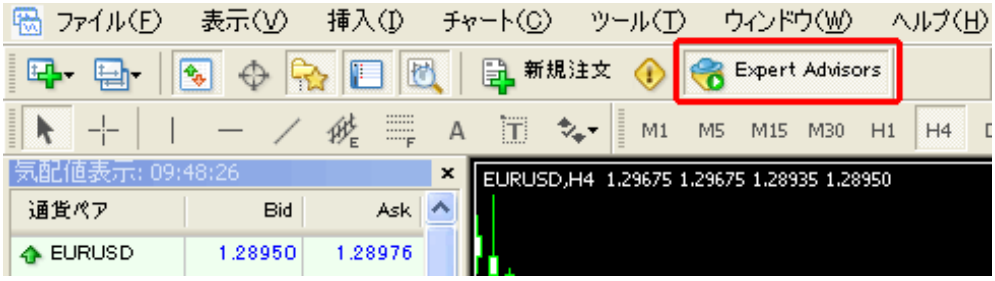
Optimization 機能のパス毎の結果をグラフ表示したものです。横軸がテスト回数(パス回数)、縦軸が収支結果となっています。

２３）EA を実際に稼動させる



EA を稼動させるには、ツールバーの「Expert Advisors」アイコンをクリックしてください。

２４）EA の稼動を停止する



稼動中の EA を停止するには、再度「Expert Advisors」アイコンをクリックしてください。